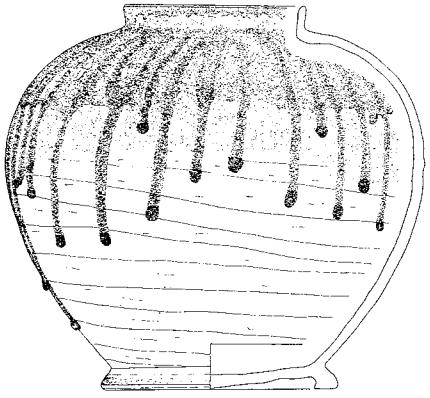
ISSN 0913-8374

# 市原市文化財センター年報

昭和63年度



財団法人 市原市文化財センター

# 序

昭和47年度から調査会により実施しておりました国分寺台遺跡群の調査は、昭和60年度から市原市文化財センターが発掘調査を引き継ぎ実施してまいりましたが、その調査も昭和63年度をもって終了し、国分寺台遺跡群から出土した膨大な遺跡・遺物類の整理報告作業が今後の大きな課題として残されております。

さて、当センターが実施した昭和63年度の事業は、国分寺台遺跡群の上総国分尼寺跡をはじめ確認調査12、本調査13、整理13の計38件の事業であります。これらの中では、潤井戸小谷１号墳・根田遺跡・北旭台遺跡等の調査において注目される成果を上げることができました。

先ず、潤井戸小谷１号墳は、全長約45ｍの規模を有する前方後円墳で、前方部側で50体、後円部側で10体の計60体の円筒埴輪が検出され、類例の稀な東京湾東岸地域の埴輪研究に新たな資料を得ることができました。

根田遺跡は、昭和60年度の調査時に、素環頭大刀や銅釧が出土した根田遺跡に隣接する遺跡で国分寺台造成地の一角を占めていますが、今回の調査では、竪穴住居跡30軒及び４基の古墳等が検出され、口径約12㎝、高さ約25㎝の灰釉短頸壺が無傷の状態で出土したことが特筆されます。また、北旭台遺跡の調査では、県下では初めて全国的にも出土例の稀少な有鉤銅釧が出土し話題を集めました。

これらの調査成果につきましては、第４回の遺跡発表会において市民の方々に公表し、当日は「貝塚のはなし」と題して早稲田大学の金子浩昌先生にご講演をお願いして、全国的な規模でのお話もうかがうことができました。また、発掘調査現場での遺跡見学会を８月と11月に六孫王原遺跡と上総国分尼寺跡において開催し、多くの方々が参加し好評を得ております。今後も研究・普及活動を通じ、埋蔵文化財が市民の身近な存在となるよう努力を重ねてまいる所存でございます。

最後に、日頃よりご指導・ご協力を賜っております千葉県教育委員会、市原市教育委員会をはじめとする関係各位に対し、厚く御礼申し上げます。

平成６年３月31日

財団法人　市原市文化財センター
理事長　植草　久善

# 目　　次

序
Ⅰ　昭和63年度の機構 …… 1
Ⅱ　昭和63年度事業概要 …… 2
Ⅲ　昭和63年度調査概要 …… 7
1．大廐弁天台遺跡 …… 9
2．雲ノ境遺跡 …… 12
3．大廐細野遺跡 …… 14
4．白船城跡遺跡（3次） …… 24
5．白船城跡遺跡（4次） …… 26
6．潤井戸居鞍遺跡 …… 27
7．潤井戸天王台遺跡（2次） …… 29
8．潤井戸小谷1号墳 …… 30
9．定堀込遺跡 …… 33
10．郡本大宮遺跡 …… 35
11．能満下小貝塚遺跡 …… 37
12．根田（辺田・御林跡）遺跡 …… 45
13．史跡上総国分尼寺跡 …… 50
14．諏訪台遺跡 …… 53
15．小田部向原遺跡 …… 57
16．犬成桜の木台遺跡 …… 64
17．奈良大仏台遺跡 …… 68
18．松ヶ島藏ノ下遺跡 …… 69
19．青柳塚群 …… 71
20～21．海保中谷遺跡・柏原遺跡群 …… 73
22．六孫王原遺跡（A・B区） …… 74
23．六孫王原遺跡（D区） …… 77
24．新生荻原野遺跡（A区・一本松塚） …… 79
25．大坪永隅遺跡 …… 81
26．福増山ノ神遺跡 …… 82
27．北旭台遺跡 …… 84
28．川在南障子遺跡 …… 87
Ⅳ　昭和63年度　受贈図書一覧 …… 89

# Ⅰ　昭和63年度の機構

昭和63年度の市原市文化財センターの機構は、役員・職員で構成されている。役員は、寄附行為の定めにより、理事長、副理事長、常務理事、監事をもって構成され、職員は、事務職員６名（内派遣職員１名）・技術職員12名（内派遣職員10名）であり、その組織及び氏名などは下表のとおりである。

(1)　組　　織

役　員

理事長
副理事長
常務理事
理　事
監　事

職　員

庶務課　　課長　主事補　事務員（嘱託）

調査課　　課長　主幹　主任調査研究員　調査研究員
調査研究員（嘱託）事務員（嘱託）

(2)　役　　員

| 職　名 | 役　職　名 | 氏　　名 |
|---|---|---|
| 理事長 | 教育委員会教育長 | 星野一郎 |
| 副理事長 | 教育委員会指導部長 | 大野義規 |
| 常務理事 | 専　　任 | 須田昇三 |
| 理　事 | 早稲田大学名誉教授 | 滝口　宏 |
| 理　事 | 和洋女子大学教授 | 寺村光晴 |
| 理　事 | 姉崎神社宮司 | 海上信久 |

| 職　名 | 役　職　名 | 氏　　名 |
|---|---|---|
| 理　事 | 市原市企画部長 | 根本正夫 |
| 理　事 | 市原市総務部長 | 宮崎芳雄 |
| 理　事 | 市原市都市部長 | 地引希壹 |
| 理　事 | 市原市財務部財務課長 | 安藤隆一 |
| 監　事 | 市原市会計課長 | 元吉末喜 |
| 監　事 | 市原市教育委員会総務課長 | 河野徳三 |

(3)　職　　員

| 所　属 | 職　　名 | 氏　　名 |
|---|---|---|
| 庶務課 | 課　　長 | 田丸萬富 |
| 庶務課 | 主　事　補 | 大鐘光江 |
| 庶務課 | 事　務　員(嘱託) | 秋田晴美 |
| 庶務課 | 事　務　員(嘱託) | 石渡あゆみ |
| 調査課 | 課　　長 | 石田広美 |
| 調査課 | 主　　幹 | 加藤正信 |
| 調査課 | 主任調査研究員 | 宮本敬一 |
| 調査課 | 主任調査研究員 | 田中清美 |
| 調査課 | 調査研究員 | 浅利幸一 |

| 所　属 | 職　　名 | 氏　　名 |
|---|---|---|
| 調査課 | 調査研究員 | 大村　直 |
| 調査課 | 調査研究員 | 近藤　敏 |
| 調査課 | 調査研究員 | 高橋康男 |
| 調査課 | 調査研究員 | 田所　真 |
| 調査課 | 調査研究員 | 木對和紀 |
| 調査課 | 調査研究員(嘱託) | 田中新史 |
| 調査課 | 調査研究員(嘱託) | 半田堅三 |
| 調査課 | 事　務　員(嘱託) | 高浦貞子 |
| 調査課 | 事　務　員(嘱託) | 田中裕子 |

## Ⅱ　昭和63年度の事業概要

(1)　理事会の開催

①　第１回理事会　昭和63年４月15日

議案第１号　財団法人市原市文化財センター　寄附行為の一部改正について

②　第２回理事会　昭和63年５月30日

議案第１号　昭和62事業年度　財団法人市原市文化財センター事業報告について

議案第２号　昭和62事業年度　財団法人市原市文化財センター収入支出決算について

③　第３回理事会　昭和63年11月28日

議案第１号　昭和63事業年度　財団法人市原市文化財センター事業計画の変更について

議案第２号　昭和63事業年度　財団法人市原市文化財センター補正予算（第１号）について

④　第４回理事会　平成元年３月29日

議案第１号　昭和63事業年度　財団法人市原市文化財センター事業計画の変更について

議案第２号　昭和63事業年度　財団法人市原市文化財センター補正予算（第２号）について

議案第３号　平成１事業年度　財団法人市原市文化財センター事業計画について

議案第４号　平成１事業年度　財団法人市原市文化財センター収入支出予算について

議案第５号　財団法人市原市文化財センター諸規程の一部改正について

(2)　会計監査

昭和63年度の会計監査は、平成元年５月26日財団法人市原市文化財センター事務所において、佐久間 章・小宮 仁両監事により実施された。

(3)　昭和63年事業年度受託事業

（単位：円）

| 番号 | 継続又は新規 | 事業名 | 委託者 | 遺跡名 | 種別 | 面積・数量 | 事業内容 | 契約年月日 | 終了年月日 | 委託料精算金額 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 新規 | 市道233号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査 | 市原市（道路建設課） | 犬成桜の木台 | 包蔵地 | 285㎡ | 確認調査 | 昭和63年10月31日 | 平成元年３月31日 | 2,362,000 | |
| 2－a<br>2－b | 新規 | 市道52号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査 | 市原市（道路建設課） | 川在南障子 | 包蔵地<br>集落跡 | 1,130㎡<br>2,000㎡ | 確認調査<br>本調査 | 昭和63年４月１日<br>昭和63年５月16日 | 平成元年３月31日<br>平成元年３月31日 | 8,054,000<br>8,856,000 | |
| 3 | 新規 | 青柳特定土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査 | 青柳土地区画整理組合 | 青柳塚群 | 塚 | 塚７基 | 本調査 | 昭和63年10月12日 | 平成元年３月31日 | 23,775,000 | |

（単位：円）

| 番号 | 継続又は新規 | 事業名 | 委託者 | 遺跡名 | 種別 | 面積・数量 | 事業内容 | 契約年月日 | 終了年月日 | 委託料精算金額 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4 | 新規 | 史跡上総国分尼寺跡環境整備事業 | 市原市（文化課） | 史跡上総国分尼寺跡 | 寺院跡 | 615㎡ | 確認調査 | 昭和63年9月19日 | 平成元年3月31日 | 12,500,000 | |
| 5 | 新規 | 市内遺跡群調査に伴う埋蔵文化財調査 | 市原市（文化課） | 福増山ノ神他3遺跡 | 集落跡城跡 | 2,590㎡ | 確認調査 | 昭和63年5月6日 | 平成元年3月31日 | 6,500,000 | |
| 6－1<br>6－2 | 新規 | 不特定遺跡調査に伴う埋蔵文化財調査 | 市原市（文化課） | 小田部向原<br>郡本大宮 | 包蔵地 | 200㎡<br>500㎡ | 確認調査 | 昭和63年6月1日<br>昭和63年10月20日 | 平成元年3月31日<br>平成元年3月31日 | 3,300,000<br>1,700,000 | |
| 7－a<br>7－b | 新規 | マンション建設に伴う埋蔵文化財調査 | ダイア建設株式会社 | 姉崎<br>六孫王原 | 包蔵地 | 1,500㎡<br>9,500㎡ | 確認調査<br>本調査 | 昭和63年4月1日<br>昭和63年5月2日 | 平成元年3月31日<br>平成元年3月31日 | 3,958,000<br>31,709,000 | |
| 7－c | 新規 | マンション建設に伴う埋蔵文化財調査（D地区） | 〃 | 〃 | 包蔵地 | 855㎡ | 確認調査 | 昭和63年6月30日 | 平成元年3月31日 | 2,461,000 | |
| 8 | 継続 | 住宅建設（大厩地区）に伴う埋蔵文化財調査 | 辰巳鉄工株式会社 | 大厩弁天台 | 古墳・溝 | 古墳1基<br>1,200㎡ | 本調査<br>整理<br>報告書 | 昭和63年4月1日 | 平成元年3月31日 | 3,084,000 | |
| 9 | 継続 | 国分寺台土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査(1) | 市原市（文化課） | 諏訪台<br>根田 | 古墳集落跡 | 7,100㎡ | 本調査 | 昭和63年4月1日 | 昭和63年12月28日 | 33,449,552 | |
| 10 | 継続 | 都市計画道路草刈・西広線建設に伴う埋蔵文化財調査(1) | 市原市（街路課） | 潤井戸居敷 | 古墳散布地 | 古墳3基<br>2,000㎡ | 本調査 | 昭和63年1月13日 | 昭和63年6月30日 | 10,377,665 | |
| 11 | 継続 | 文化施設建設に伴う埋蔵文化財調査 | 市原市（文化課） | 能満千草山<br>東千草山 | 集落跡ほか | 17,400㎡ | 整理<br>報告書刊行 | 昭和63年4月1日 | 平成元年3月31日 | 11,000,000 | |
| 12－a | 継続 | 農業公社牧場設置事業（草地造成）に伴う埋蔵文化財事業 | 社団法人千葉県農業開発公社 | 葉木文作 | 集落跡 | 13,875㎡ | 整理<br>報告書刊行 | 昭和63年7月1日 | 平成元年3月31日 | 12,750,000 | |
| 12－b | 継続 | 草地造成に係る重要遺跡緊急調査 | 市原市（文化課） | 葉木文作 | 集落跡 | 4,625㎡ | 整理<br>報告書刊行 | 昭和63年7月1日 | 平成元年3月31日 | 3,350,000 | |
| 13－a | 継続 | 県営ほ場整備事業（加茂地区）に伴う埋蔵文化財調査 | 千葉県市原土地改良事務所 | 永田・不入 | 須恵器窯跡 | 2,175㎡ | 整理<br>報告書刊行 | 昭和63年5月31日 | 平成元年3月31日 | 3,900,000 | |
| 13－b | 継続 | 農業基盤整備事業に係る埋蔵文化財調査 | 市原市（文化課） | 永田・不入 | 須恵器窯跡 | 725㎡ | 整理<br>報告書刊行 | 昭和63年5月31日 | 平成元年3月25日 | 1,150,000 | |
| 14 | 新規 | 不特定遺跡調査に伴う埋蔵文化財調査 | 市原市（文化課） | 高坂棒ヶ谷他7遺跡 | 集落跡古墳ほか | 3,000㎡他 | 整理<br>報告書刊行 | 平成元年2月1日 | 平成元年3月31日 | 5,000,000 | |
| 15 | 継続 | 都市計画道路君塚・小田部線建設に伴う埋蔵文化財調査 | 市原市（街路課） | 山田橋表道 | 古代道跡<br>集落跡 | 5,000㎡ | 整理<br>報告書刊行 | 昭和63年9月30日 | 平成元年3月31日 | 4,500,000 | |
| 16 | 継続 | 市原ゴルフ倶楽部増設に伴う埋蔵文化財調査 | サンヨー食品株式会社 | 奉免上原台 | 集落跡古墳ほか | 69,700㎡ | 整理 | 昭和63年8月29日 | 平成元年3月31日 | 16,016,000 | |
| 17 | 新規 | 都市計画道路草刈・西広線建設に伴う埋蔵文化財調査(2) | 市原市（街路課） | 潤井戸<br>天王台 | 散布地 | 1,600㎡ | 本調査 | 昭和63年4月1日 | 平成元年3月31日 | 3,384,000 | |
| 18 | 新規 | 産業廃棄物処理施設建設に伴う埋蔵文化財調査 | 株式会社城装 | 福増山ノ神 | 集落跡 | 2,700㎡ | 本調査<br>整理<br>報告書刊行 | 昭和63年6月10日 | 平成元年3月31日 | 6,169,000 | |
| 19 | 新規 | 稲荷台1号墳発掘調査概要報告書作成（概報） | 市原市（文化課） | 稲荷台1号墳 | 古墳 | 古墳1基 | 概報刊行 | 昭和63年7月1日 | 平成元年3月31日 | 1,000,000 | |

（単位：円）

| 番号 | 継続又は新規 | 事業名 | 委託者 | 遺跡名 | 種別 | 面積・数量 | 事業内容 | 契約年月日 | 終了年月日 | 委託料精算金額 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 20 | 新規 | 砂防整備工事事業に伴う埋蔵文化財調査 | 千葉県（市原土木事務所） | 潤井戸小谷1号墳 | 古墳 | 古墳1基 1,000㎡ | 本調査 | 昭和63年7月30日 | 平成元年3月31日 | 6,800,000 | |
| 21 | 新規 | 宅地造成（若宮地区）に係る埋蔵文化財調査 | 野城友三 | 山木白船城 | 城跡 | 2,500㎡ | 本調査 報告書刊行 | 昭和63年8月10日 | 平成元年3月31日 | 9,200,000 | |
| 22 | 新規 | 宅地造成（大厩地区）に係る埋蔵文化財調査 | 相互住宅株式会社 | 大厩細野遺跡 | 集落跡 | 250㎡ | 本調査 | 昭和63年9月12日 | 平成元年3月31日 | 635,000 | |
| 23－a<br>23－b | 新規 | 宅地造成（市原地区）に係る埋蔵文化財調査 | 東横不動産株式会社 | 郡本大宮 | 集落跡 | 400㎡<br>5,500㎡ | 確認調査<br>本調査 | 昭和63年9月20日<br>昭和63年12月1日 | 平成元年3月31日<br>平成元年3月31日 | 1,426,000<br>20,616,500 | |
| 24 | 新規 | 残土処分場設置に伴う埋蔵文化財調査 | 豊島土木株式会社 | 能満下小貝塚 | 包蔵地 | 750㎡ | 確認調査 | 昭和63年10月5日 | 平成元年3月31日 | 2,576,000 | |
| 25 | 新規 | 市道119号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査 | 市原市（道路建設課） | 奈良大仏台 | 包蔵地 | 2,000㎡ | 確認調査 | 昭和63年11月29日 | 平成元年3月31日 | 18,750,000 | |
| 26 | 新規 | 市道161号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査 | 市原市（道路建設課） | 新堀叶台 | 包蔵地 | 150㎡ | 確認調査 | 昭和63年11月29日 | 平成元年3月31日 | 1,750,000 | |
| 27 | 新規 | 不特定遺跡調査に伴う埋蔵文化財調査 | 市原市（文化課） | 松ヶ島蔵ノ下 | 包蔵地 | 700㎡ | 確認調査 | 平成元年2月1日 | 平成元年3月31日 | 3,000,000 | |
| 28－1<br>29－2 | 新規 | 不特定遺跡調査に伴う埋蔵文化財調査 | 市原市（文化課） | 白船城跡<br>菊間雲ノ境 | 城跡集落跡 | 150㎡<br>180㎡ | 確認調査 | 平成元年2月15日<br>平成元年3月6日 | 平成元年3月31日<br>平成元年3月31日 | 1,300,000<br>2,000,000 | |
| 30 | 新規 | 後楽園市原レクリエーションワールド建設に伴う埋蔵文化財調査 | 株式会社後楽園スタヂアム | 荻原野一本松塚 | 包蔵地塚 | 6,980㎡ | 確認調査 | 昭和63年12月1日 | 平成元年3月31日 | 32,989,000 | |
| 31 | 新規 | ゴルフ練習場建設に伴う埋蔵文化財調査 | 矢口建材加工株式会社 | 磯ヶ谷北旭台 | 古墳集落跡 | 古墳3基 3,500㎡ | 本調査 | 平成元年1月10日 | 平成元年3月31日 | 8,450,440 | |
| 32 | 新規 | 県営ほ場整備事業海原地区試掘調査 | 市原市（農業土木課） | 柏原海保中谷 | 包蔵地 | 対象 約7,000㎡ | 試掘調査 | 平成元年1月31日 | 平成元年3月31日 | 970,000 | |
| 33 | 継続 | 国分寺台土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査(2) | 市原市（文化課） | 台・神門ほか | 集落跡古墳 | | 基礎整理 | 平成元年2月1日 | （平成2年3月31日） | 0 | 次年度繰越 |
| 合計 | | | | | | | | | | 330,768,157 | |

(4) 研究事業

① 職員・補助員研修会

昭和63年6月7日　於　芝山はにわ博物館

② 外部研修への参加

埋蔵文化財発掘技術者専門研修

昭和63年4月13日～昭和63年4月28日　「生物環境課程」

於　奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター

昭和63年11月29日～昭和63年12月21日　「古墳時代遺跡調査課程」

於　奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター

全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会

昭和63年９月20日～昭和63年９月22日

於　　札幌市・千歳市・旭川市

関東甲信越静地区埋蔵文化財担当職員共同研修協議会

昭和63年11月16日～昭和63年11月17日

於　　群馬県伊香保町

(5)　印刷物の刊行

①　報　告　書

『千葉県市原市稲荷台１号墳出土「王賜」銘鉄剣概報』

『市原市文作遺跡』

『市原市永田・不入窯跡』

『山田橋表通遺跡』

『千草山・東千草山遺跡』

『福増山ノ神遺跡』

『大厩弁天台遺跡』

『白船城跡』

(6)　普及活動

①　遺跡見学会

昭和63年８月27日　　於　　六孫王原遺跡

昭和63年11月26日　　於　　史跡上総国分尼寺

②　遺跡発表会

平成元年２月５日　　於　　市原市五井会館

昭和63年度発掘調査の成果の発表　担当職員

特別講演

「貝塚のはなし」　　早稲田大学講師　　金子浩昌

「西広貝塚の調査」　　市原市教育委員会学芸員　米田耕之助

③　印刷物の刊行

「私たちの文化財」　12・13号

「市原市文化財センター年報　昭和62年度」

報告書等の刊行および頒布

(7) 昭和63年度の決算報告

## 収　　入

（単位：円）

| 科　目 | 予算額 | | | 決算額 | 予算現額に比べ決算額の増減 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 当初予算額 | 補正予算額 | 合計 | | | |
| (款)事業収益 | 460,749,000 | △ 59,393,000 | 401,356,000 | 402,816,812 | 1,460,812 | |
| (項)事業収益 | 459,691,000 | △ 60,818,000 | 398,873,000 | 399,154,205 | 281,205 | |
| (項)事業外収益 | 1,057,000 | 1,426,000 | 2,483,000 | 2,506,678 | 23,678 | |
| (項)雑収益 | 1,000 | △ 1,000 | 0 | 1,155,929 | 1,155,929 | |
| 合計 | 460,749,000 | △ 59,393,000 | 401,356,000 | 402,816,812 | 1,460,812 | |

## 支　　出

（単位：円）

| 科　目 | 予算額 | | | 決算額 | 不用額 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 当初予算額 | 補正予算額 | 合計 | | | |
| (款)事業費 | 460,749,000 | △ 59,393,000 | 401,356,000 | 402,816,812 | △ 1,460,812 | |
| (項)受託事業費 | 424,052,000 | △ 55,154,000 | 368,898,000 | 368,613,555 | 284,445 | |
| (項)研究事業費 | 4,035,000 | △ 1,337,000 | 2,698,000 | 2,693,497 | 4,503 | |
| (項)普及事業費 | 5,378,000 | △ 2,154,000 | 3,224,000 | 3,213,211 | 10,789 | |
| (項)一般管理費 | 25,284,000 | 1,252,000 | 26,536,000 | 28,296,549 | △ 1,760,549 | |
| (項)予備費 | 2,000,000 | △ 2,000,000 | 0 | － | － | |
| 合計 | 460,749,000 | △ 59,393,000 | 401,356,000 | 402,816,812 | △ 1,460,812 | |

## Ⅲ　昭和63年度調査概要

昭和63年度の調査は、発掘調査、整理事業を含め38事業を実施した。事業の内訳は、一つの事業で確認・本調査や本調査および整理事業まで実施したものもあり、実施した以上の数になるが、発掘調査が25事業で、このうち確認調査だけを実施したものが12事業、本調査13事業である。整理事業は、13事業で実施された。

発掘調査した遺跡の分布は、昨年度より市の北部に集中する傾向にあり、今年度はその傾向がより一層顕著な分布状況を示すことになった。

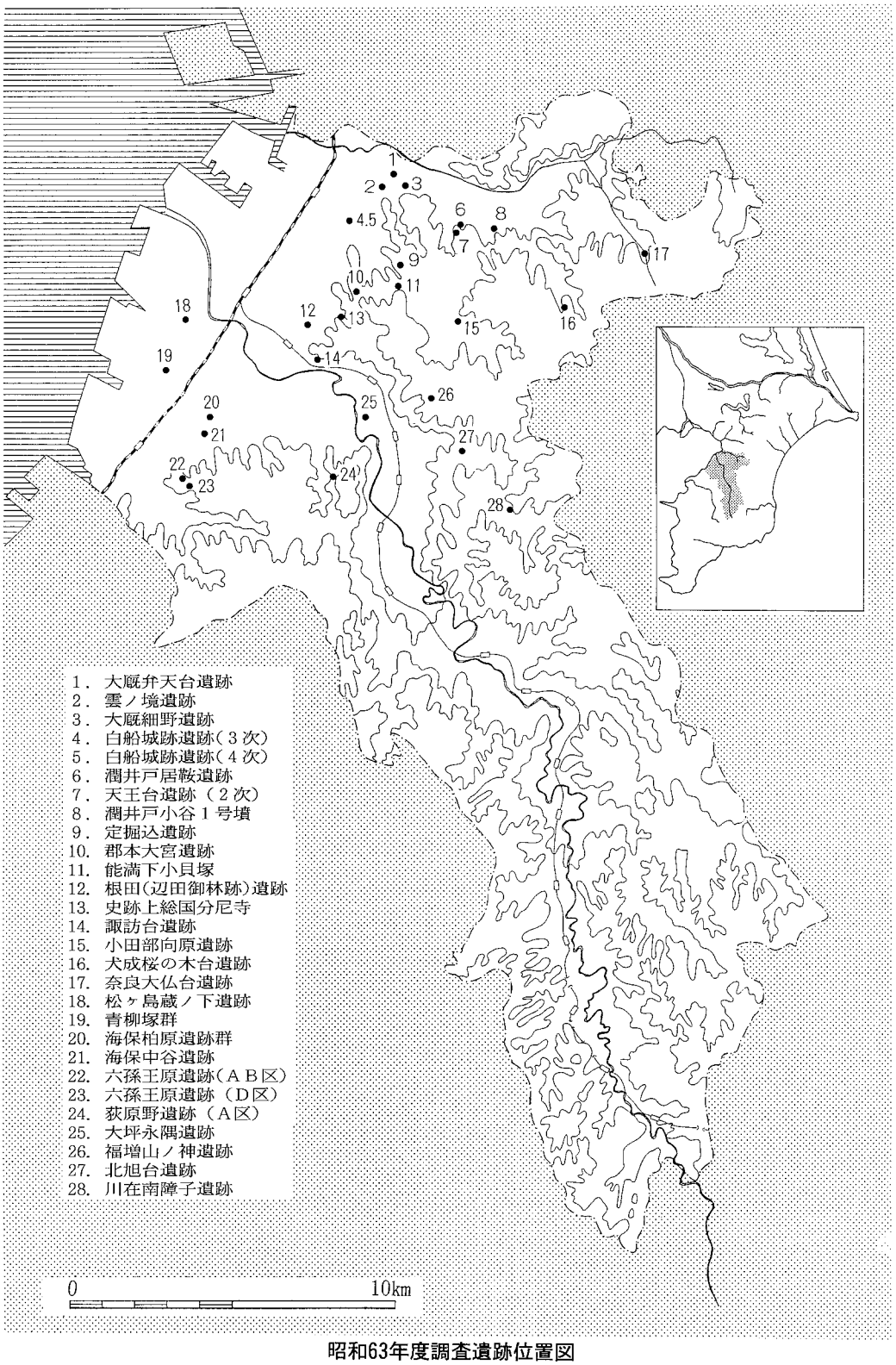
確認調査および本調査によって得られた成果は、先土器時代から中・近世に至り多岐に及んでいる。ここでは、幾つかの調査の成果について概要を記すこととしたい。

12根田遺跡・13諏訪台遺跡は、国分寺台区画整理事業に伴う調査であるが、今年度の調査で18年間に及ぶ同区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査は終了した。諏訪台遺跡では、同一台地上に占地する天神台遺跡を合わせ130,000㎡以上を調査したことになる。今年度の調査では、古墳時代前期の全長約39ｍ前方後方墳と終末期の方墳を調査した。また、根田遺跡では前期方墳と平安時代の地下式改葬墓等の調査が実施され、完形の灰釉短頸壺を出土している。

この地の古墳の調査は、１．大厩弁天台遺跡・６．潤井戸居鞍遺跡・８．潤井戸小谷１号墳・９．定掘込遺跡・15．小田部向原遺跡・23．六孫王原遺跡Ｄ区・27．北旭台遺跡がある。大厩弁天台遺跡では、墳丘の失われた確認面外径32.5ｍ・周溝底面内径で22.7ｍの円墳が検出されたが、出土遺物が無く時期の限定は出来ない。潤井戸居鞍遺跡では、墳丘径約15ｍの方墳と墳丘径約19ｍの円墳が調査されている。小谷１号墳は、崖崩れの為実施された緊急調査で全容は把握できなかったが、前方後円墳の墳丘中段を全周すると見られる円筒埴輪列の一部が確認された。小田部向原遺跡の調査では、出現期古墳の「小田部古墳」の再調査と周辺の散布地の調査を実施し、周溝の調査から墳形の再検討がなされている。北旭台遺跡は、墳丘径約12ｍと20ｍの方墳２基、墳丘径約13ｍと11ｍの円墳２、竪穴住居跡などを調査し、古墳時代前期住居跡から、全国的な分布の東限を塗り替えた有鉤銅釧を検出する。また、縄文早期から前期初頭の長楕円形を基本とする住居跡14軒の検出が特筆される。

集落跡の調査では、縄文早期の北旭台遺跡、弥生後期から古墳時代前期の六孫王原遺跡Ａ・Ｂ区・小田部向原遺跡、古墳時代後期と奈良～平安の郡本大宮遺跡などが調査されている。

寺院跡では、史跡上総国分尼寺の主要伽藍の確認調査が実施されている。中近世では白船城跡・青柳塚群などがある。




昭和63年度調査遺跡位置図

# 1. 大厩弁天台遺跡

**事業名**　住宅建設（大厩地区）に伴う埋蔵文化財調査

**所在地**　市原市大厩字弁天台1,236－1番地ほか

**調査期間**　昭和63年4月1日～昭和63年4月31日

**調査面積**　1,200㎡

**調査概要**　大厩弁天台遺跡の発掘調査は、住宅建設に伴うものであり、昭和62年度、3,300㎡を対象として確認調査を実施し、その成果を受けて本調査が行われた。

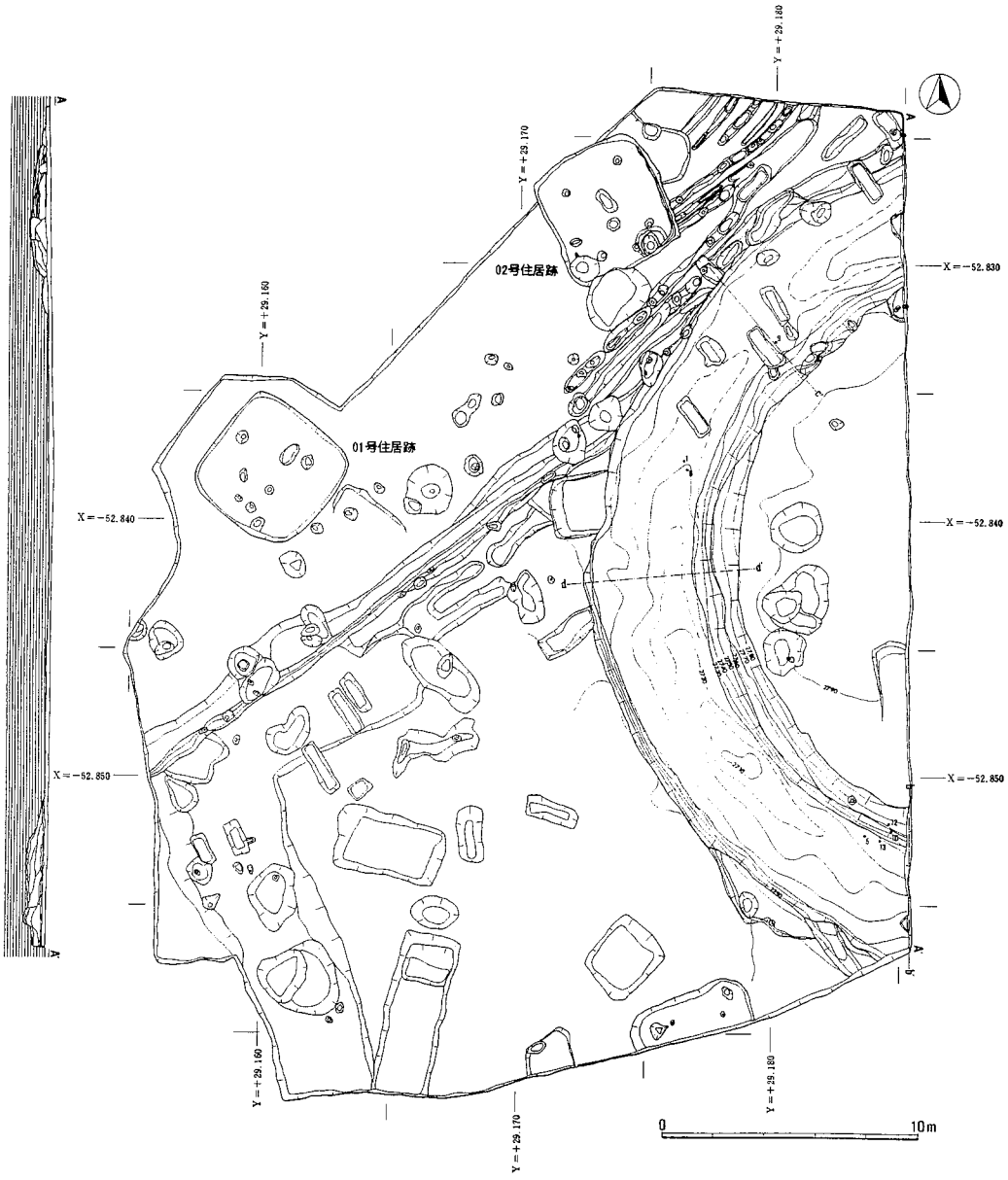
大厩弁天台遺跡は、村田川の南岸台地上に立地する。周辺には、大厩浅間様古墳(1)、大厩二子塚古墳といった前期古墳と、おそらく後期と推定される小規模円墳が散在する。また、対岸には草刈遺跡があり、全体に遺跡が濃密に分布する地区にあたる。ただし、今回の調査地点は、台地縁辺より約200m程度内に入っているためか、当初想定されていたほどの遺構の密度は認められなかった。今回の調査で検出された遺構は、古墳周溝（大厩弁天台古墳）、竪穴住居跡2軒、道路跡2条以上である。

大厩弁天台古墳は、周溝部分約½弱を今回調査した。おそらく円墳と推定される。規模は、調査範囲内確認値で、確認面外径31.52m、確認面内径21.3m、周溝底面内径で22.71mを測る。推定復原値では、確認面外径32.5m、確認面内径22.7m、周溝底面内径で23.9m程度と考えられる。遺物は、周溝内覆土より、土師器杯形土器、須恵器等が出土しているが、埴輪についてはまったく出土していない。墳丘については、1961年撮影空中写真で確認することができるが、その後調査区に隣接する道路、周辺の宅地化等によって、約10年ほど前に削平されてしまったようである。その詳細は確認することができなかった。

住居跡は、今回2軒検出された。2軒とも隅丸方形の比較的小形の竪穴であり、01号住居跡は、長軸4.89m、短軸4.75m、床面積18.92㎡を測る。土器は比較的まとまっており、今回図示したものでは第2図8をのぞき、床面ないしはいわゆる貯蔵穴内より出土したものである。

口頸部に粘土紐積み上げ痕を残すもの、口唇部に押捺を加えたものなど、当該地域における五領式への移行過程をしめす資料といえよう。02号住居跡は、長軸4.92m、短軸4.80m、床面積19.21㎡を測る。出土遺物は、小形器台形土器等であり、01号住居跡とは、主軸方位がことなるものの、土器編年上ほぼ同時期と推定される。

道路遺構は、調査区内延長距離で約36m検出された。平面的には、底面が硬質な車輪跡と考えられる数条の溝から構成される。古墳周溝土層断面を基準とした場合、上下3面からなる重複が認められ、江戸時代富士起源の宝永期火山灰層を間層にはさむ。この道路は明治16年測量の迅速測図では不明確ではあるが、少なくとも1961年撮影の空中写真では存在しない。




**第１図　大厩弁天台遺跡全体図**

本調査の整理作業は、昭和63年度に実施され、報告書(2)が刊行されている。

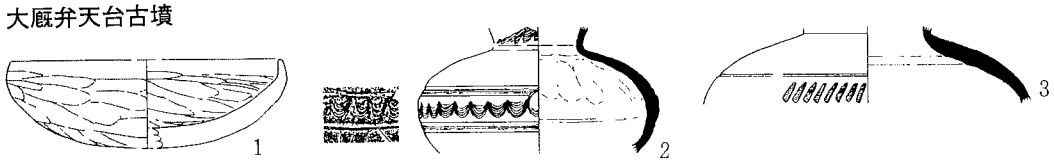
（註）

(1)　浅利幸一　1991「大厩浅間様古墳」『第６回市原市文化財センター遺跡発表会要旨』

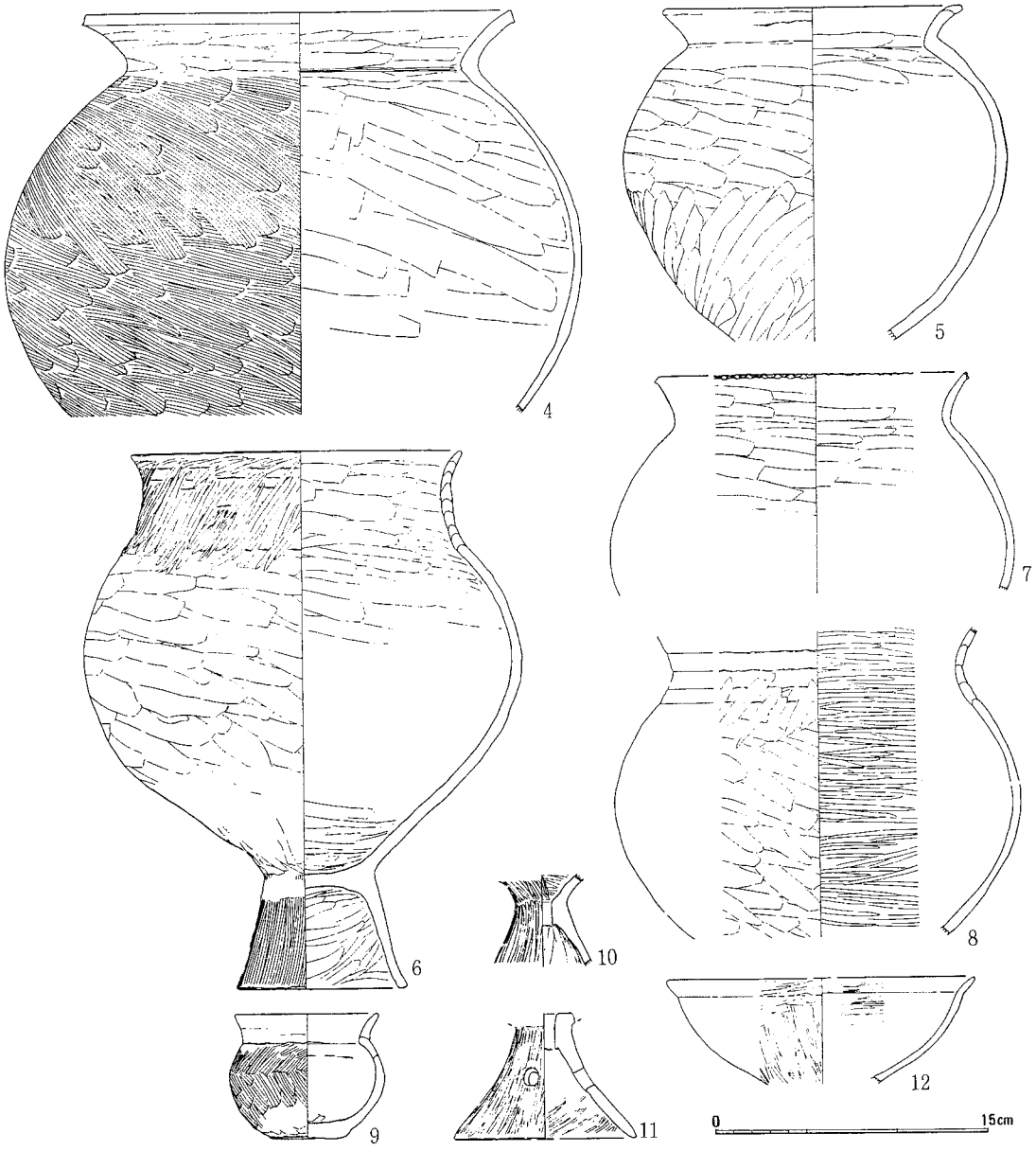
(2)　大村　直　1989『市原市大厩弁天台遺跡』財団法人市原市文化財センター調査報告書第34集　辰巳鉄工株式会社・財団法人市原市文化財センター

（大村　直）

大厩弁天台古墳




01号住居跡




第２図　大厩弁天台遺跡出土土器（１／４）

## 2. 雲ノ境遺跡

**事業名**　不特定遺跡発掘調査

**所在地**　市原市菊間字雲ノ境2,842－1番地ほか

**調査期間**　平成元年3月6日～平成元年3月31日

**調査面積**　1,800㎡のうち410㎡（確認調査）

**調査概要**　雲ノ境遺跡は、市原台地北端部に形成された菊間古墳群に近接し、東側には小支谷をはさみ大厩地区をのぞむ。調査は、ゴルフ練習場造成に伴うものであり、その防球ネット支柱部分についてトレンチを設定し、遺構が検出された部分については、可能なかぎり拡張した。調査の結果、竪穴住居跡18軒、掘立柱建物跡1棟ないしは掘立柱列、古墳周溝1基、土坑3基、溝10条が検出された。

竪穴住居跡の時期は、弥生時代後期から古墳時代前期が5軒、古墳時代後期以降が6軒、時期不明が7軒である。時期不明としたもののなかには、竪穴住居としての蓋然性に乏しいものも含んでいる。

20号遺構は、掘立柱建物跡ないしは掘立柱柵・塀跡と考えられる。竪穴住居跡19・23号遺構、古墳15号遺構を切り、平安時代の土坑21号遺構に切られている。

古墳（15号遺構）は、おそらく円墳と推定され、確認面外径で21.75m、確認面内径で17.20m、底面内径で18.20mを測る。遺物は、確実に伴うと考えられるものが出土していない。

土坑は、02号遺構がいわゆる落し穴、22号遺構が炉穴、21号遺構が平安時代の所産と考えられる。

溝については、時期を確定できるものがないが、菊間藩藩庁に関連するものを含む可能性があり、瓦が包含するものもある。

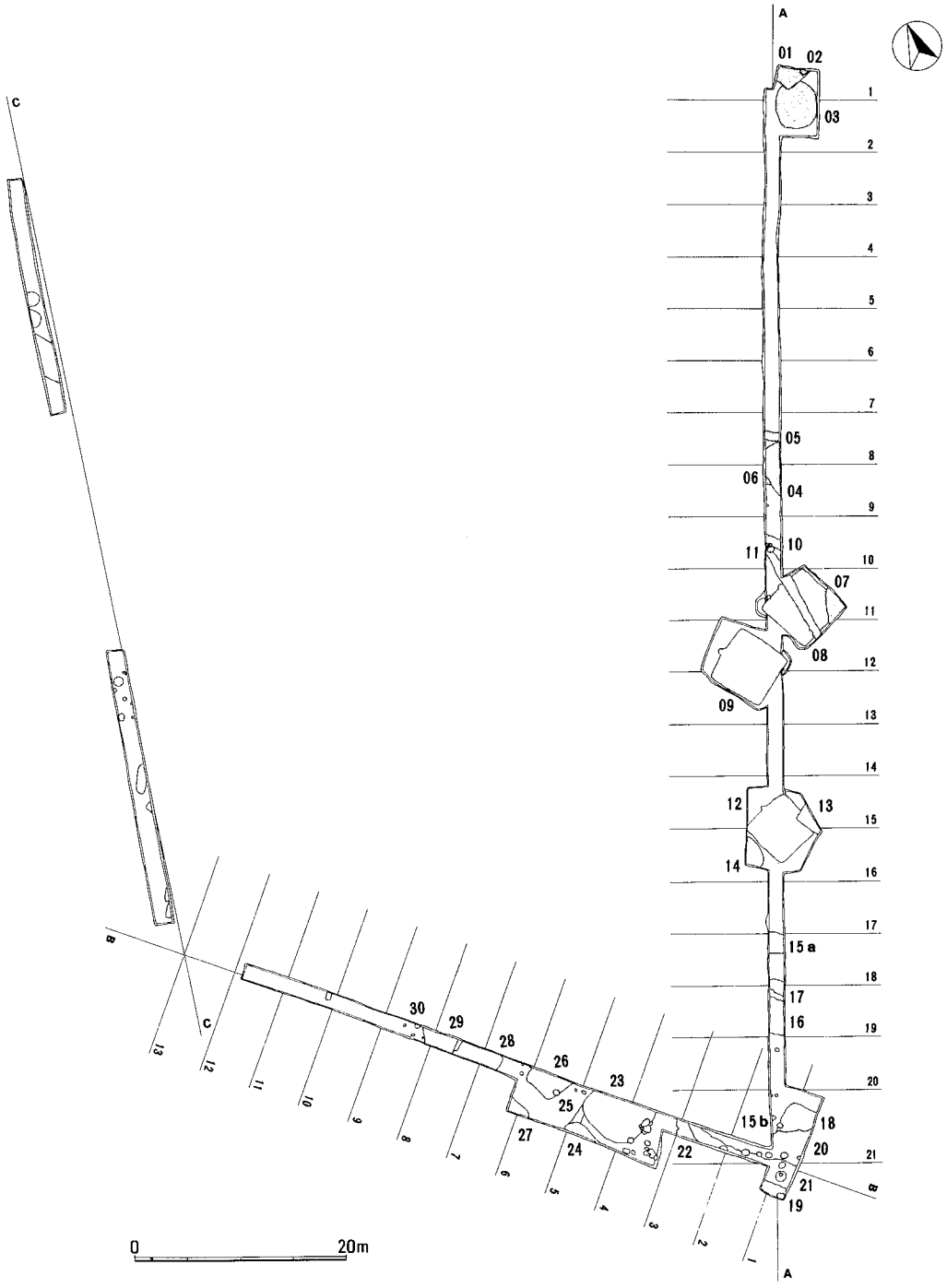
調査範囲も限られており、また、表土層から浅く遺存状態は不良であった。したがって検出された遺構数に比較して遺物も少なく、時期が限定できない遺構が多い。古墳についても時期を確定できないが、古墳時代後期において、菊間古墳群の系列下にある支群を構成する可能性も考えられるが、現状では、首長墳群を除き散在的である。

本調査の整理作業は、平成2年度に実施され、報告書(1)が刊行されている。詳細は同書にゆずる。

（註）

(1)　大村　直　1991『市原市姉崎宮山遺跡・小田部向原遺跡・雲ノ境遺跡』財団法人市原市文化財センター調査報告書第40集　市原市教育委員会・財団法人市原市文化財センター

（大村　直）


A
B
C
01
02
03
04
05
06
07
08
09
10
11
12
13
14
15a
15b
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
0
20m

雲ノ境遺跡全体図

# 3. 大厩細野遺跡

**事業名**　宅地造成に伴う埋蔵文化財調査

**所在地**　市原市大厩字細野1,166地先他

**調査期間**　昭和63年９月19日～同年９月22日

**調査面積**　250㎡（本調査）

**調査内容**　当項では、本報告として掲載する。

## 1．調査に到る経緯

昭和63年７月21日付けで、相互住宅株式会社代表取締役木口宣道は、当該地の宅地造成に伴い「埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて」の照会を千葉県教育委員会教育長と市原市教育委員会教育長宛に提出した。それを受けて、現地踏査等を行ない、市原市教育委員会教育長より、昭和63年７月28日付けで「土師器散布地１ヶ所」の回答がなされた。その後協議を重ねた結果、記録保存とする方針が決定し、昭和63年９月19日より㈶市原市文化財センターによって調査が実施されるに至り、現地調査は、加藤正信が担当している。

## 2．遺跡周辺の環境

**遺跡の位置と周辺の主な遺跡**　１：20,000

**大 厩 細 野 遺 跡**　地形図１：5000（斜線部分が調査範囲）

**大厩細野遺跡遺構配置図**

大厩細野遺跡は、市原市の北部、村田川の下流域左岸洪積台地上に位置する。東京湾の旧海岸線からは約３㎞内陸に入った地点である。立地する台地は、養老川と村田川に狭まれた通称「市原台地」といわれる。概して台地上は平坦であるが小谷が幾重にも入り込む地形を呈している。当遺跡は、この台地の北側、村田川沖積地を望む北側端部から約250ｍ入った地点に位置し、標高は、約20～22ｍを測る。また、付近の地形は、南側から北側に向っておだやかに傾斜している。現在の状況は、ほとんどが畑に利用されているが、周辺は、小規模な宅地造成がさかんに行われており、開発の波が押しよせている。付近の主な遺跡としては、縄文時代では、早期の炉穴を検出した菊間向原遺跡(註１)や大厩辰巳ヶ原遺跡(註２)などがあるが、大規模な調査が無いためか、比較的少ない。弥生時代には、環濠を伴う集落や方形周溝墓が大厩遺跡(註３)などから検出されている。また、大厩弁天台遺跡(註４)では、後期の住居跡が調査されている。古墳では、菊間古墳群を形成する全長90ｍの権現山古墳、60ｍの東関山古墳、47ｍの姫宮古墳などの前方後円墳や径44ｍの円墳天神山古墳、大厩古墳群を形成する大厩浅間様古墳(註５)などが存在する。また、当調査地の東側約80ｍの台地縁辺部に全長63ｍの前方後円墳の大厩二子塚古墳が位置している。集落跡では、大厩遺跡(註６)や辰巳ヶ原遺跡(註７)などが調査されている。さらに菊間向原遺跡(註８)では、歴史時代と考えられる方形周溝状遺構が検出されている。このように当台地周辺（菊間、大厩地区）は、村田川の下流域左岸台地上であり、右岸の千葉市域、千原台地区、養老川下流域左岸の姉崎地区、右岸の国分寺台地区と並んで各時代の重要な遺跡が濃密に分布する注目される地域である。

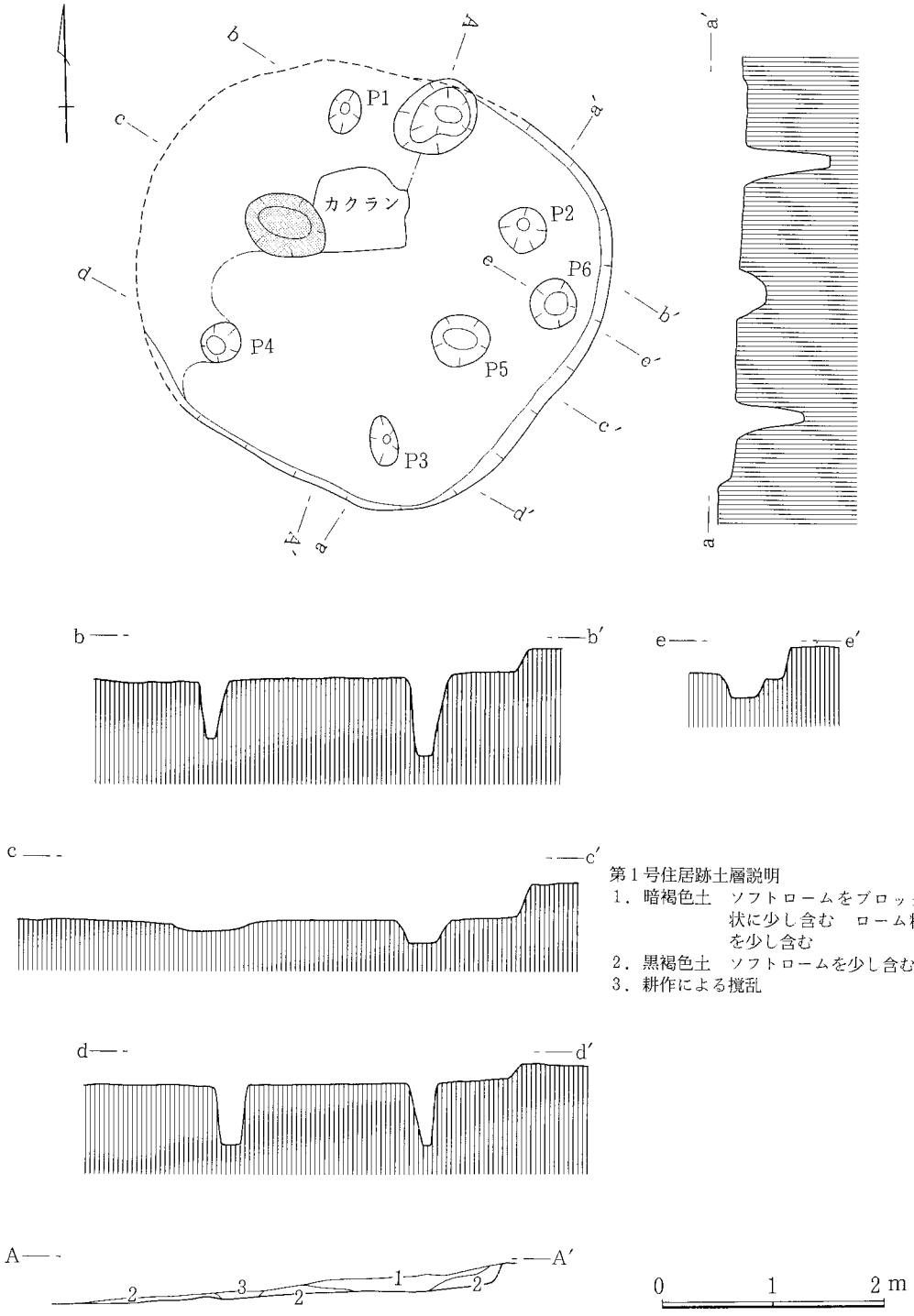
周辺の主な遺跡番号表

| 番号 | 名　　称 |
|---|---|
| 1 | 大厩細野遺跡（当遺跡） |
| 2 | 菊間姫宮古墳 |
| 3 | 東間山古墳 |
| 4 | 菊間手永貝塚 |
| 5 | 菊間天神山古墳 |
| 6 | 菊間藩庁跡 |
| 7 | 大厩浅間様古墳 |
| 8 | 大厩遺跡 |
| 9 | 大厩弁天台遺跡 |
| 10 | 菊間向原遺跡 |
| 11 | 大厩辰巳ヶ原遺跡 |
| 12 | 菊間仙台原古墳 |

(註１)米田耕之助　「第２章　菊間向原遺跡」昭和62年度市原市埋蔵文化財緊急調査報告書　1988　市原市教育委員会
(註２)武部喜充他　千葉県市原市辰巳ヶ原遺跡発掘調査報告 1983 市原市辰巳ヶ原遺跡調査会　穴沢義功「②大厩辰巳ヶ原遺跡」昭和56年度千葉県遺跡調査抄報　1982　千葉県教育庁文化課
(註３)三森俊彦他　市原市大厩遺跡　1974　㈶千葉県都市公社
(註４)大村　直　市原市大厩弁天台遺跡　財団法人市原市文化財センター調査報告書第34集　1989　辰巳鉄工株式会社
(註５)浅利幸一　「９（大厩）浅間様古墳」市原市文化財センター年報　昭和59年度　1980　財団法人市原市文化財センター
(註６)註(3)と同様（竪穴住居跡14軒など。）
(註７)(註２)と同様（和泉～鬼高期の竪穴住居跡数軒。）
(註８)(註１)と同様（時期を確定する出土遺物は無い。）

## ３．調査内容

調査の方法は、対象地区全体を国土方眼座標を基本とする５ｍ間隔の方眼のグリッドを設定し、実測の基準とした。遺跡の標準土層は、Ⅰ層＝耕作土（厚さ15～30㎝）、Ⅱ層＝黒色腐蝕土（10～30㎝、ａｂｃｄに更に細分される）、Ⅲ層＝ソフトローム（約30㎝）、Ⅳ層＝ハード

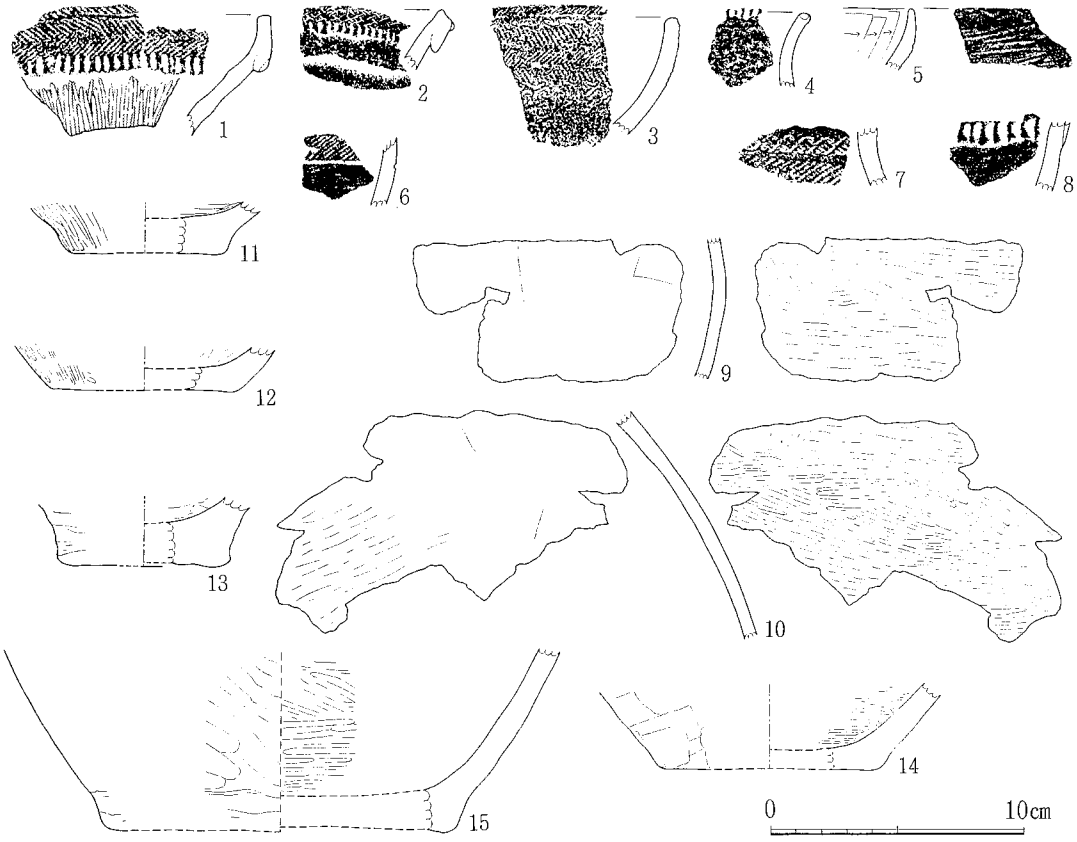

P1
P2
P3
P4
P5
P6
カクラン
第1号住居跡土層説明
1．暗褐色土　ソフトロームをブロック状に少し含む　ローム粒を少し含む
2．黒褐色土　ソフトロームを少し含む
3．耕作による撹乱
0　1　2 m

**第 1 号 住 居 跡 実 測 図**

ロームである。検出された遺構は、弥生時代後期竪穴住居跡１軒、時期不明の竪穴状土坑１基、縄文期と推定される土坑１基である。また、当遺跡の略式記号は、セ－86である。

(1) 竪穴住居跡

調査地区の東側中央に単独で存在する。プランの北西側は、耕作により削平され、竪穴の外側プランは、推定復元である。また、北西側床面中央には、いわゆる「イモ穴」と呼ばれる攪乱土坑が床面を切っている。竪穴の覆土は、床面から15㎝程度しか確認できなかったが、ローム粒を含む暗褐色土が主体であり、竪穴の埋没状況は、自然堆積とみられる。竪穴の形体は、胴張りの隅円長方形に復元でき、規模は、長軸4.13ｍ、短軸3.85ｍ、深さは、最大で32㎝を測る。主軸方位は、長軸方向（炉と$P_5$の中心線付近を結ぶライン）を測り、N－58°－Wである。竪穴壁の立上がりは、南東側が良好に残存し、北西側は削平を受けている。床面も同様に、北西側が５～10㎝程度削平されているが、竪穴プラン全体の３／４は残存しており、床面積は、推定復元で約12.5㎡である。床面は、比較的平坦で、踏み固められた面は、炉の南東側から床面中央、$P_3$、$P_5$付近まで広く認められる。床面内のピットは、６本検出され、そのうち$P_1$～$P_4$は、主柱穴とみられる。各々の間隔は、$P_1$～$P_2$が1.90ｍ、$P_2$～$P_4$が2.26ｍ、$P_4$～$P_3$が1.76ｍ、$P_3$～$P_1$が2.41ｍを測る。それぞれ底部には、柱の圧痕がわずかに認められる。$P_5$は、




第１号住居跡出土遺物実測図

いわゆる出入口相当施設用のピットと考えられ、$P_6$は、貯蔵穴といわれるピットである。各ピットの大きさは、右表のとおりである。

竪穴住居跡ピット計測表　単位cm

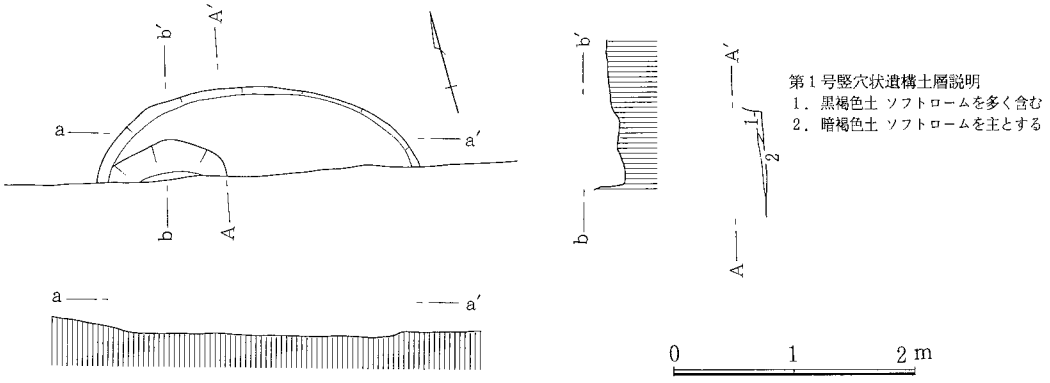
| ピット名 | 上端径 | 下端径 | 深さ |
|---|---|---|---|
| $P_1$ | 40×28 | 7.5×10 | 52.9 |
| $P_2$ | 45×42.5 | 11.3×10.5 | 72.0 |
| $P_3$ | 38.5×35.8 | 18.8×14.8 | 56.0 |
| $P_4$ | 45.3×25 | 8.3×6.3 | 62.1 |
| $P_5$ | 52.8×48.8 | 31×18.5 | 24.3 |
| $P_6$ | 45.8×41.8 | 22×20 | 24.9 |

炉は、床面の北西側中央付近に設置され、平面形体は長円形で、大きさは、長径78cm、短径58cmを計る。覆土には灰と焼土を伴っている。出土遺物は、すべて小片で、竪穴の覆土中から検出されている。No.1は、壺形土器の口縁部片とみられ、複合部外面には、単節の羽状縄文、下端にヘラ先による押捺を加える。また、口唇部にも単節の斜縄文が施される。外面頸部は、縦方向の丁寧なヘラミガキがなされている。内面は、横方向のヘラミガキである。赤彩は、両面とも口縁部下よりなされる。器厚は、5～7mm、焼成は、普通、胎土には、1mm弱の細砂粒を多く含む。色調は外面口縁部が淡褐色、他は両面とも暗赤褐色である。No.2も壺形土器の口縁部とみられ、複合上部外面に網目状撚糸文、上端部にヘラによる刻目が施される。また、内面には、赤彩が認められる。器厚は、6mm前後、焼成は普通、胎土は、緻密である。色調は、外面が淡茶褐色、内面は暗赤褐色を呈する。No.3は、埦形土器の口縁部片と考えられ、口唇部には、単節の斜縄文、口縁部外面は、三段の単節斜縄文とその上下にS字状結節文をそれぞれ横位に配している。赤彩は、外面体下部に認められる。内面は、横方向のヘラナデがなされる。器厚は、7mm前後、焼成は、普通、胎土には、1mmくらいの小礫を多く含む。色調は、外面が淡褐色と暗褐色、内面が暗褐色で一部は黒褐色を呈する。No.4は、甕形土器の口縁部片とみられ、内面口唇部にヘラ先による押捺が施される。器厚は、4～5.5mmで、焼成は、少し不良、胎土は、緻密である。色調は、両面とも淡褐色を呈する。No.5は、埦形土器の口縁部とみられ、口縁部は外面がヨコナデ、内面は、ヘラナデがなされる。器厚は、6mm前後であるが、口唇部ほど薄手につくられている。焼成は、普通、胎土は、緻密、色調は、外面が暗褐色、内面が淡褐色を呈する。No.6は、埦形土器の体上部付近と考えられる。外面は、横位の沈線で区画された単節の斜縄文が施される。また、内外面とも赤彩がなされている。器厚は、5.5～6mm、焼成は普通、胎土は、緻密である。色調は、両面とも暗赤褐色を呈する。No.7は、壺形土器の体上部（頸部下位）付近の破片とみられる。上部に横位のS字状結節文を2段、下部に単節の斜縄文を配している。赤彩は、外面の一部に認められる。器厚は、6.5～6.7mmをはかる。焼成は普通、胎土は、緻密で、色調は、外面が褐色、内面が淡褐色を呈する。No.8は、甕形土器の体上部付近の破片とみられ、上部に段を有し、その端部にヘラ先による押捺を加える。器厚は、5.5～6mmで、焼成は普通、胎土は、緻密である。色調は、外面が黒褐色、内面が褐色を呈する。No.9は、壺形土器の胴部中位付近の破片とみられ、外面は、斜め及び横方向のヘラミガキ、内面は、横方向のヘラナデの後、ユビか布状の用具による丁寧なナデがなされる。器厚は、5mm前後、胎土は、緻密である。色調は、外面が茶褐色と暗褐色、内面が淡褐色を呈する。No.10は、壺形土器の胴上部

片と考えられる。外面が丁寧な横及び斜め方向のヘラミガキ、内面が横方向のヘラナデの後、斜め方向のユビか布状の用具によるナデがなされる。器厚は、５～７㎜、焼成は、やや不良、胎土は、１㎜弱の細砂を少し含んでいる。色調は、外面が褐色、暗褐色、黒褐色、内面が黒褐色と褐色と様々である。№11は、壺形土器の底部片とみられ、底径は、推定で６㎜である。残存は、底部全体の約⅓である。外面は、縦方向のヘラミガキ、内面は、ヘラナデがなされる。焼成は、少し不良、胎土は、緻密、色調は、両面とも暗褐色を呈する。№12は、甕形土器？の底部片と考えられ、底部全体の約１／８の残存である。底径は、7.4㎝と推定され、焼成は、少し不良、胎土は、緻密である。色調は、両面とも褐色を呈する。外面は、縦方向のヘラミガキ、内面は、ヘラナデがなされる。№13は、壺形土器の底部片とみられ、底部全体の約１／６の残存である。底径は、6.5㎝と推定される。底部の器厚はやや厚い。また、両面とも横方向のヘラナデがなされている。焼成は、少し不良、胎土は、緻密で、色調は、外面が暗褐色、内面が淡褐色を呈する。№14は、甕形土器？の底部片と考えられ、底部全体の約１／８の残存である。底径は、推定で8.5㎝と推定される。外面は、横方向のヘラケズリ、内面は、横方向のヘラミガキがなされる。焼成は、わずかに不良、胎土には、１㎜弱の細砂が多く含まれる。色調は、外面が暗褐色、内面が黒褐色と茶褐色を呈する。№15は、壺形土器の底部片とみられ、底部全体の約１／８の残存である。底径は、推定で13.4㎝をはかる。外面は、横及び斜め方向のヘラケズリ、内面は、横及び斜め方向のヘラミガキが丁寧になされる。焼成は、少し不良、胎土は、緻密、色調は、外面が黒褐色、内面が暗褐色と褐色である。以上のように、本遺構に伴う遺物は、皆小片で、出土位置は、覆土下位である。遺物は、すべて久ヶ原式と考えられる。

(2) 竪穴状遺構

調査地区の南東側に位置し、調査は、全体プランの一部の調査である。全体の平面形体は、長円形か胴張りの隅円長方形と推定される。規模は、検出した部分の最大で長径2.68ｍ、短径

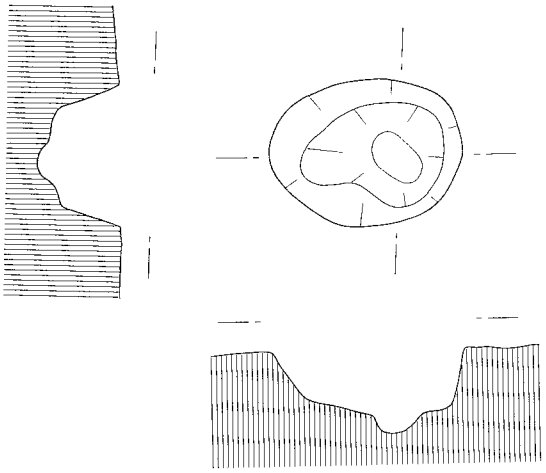



第 1 号 実 測 図

0.7mである。底部までの深さは、9㎝、西側には、不整円形の土坑状のピットを伴っている。土坑の大きさは、検出された部分の最大で、長径84㎝、短径34㎝、深さ8㎝をはかる。竪穴の主軸方向は、長径を測ると、N－12°－Eである。覆土は、底部から5㎝前後の調査であったが、ソフトローム粒を含む黒褐色土を主体とし、自然堆積とみられる。出土遺物は、特に無い。当遺構は、一部分の調査であるが、形体より弥生後期の竪穴住居跡の可能性がある。

(3) 土　　坑

調査地区の東側中央に位置し、竪穴住居跡の北側プランに切られている。平面形体は、不整の長円形で、立ち上がりは、二段になっており、底部は狭い。大きさは、上端の長軸80.5㎝、短軸60㎝、下端が長径25㎝、短径15㎝、深さは、35㎝をはかる。主軸方向は、上端の短軸を測り、N－28°－Wを示す。覆土は、自然堆積で、出土遺物は、検出できなかったが、覆土や土坑の形態などより、縄文期の所産と推定される。



0　　1m

実　測　図

## 4. 小　　結

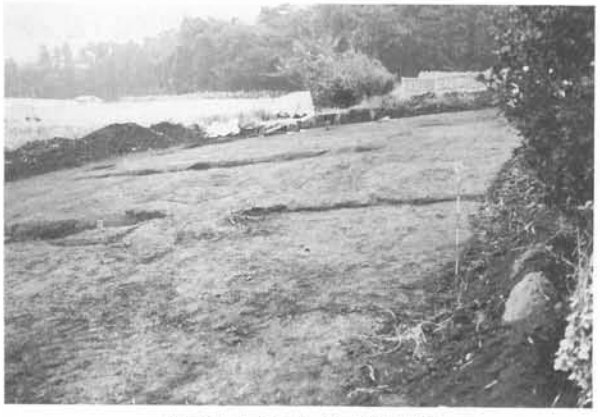
大厩細野遺跡は、地形や遺物の散布状況より、総面積約100,000㎡の規模と考えられる。遺跡の内容は、表採遺物の観察や大厩二子塚古墳の存在などから、縄文時代早期から弥生、古墳時代にいたる各種の遺構が存在していると推定される。また、一段高い南側隣接地も継続した内容を含む遺跡と考えられる。今回の調査は、当遺跡の南東隅の一部分250㎡を実施しただけである。遺構は希薄であり、弥生時代後期の竪穴住居跡1軒と竪穴状遺構1基、土坑1基を検出したのみである。竪穴住居跡は、北西側などが削平されているが、いわゆる久ヶ原期の所産とみられる。また、出土遺物は、無いが、竪穴状遺構は、形態より弥生期の竪穴住居跡に、土坑は、縄文期の所産に各々推定している。当遺跡の立地する台地は、調査例が少なく、周辺の弥生時代の集落である大厩遺跡や菊間遺跡との中間地に位置する当台地は、注目されている。しかし、付近は、宅地造成が進んでおり、大規模な調査は、今後不可能な状況であり、今回の調査は、わずかではあるが、一資料を提供したといえる。当台地では、既調査として、大厩弁天台遺跡や辰巳ヶ原遺跡が実施されているが、いずれも小範囲である。村田川左岸下流域の歴史復元には、このような積み重ねによって構築しなければならない状態である。

（田中清美）

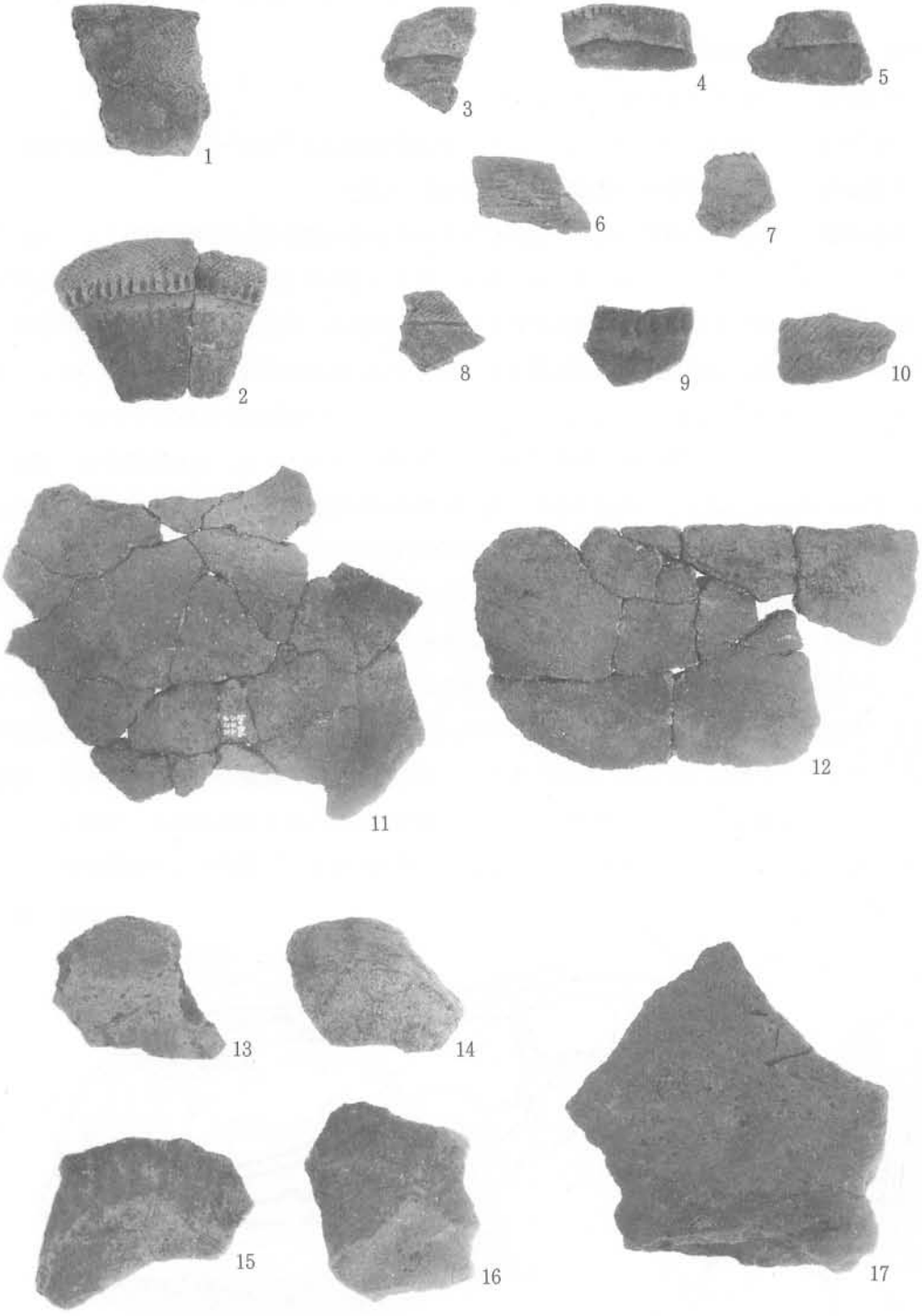
調査地区遠景（右上＝調査地区）
北側より

第１号住居跡全景
南西側より

第２号住居跡調査範囲全景
北西側より



調査地区近景（西側より）




大厩細野遺跡竪穴住居跡出土遺物

# 4. 白船城跡遺跡（第3次）

**事業名**　若宮地区宅地造成

**所在地**　市原市山木字城の内1,241他

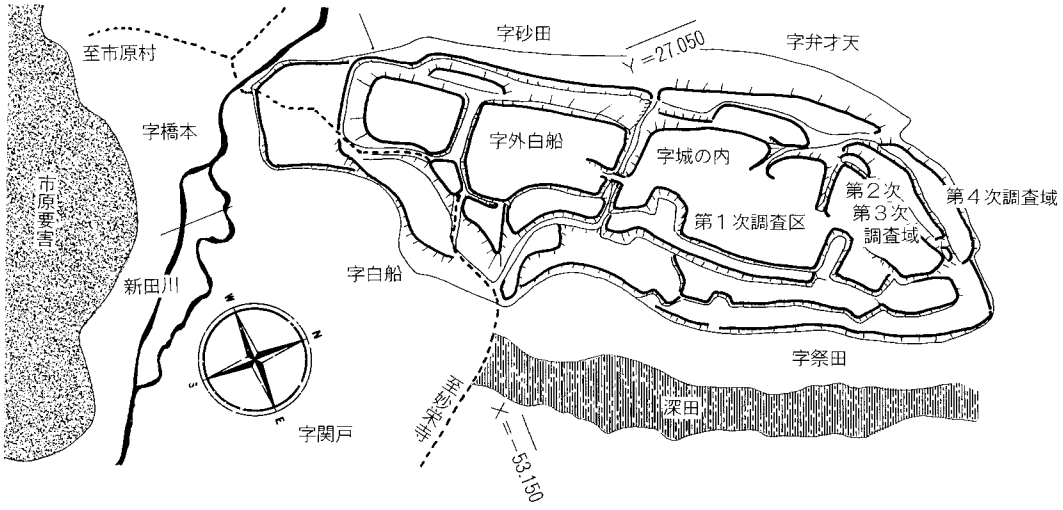
**調査期間**　昭和63年7月5日～同年7月8日(確認調査)同年8月29日～同年10月31日(本調査)

**調査面積**　2,975㎡の10%（確認調査）2,500㎡（本調査）

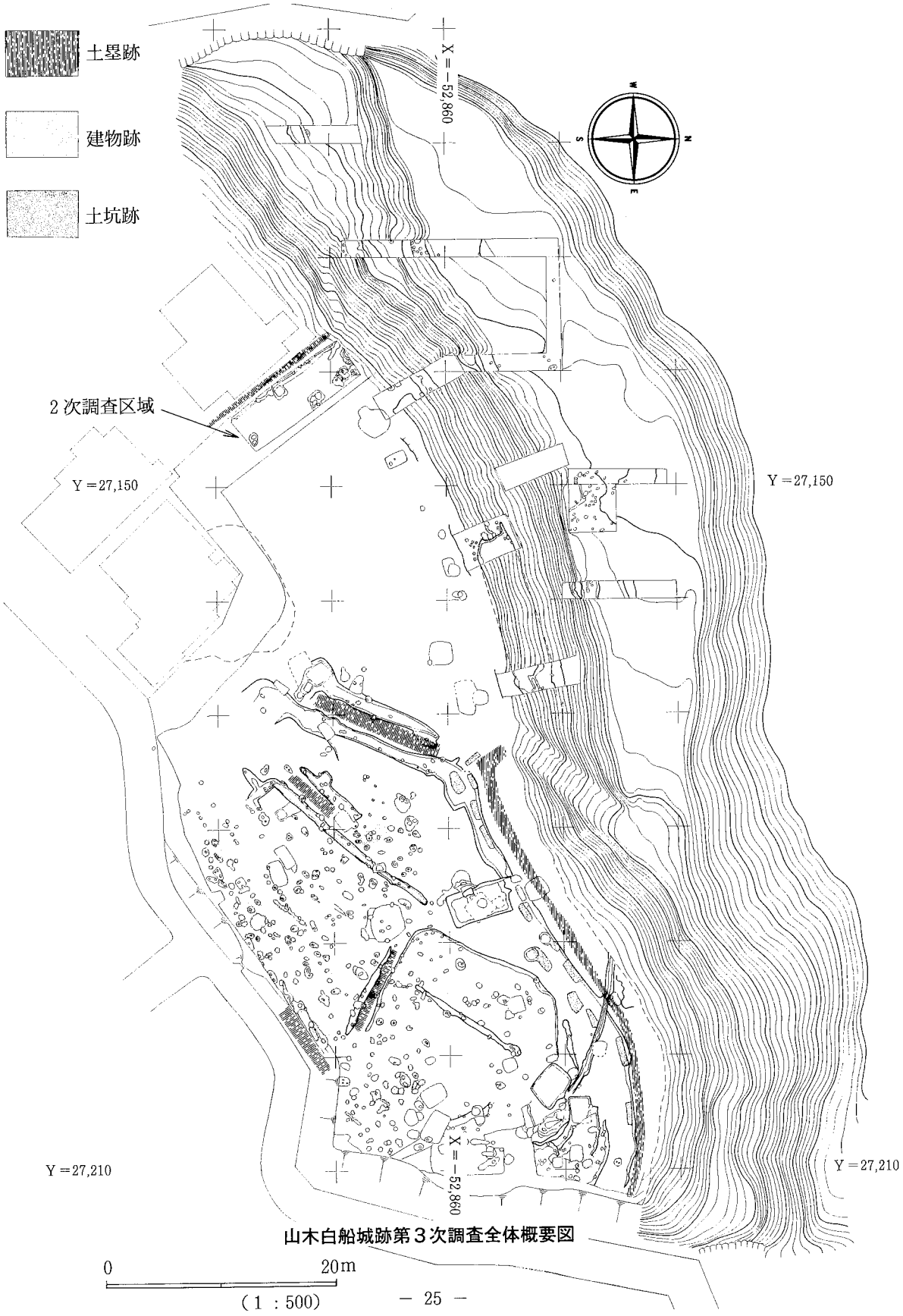
**調査概要**　本調査の確認調査は、昭和63年度の市原市内遺跡群発掘調査報告として1989年3月に刊行されている。本調査の内容の一部は、第4回市原市文化財センター遺跡発表会要旨昭和63年度（1989年2月5日）に報告されている。本遺跡は、市原台地の北東面の海岸平野に北面する標高18m～20mの独立丘に位置する。独立丘は、長軸が北東－南西方向に500m、短軸が北西－南東方向に200mあり、長楕円形を呈している。その台地は長軸線で2分すると南側はやや緩く傾斜し、北側は縄文海進時の侵食で急斜面となっている。独立丘周辺は、開発が進む昭和40年頃まではすべて水田状態で、南方向市原村台地裾まで70m、東側山木村台地裾まで170mと近い位置にあるが、南方向市原村の境界は新田川が流れ、東方山木村との間は小水路と深田となっており、自然の要害となっていた。そのため独立丘全体が、中世の白船城郭となっており、おそらく近くに武士団の居館跡があると考えられる。

出土遺物は中世のカワラケが多く、調査区域内の性格上葬送儀礼に使用されたものと考えられる。墓石は五輪塔が多く、宝篋印塔は少ない。カワラケは、小皿、中皿、坏の類があり他には、鉄釘、刀子、陶器片がある。陶器片中には、中国製の青磁、鉄釉の天目茶碗があり、青磁の2点は蓮弁文碗でヘラにより線描されており、真里谷城跡の出土遺物に似る。それらは、15～16世紀に比定されており、白船城も直線連郭式に腰部を配する形態からその時期が妥当であると考えられる。

（近藤　敏）




**山木白船城要図**




山木白船城跡第３次調査全体概要図

# 5. 白船城跡遺跡（第4次）

**事業名**　不特定遺跡発掘調査

**所在地**　市原市山木字城ノ内1,233他

**調査期間**　平成元年2月15日～平成元年3月31日

**調査面積**　1,502㎡のうち150㎡（確認調査）

**調査概要**　白船城跡は、4つの郭から構成される直線連郭式の構造をもつ。第4次調査地点は、北東端外郭部にあたり、2・3次調査による最北部主郭に接続する斜面部と、その下方帯郭を対象とする。帯郭外郭線は、現状でコンクリート壁の溝が囲繞し、遺構の存在は期待できない。

調査の結果、斜面部中段、南側腰郭に連続する犬走り状の平坦面、斜面下傾斜変換点に溝を検出した。また、帯郭は、斜面部を整形し、その土を部分的に押し出して平坦面を形成している。帯郭からは土坑が数基検出されたが、その時期は確定できない。外郭部の遮断施設、建物跡等は検出することができなかった。　（大村　直）

**白船城跡遺跡調査範囲図**（1／5,000）

# 6. 潤井戸居鞍遺跡

**事業名**　都市計画道路・草刈西広線建設に伴う埋蔵文化財調査

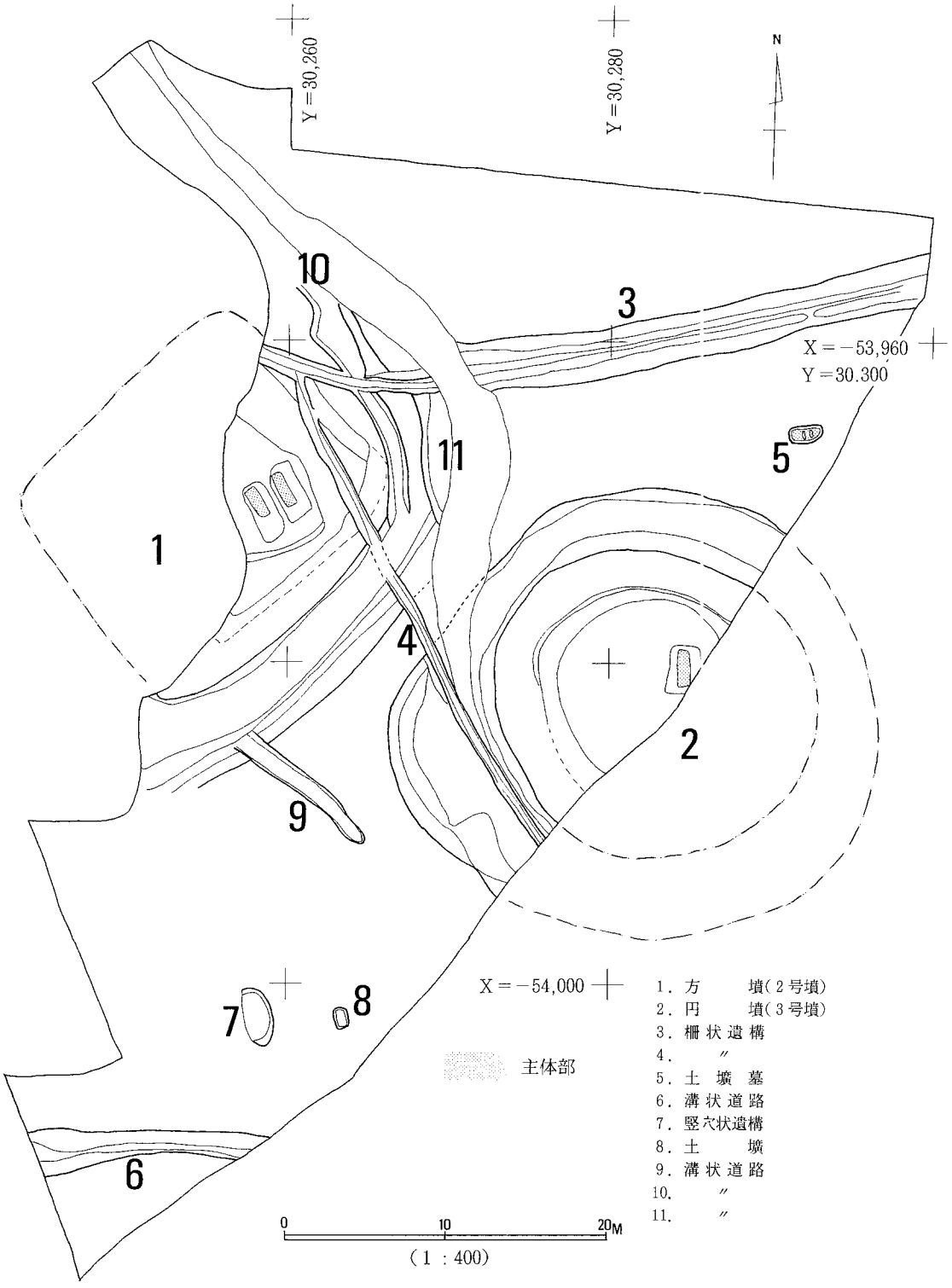
**所在地**　市原市潤井戸字居鞍1,516他

**調査期間**　昭和63年1月6日～同年6月30日（本調査）

**調査面積**　1,000㎡

**調査概要**　本遺跡は、市原市埋蔵文化財分布地図（1988年3月市原市教育委員会）北部編によれば、南大林遺跡となるが同地に居鞍古墳群があり、その2号の全体および3号の½を調査対象としたので居鞍遺跡となった。位置は北面に村田川中流域の沖積地とし、村田川支流神崎川を西側として市原台地を分断している。東側は村田川支川村田川及び支谷によって下総台地と分断している。遺跡の立地は北側は村田川の低位段丘面として、約1㎞北へ西山遺跡があり、やはり低位段丘面に東方向1㎞に杉山古墳(前方後円墳　全長60m)がある。神崎川を隔てて、北東方面1㎞は大廐遺跡がある。居鞍遺跡は、低位段丘上に突き出した中位段丘上の先端にある。先土器時代にはハードローム層中に10数点の小さな地点分布を検出し、安山岩製の石核等を採集したがツールはなかった。平坦全面は縄文時代早期の条痕文系の包含層があり、有孔の垂飾を1点検出している。居鞍古墳群の2号墳(概要図の1)は当初円墳と思われたが、調査の結果方墳と判明した。墳丘の⅔は土取りで崖地となっていたが、主体部を2ヵ所検出することが出来た。主体部には遺物は皆無であったが、墳丘上にハケ目の付いた甕片を数点と、周溝中1次埋没土中から坩の破片を検出した。未整理のため断定できないが、和泉式期と考えてよいと思う。また3号墳(概要図の2)の墳丘下旧表土中より、2号墳の時期と考えられるハケ目の甕を1個体分つぶれた状態で検出している。3号墳は円墳で、周溝内径が約20mあり墳丘とテラス部の検出が比較的容易になされ墳丘径が約14mと観察ができた。主体部からの遺物の検出はなく、墳丘上から鉄刀の破片と周溝中より土師器の杯を検出した。時期は鬼高式期と考えられる。3号墳北側に周溝より5m程離れた土壙墓が3号墳主体部長軸より90°振った状態で検出されている。土壙墓は底部に2条の落ち込みが有り棺台痕と思われる。概要図3号と4号は柵条遺構と考えたい。3は数回の掘り返しがあり、最後の埋没時に上層中1707年降下の宝永火山灰が検出されている。4は箱形の掘り込みで墳丘上まで及び、かなり深い掘削をしている。

居鞍遺跡の半径1㎞地区内には、同じ台地上で久々津、杉山、潤井戸天王台古墳群と50基近い古墳が確認されている。また集落遺跡として、西山遺跡、天王台遺跡、稲干遺跡と古墳群としての墓域と被葬者のいた集落との関係を把握することが可能な地域である。それは、沖積地の生産地区と低位段丘上の居住区そして、台地上の墓域があるという小地域内で自然地形の変化がまとまっているからとも考えられる。　（近藤　敏）


Y＝30,260
Y＝30,280
N
10
3
X＝－53,960
Y＝30.300
11
5
1
4
2
9
X＝－54,000
7
8
主体部
6
0
10
20M
（1：400）
1．方　　墳（2号墳）
2．円　　墳（3号墳）
3．柵状遺構
4．　〃
5．土壙墓
6．溝状道路
7．竪穴状遺構
8．土　　壙
9．溝状道路
10．　〃
11．　〃

潤井戸居鞍遺跡概要図

# 7. 潤井戸天王台遺跡（2次）

**事業名**　都市計画道路草刈・西広線建設工事に伴う埋蔵文化財調査

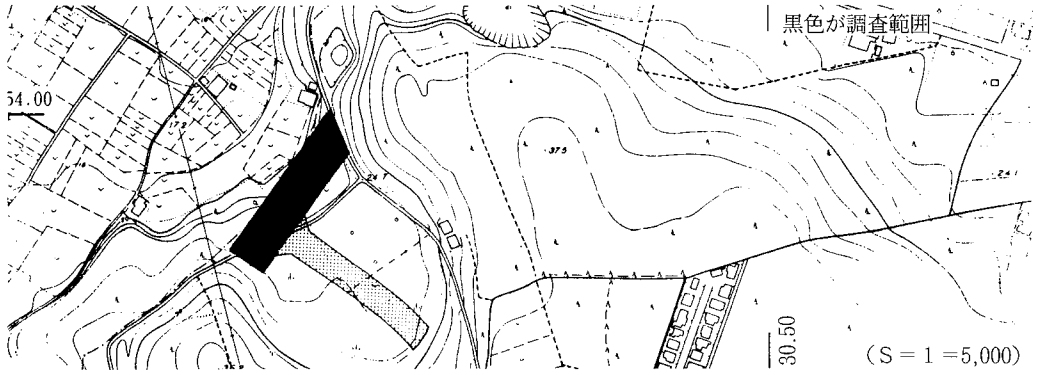
**所在地**　市原市潤井戸字居鞍1,519番地

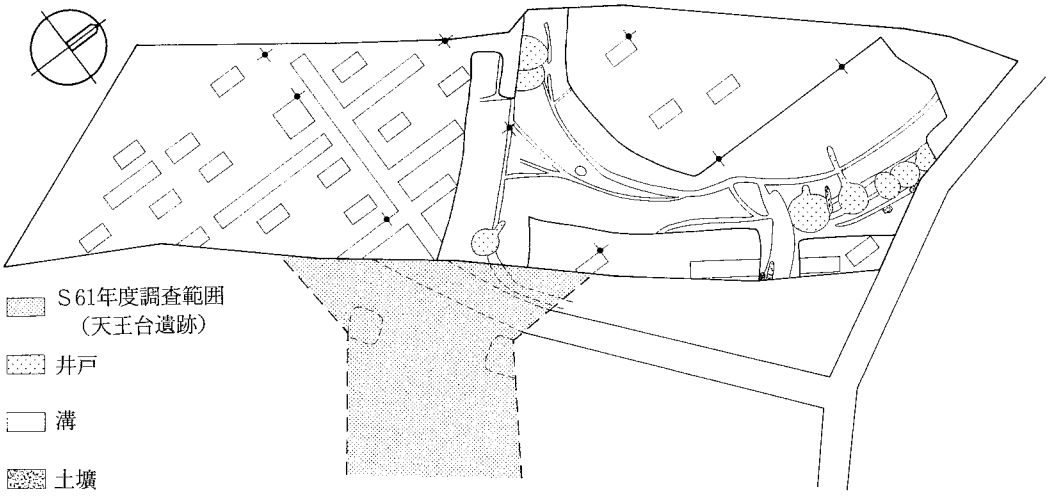
**調査期間**　昭和63年4月1日～昭和63年4月28日

**調査面積**　1,600㎡

**調査概要**　天王台遺跡（2次）は、標高36m前後の舌状台地突端部に狭まれた標高23m前後の谷津緩斜面に位置し、南側には前年度報告書刊行済の調査範囲が隣接しており、　また当遺跡を狭む台地上には、肉眼でも顕著に観察できる居鞍・天王台古墳群が濃密に分布している。

前年度調査範囲より検出された遺構を中心としてさらに北側にも展開しているものと推定されたが、調査の結果、前年度に検出をみた住居跡はまったく検出されず、かわって近世以降を中心とする井戸跡・溝などが検出されたにとどまった。　（木對和紀）




**天王台遺跡（2次）位置図及び遺構配置図**

# 8. 潤井戸小谷1号墳

**事業名**　砂防整備工事に伴う埋蔵文化財調査

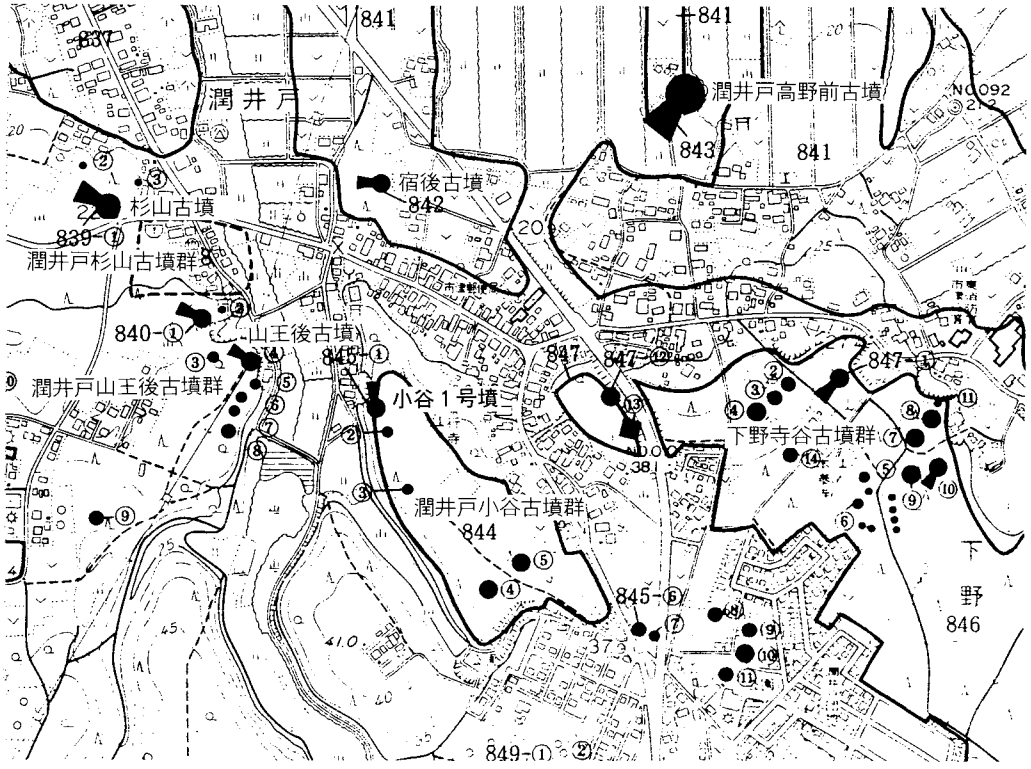
**所在地**　市原市潤井戸字小谷678他

**調査期間**　昭和63年8月1日～昭和63年9月15日

**調査面積**　760㎡

**調査概要**　潤井戸小谷1号墳（以下では「小谷1号墳」と略称）は、村田川左岸の標高約40mの台地上に存在する。小支谷をはさんで対岸には、山王後古墳を含む、潤井戸山王後古墳群が所在する。この山王後古墳は昭和52年に、高圧線の鉄塔建設に際し調査が実施された。全長33mの前方後円墳である。調査では、直刀・鉄鏃が出土し、本棺直葬の主体部も検出されている。その他、小谷1号墳の周辺には図示したように前方後円墳が比較的集中しており、村田川中流域左岸における1つの核を形成している感があるが、それぞれ、時期・内容等ほとんど詳細は不明のままである。

今回の調査は、砂防整備工事に先行して行なった。急傾斜地である上に、千葉県東方沖地震度重なる集中豪雨等により、地盤が緩み、崩落が頻繁に起こり、既存の擁壁では対応できない




**小谷1号墳と周辺の遺跡（1万分の1）**
（市原市埋蔵文化財分布地図－北部編－より）

という状況を受け、新たに斜面の傾斜をゆるやかにし、新たに斜面部を補強するという計画がたてられたのであるが、その崩落を繰り返す崖上に、本古墳が存在した。このような切迫した状況における調査であったため、トレンチの調査及び、埴輪列の検出、およびくびれ部の調査に留まった。規模については、前方部の周溝が判然としないが、全長約45mと推測される。

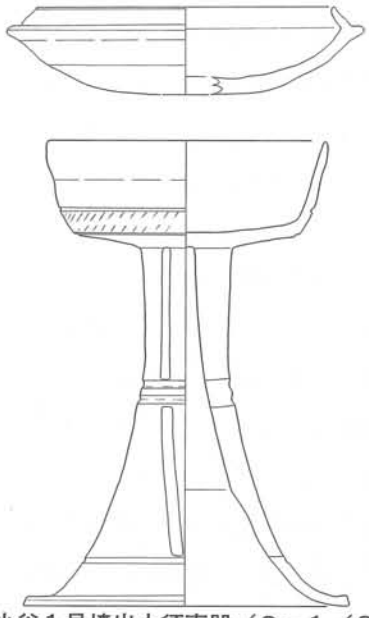
今回の調査における特筆すべき成果は、円筒埴輪列の検出である。前方部側で約50本、後円部側で約10本の円筒埴輪列が検出された。特に前方部における埴輪列の遺存状況は良好であった。埴輪の形態は、いずれも口縁形約20cm、基部径約10cm、高さ40～50cmで、タガの断面形はほとんどが丸味を帯びた三角形で、三条巡らされる。いわゆる「3条4段」の円筒埴輪である。色調は、暗赤褐色のものがほとんどであるが、わずかに、黄褐色を呈するものが認められ、これらのうちには、黒斑を有するものがある。なお、形象埴輪は、検出されなかった。

円筒埴輪の他には、図示したような、須恵器の坏が、周溝覆土中から検出され、無蓋高坏が墳頂部から検出されている。他に、今回は図示し得なかったが、須恵器の大甕が、同じく墳頂部から検出された。おそらく、主体部にかかわる遺物と思われるが、当該部分は大木が存在しており、それ以上の調査は行ない得なかったので、推測にとどめておく。なお、この大木は、調査終了後移植されたが、その移植作業に立ち合った際に、鉄刀の柄の部分が出土したが、他に遺物の出土はなく、上途のように急を要する工事でもあり、主体部の痕跡を精査することは不可能であった。

これら遺物の他に、くびれ部の裾部では住居跡が検出された。この住居跡は、東側は残在していなかったが、残存している部分においてはカマドの痕跡は認められず、あるいは、特異な性格を有するものであるかもしれない。覆土中からは、多量の埴輪片が出土したが、床直上からは、特に良好な遺物の出土は認められなかった。

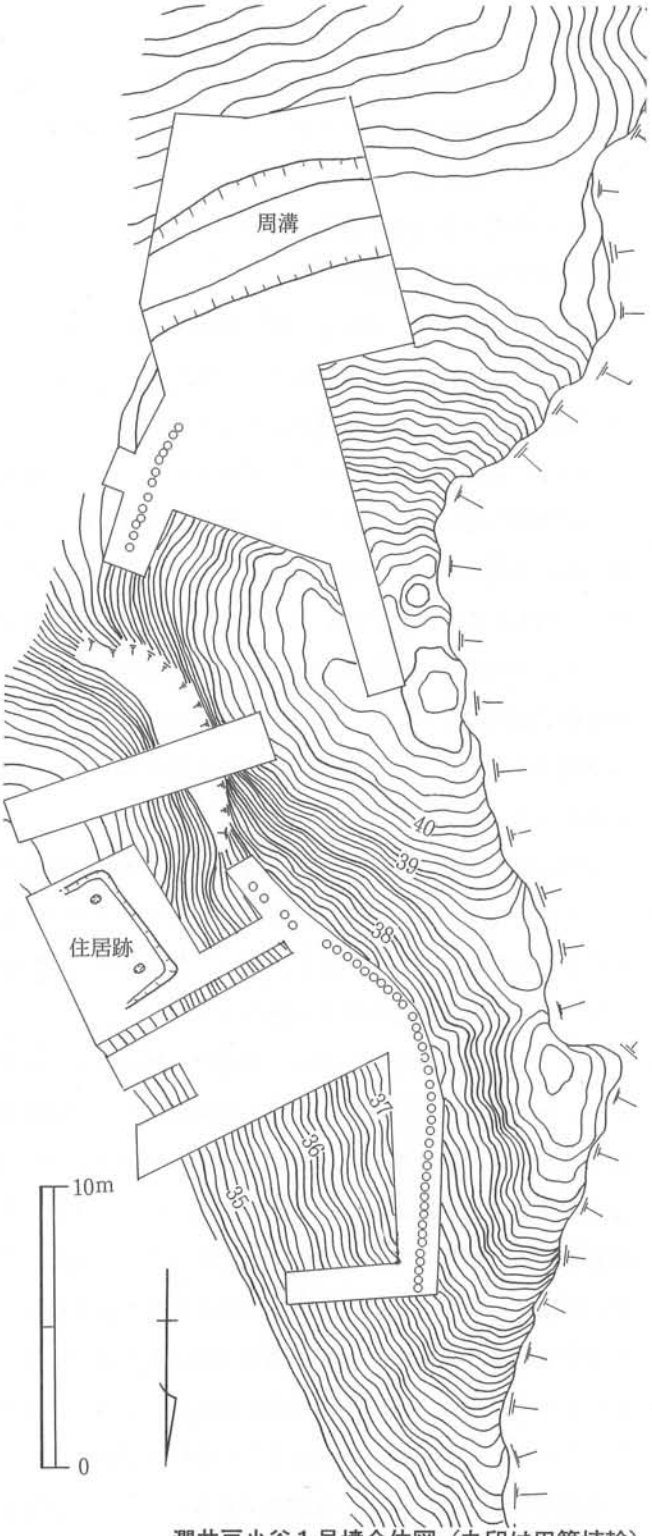
小谷1号墳の年代については、諸遺物の特徴から、6世紀後葉に位置づけられると考えられるが、市原市域における他の埴輪との関係、あるいはその生産地の問題等、今後検討しなければならない点は多々ある。当該期の埴輪の生産址については、現在までのところ本市域あるいは、隣接する諸地域においても発見されていない状況にある。また、現在までに知られている埴輪生産地の製品との比較対象も今までのところ行なっていない。いずれかの生産地からの流通の結果によるものか、在地での生産を考えざるを得ないかは、今後の課題して残るが、いずれにせよ、現在までのところ、潤井戸地区上における唯一の埴輪出土例である点を重視する必要があろう。小谷1号墳築造に係る集落も、今のところ不明であり、今後の調査に期待せざるを得ない部分は多いが、今回出土した資料を手がかりとして、多少なりとも、本古墳を取り巻く歴史的背景を明らかにする必要があるのではないかと思う。

（高橋康男）



小谷１号墳出土須恵器（Ｓ＝１／３）

円筒埴輪（Ｓ＝約１／４）




潤井戸小谷１号墳全体図（丸印は円筒埴輪）

# 9. 定堀込遺跡

**事業名**　市原市内遺跡群発掘調査　市原市教育委員会

**所在地**　市原市能満字定堀込1789－3他

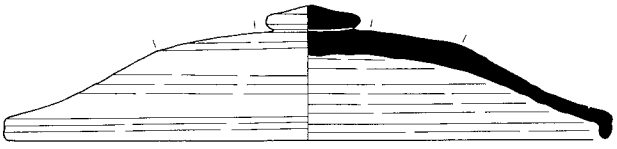
**調査期間**　昭和63年7月25日～昭和63年8月5日

**調査面積**　740㎡のうち250㎡

**調査概要**　定堀込遺跡は、定堀込古墳群として、市原市遺跡地図北部編において周知されている。定堀込遺跡の正式報告は、昭和63年度の市原市内遺跡群発掘調査報告（1989年3月、市原市教育委員会）にて詳細は報告済である。ここでは定堀込古墳群1号墳について主に報告する。当古墳は、市原台地のほぼ中央に位置し、能満台に水源を有する新田川の東側支流の支谷と、村田川支流神崎川の支流の分水嶺上のやや広い台地上にある。新田川は市原の国府推定地をかすめて、市原条里制遺跡の水源となっている。村田川支流菊間川は、古墳時代国造の奥津城菊間古墳群の南側を廻り込みその支流の水源地が能満の四辻付近となる。台地中央であるが、交通等の要所である。付近には古墳時代に属する古墳群等は確認されておらず、今回の調査でも定堀込1号墳は、時期的にも古墳時代より新しいことが判明した。古墳時代より新しい古代律令期に入る墳墓で墳丘が調査前より確認されているのは、奉免上原台遺跡の数基である。従来墳丘があるものが普通でありながら検出例が少ないのは元々古墳時代の古墳より墳丘が低いと考えられる。調査した1号墳の2／3は現存しており、約1mの墳丘を確認することができる。下載した須恵器は周溝の1次埋没土（ロームブロック等が多量に入る）中に検出されたもので、古墳の築造時期に当ると考えられる。今回主体部は検出されなかったので、主体部の遺物に伴うのかは確認できない。

定堀込遺跡の周辺は、製鉄（鍛冶）跡と寺の墨書の出土した南大広遺跡、奈良平安時代と考えられる大溝の検出された東四辻遺跡等、奈良平安時代の遺跡が多く、古墳時代の古墳群は確認されていないことなどから、律令期に入る段階での新興勢力または、新しい役人集団の墓域としての性格があると思われる。7世紀末から8世紀の上総地域の墓制さらに、律令期へ移行する時代の被葬者たちの動向を知る上にも、当該期の研究に重要な材料であると考えられるのが、定堀込遺跡の1号墳の調査の展望である。

（近藤　敏）



セ83・1・5

須恵器の蓋でほぼ完形
やや偏平な擬宝珠状の鈕をもち、器高36㎜口径161㎜を測る。天井部に逆時計回転の回転ヘラケズリを加える。
胎土は長石他白色粒を多量に含む。焼成良好、器面色調は、灰色を呈す。

H=35.32
M

N

0　　10m

(1 : 150)

撹　乱

■ 須恵器出土地点
セ83－1・5

● 地籍境界杭

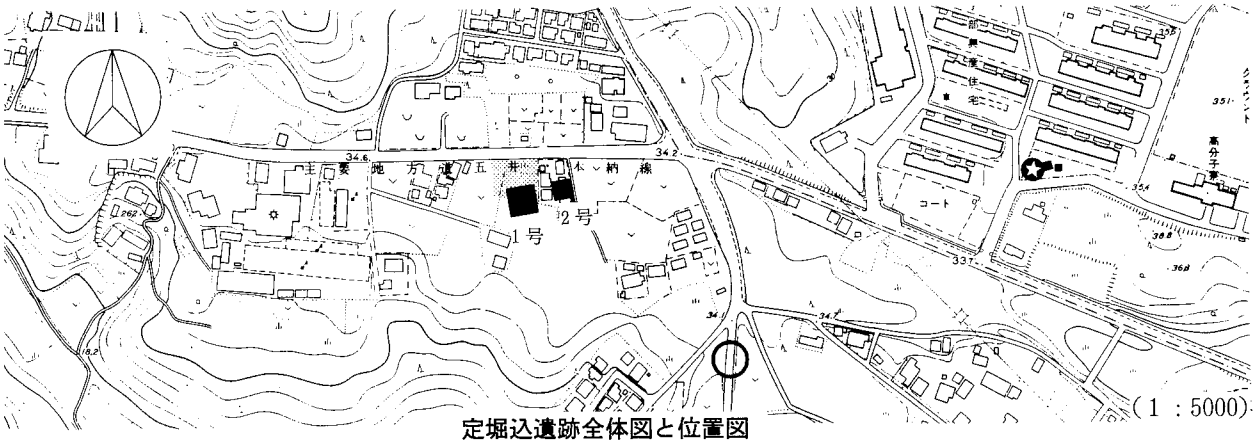
定堀込1号墳

■ 能満定堀込古墳群

○ 能満東四辻遺跡(1986, 1987年調査)

✪ ■ 山木南大広遺跡(1967年調査)

墳丘頂部




定堀込遺跡全体図と位置図

# 10. 郡本大宮遺跡（こおり もと おお みや）

**事業名**　宅地造成（市原地区）に係わる埋蔵文化財調査

**所在地**　市原市藤井三丁目135－1他

**調査期間**　(確認調査)昭和63年10月12日～11月10日・(本調査)昭和63年12月1日～平成元年4月15日

**調査面積**　確認調査対象9,000㎡・本調査5,500㎡

**調査概要**　本遺跡は仮称市原台地の内陸部台地上に位置し、直接東京湾を見下ろす台地縁辺までは、直線距離で1㎞ほどを測る。台地は標高26m前後を測り、基部を南西に有し南北170m・東西100mほどの舌状台地を呈している。南西方向300mの近距離には「王賜」銘鉄剣出土の稲荷台一号古墳や「貞観十七年十二月二十四日」の紀年名墨書土器を検出した、稲荷台古墳群や稲荷台遺跡が所在し、支谷を隔てた南東台地上には古墳時代後期の集落跡の千草山遺跡が調査されている。また、本遺跡北側一帯は、上総国府推定地の一つである郡本遺跡群が所在する。

調査以前は、市原中学校舎やグランドの敷地として使用され、台地中央部は大きく削平を受け、遺存状態のほどは当初より予想されていた。

調査の結果、遺構は削平を免れた台地縁辺部を主体に、縄文時代の陥し穴1基・炉穴4基、弥生時代の竪穴住居跡2軒、古墳時代後期の竪穴住居跡38軒・土壙1基、奈良～平安時代の竪穴住居35軒・掘立柱建物跡3棟・土師窯跡2基などを検出した。

古墳時代の竪穴住居跡の中には、カマドと対置して方形の張り出し部を有し、貯蔵用ピットを有する比較的大形の4軒の住居跡がある。また同時代の住居跡としては当地域では最大級の1辺12mを測る60号住居跡が確認されている。遺物には、土師器坏・甕・高坏・須恵器坏などの他に金銅製耳環1点がある。奈良～平安時代では、掘立柱建物跡は2×3間であるが柱間は一様ではない。出土遺物には、ロクロ土師器を主体に、土師器甕・須恵器甕・須恵器坏などがある。須恵器には、南河原坂窯産と思われる還元炎焼成の不完全なものや、永田・不入および石川窯産の物も多く存在している。土師器窯は、十世紀代のロクロ土師器を焼成したもので、市原市内では初めての発見例である。2基とも残りが極めて悪く、一方は窯底のみで、もう一方は台地斜面に位置して大きく攪乱を受けている。

遺跡の主体は、六世紀前半から九世紀までの断続的に営まれた集落跡にある。その様相は、六世紀前半から後半までと、八世紀後半から九世紀が最も盛行する時期で、他の時期は希薄な時期である。

もし、校舎建設などで失われなかった台地中央部が残っていたならば、200軒以上の住居跡の存在が予想され、支谷を隔てて南東に隣接する千草山遺跡との存在を考え合わせると、この地域は古墳時代後期の拠点と言えるものである。　（浅利　幸一）

H46
H45
H44
H43
H47
H36
H51
H50
H42
H57
H54
H56
H58
H48
H35
H41
H30
H52
H53
H55
H59
H34
H33
H31
H71
H61
H49
H29
H60
H73
H32
H62
H65
H40
H27
H28
H63
H37
H26
H39
H38
H64
H66
H23
H70
H24
H22
H25B
H21
H25A
AK3
H18
H13
H20
H68
H12
H19
H16
H67
H11
H14
H15
H17
H69
H10
H9
H8
H7
AK2
H6
H2B
H1
H2A
H3
H5
H4
H72
0
30m

郡本大宮遺跡全体図

# 11. 能満下小貝塚遺跡

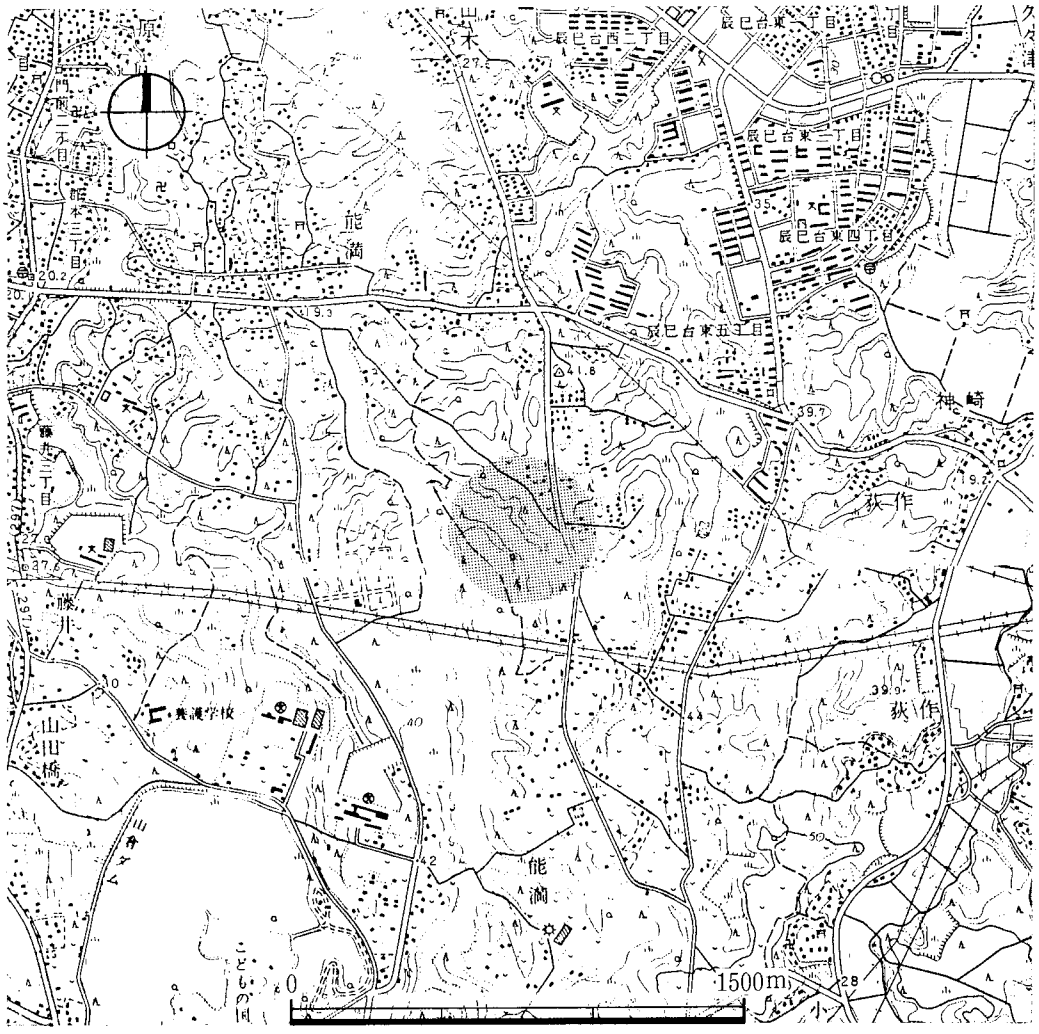
**事業名**　残土処分場設置に伴う埋蔵文化財調査

**所在地**　市原市能満字上小貝塚1940-4他

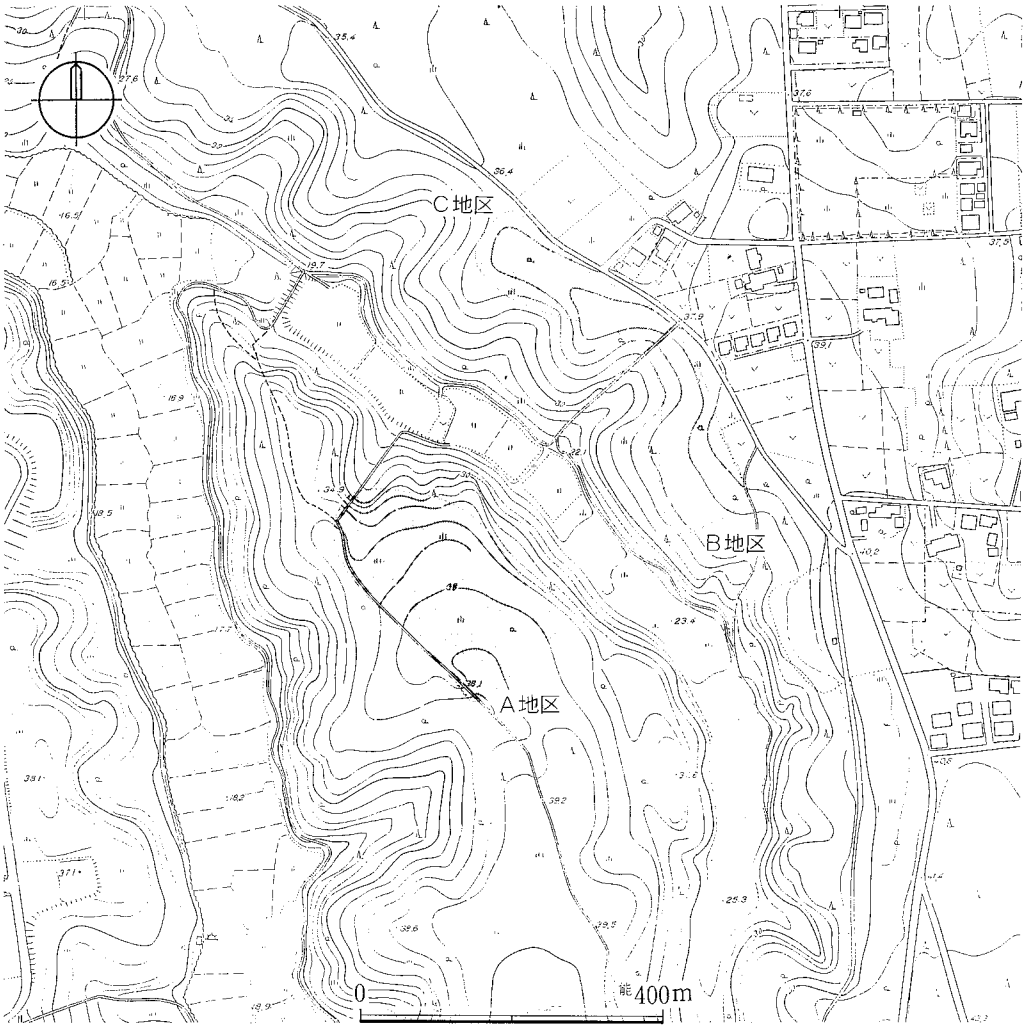
**調査期間**　昭和63年10月18日～昭和63年11月10日

**調査面積**　15,000㎡のうち750㎡

**調査概要**　下小貝塚遺跡は標高およそ38m、南北方向に開口する支谷に狭まれた舌状台地突端部に位置し、検出された遺構と遺物によって古墳時代前期以降を中心とする遺跡として捉えられるA地点と、支谷を狭んで東対岸に位置し、縄文時代を主体とする遺跡と考えられるB・C地点にわかれて存在し、それぞれ独立した別の遺跡として捉えられる。ただし、今回は個々の




第1図　下小貝塚遺跡位置図

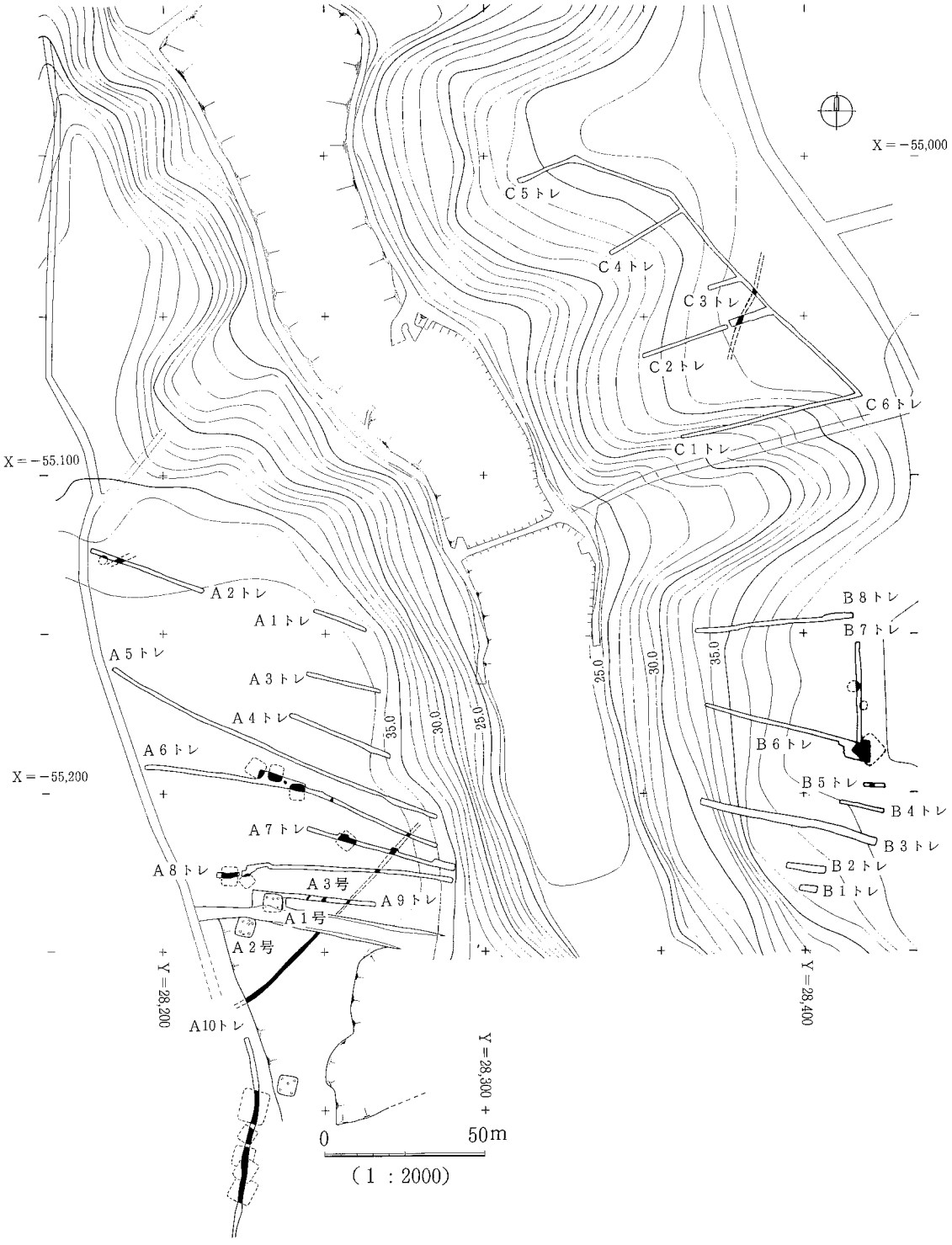



**第２図　下小貝塚遺跡調査範囲と周辺地形図**

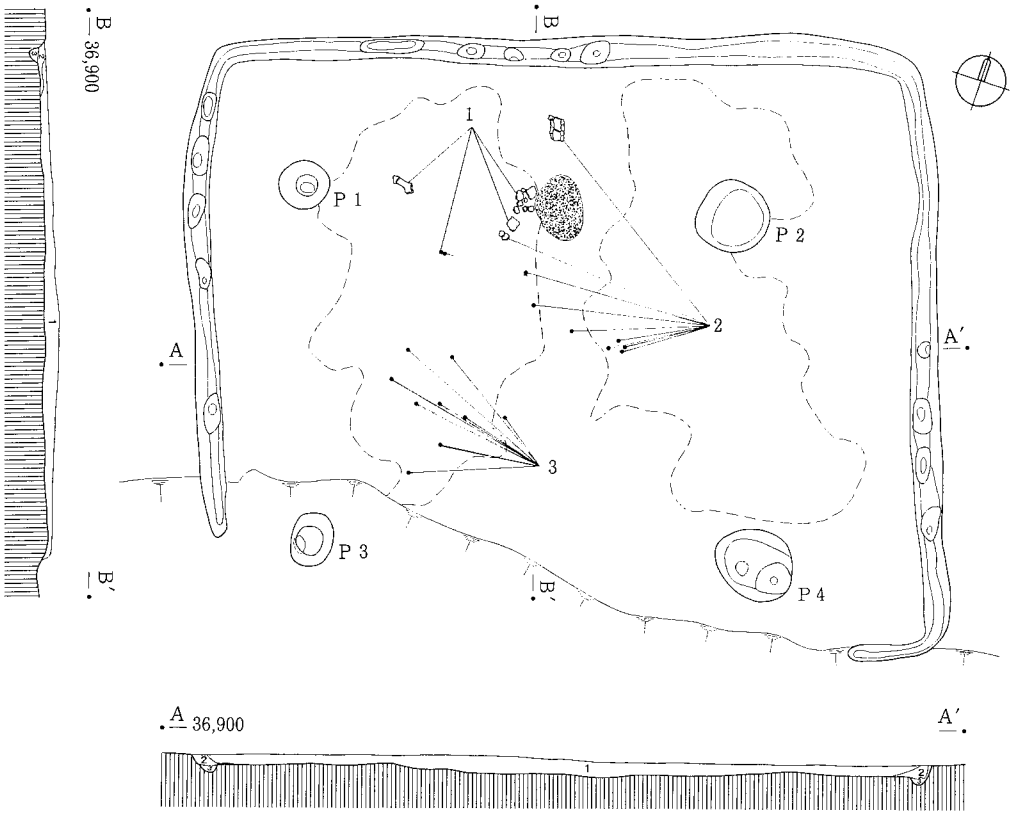
遺跡名を付して調査を実施せず、便宜上各支谷によって隔たる地域を単位とするＡ～Ｃの３地点に分けて調査を実施した。調査は残土処分場設置工事におけるＡ地区及びＢ・Ｃ地区に狭まれた支谷埋め立て工事に伴う遺構分布範囲の確認調査であったが、Ａ地点南側においてはハードローム層以下に達する削平の為、すでに遺構が露呈している状況であり、その性格、状況把握の為、一部の精査を実施した。以下各地点における調査概要を述べる。

〈Ａ 地 点〉

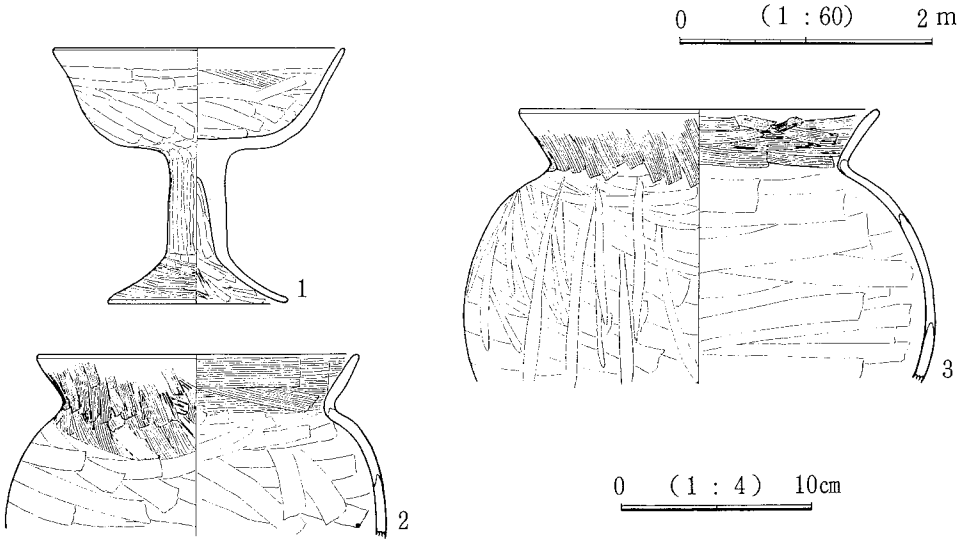
Ａ地点に対しては合計９本のトレンチを設定し、７軒の住居跡と３条の溝，４基の土壙を検出した。またこれ以外にハードローム層以下に達する削平を受けた南側の地域において、２軒



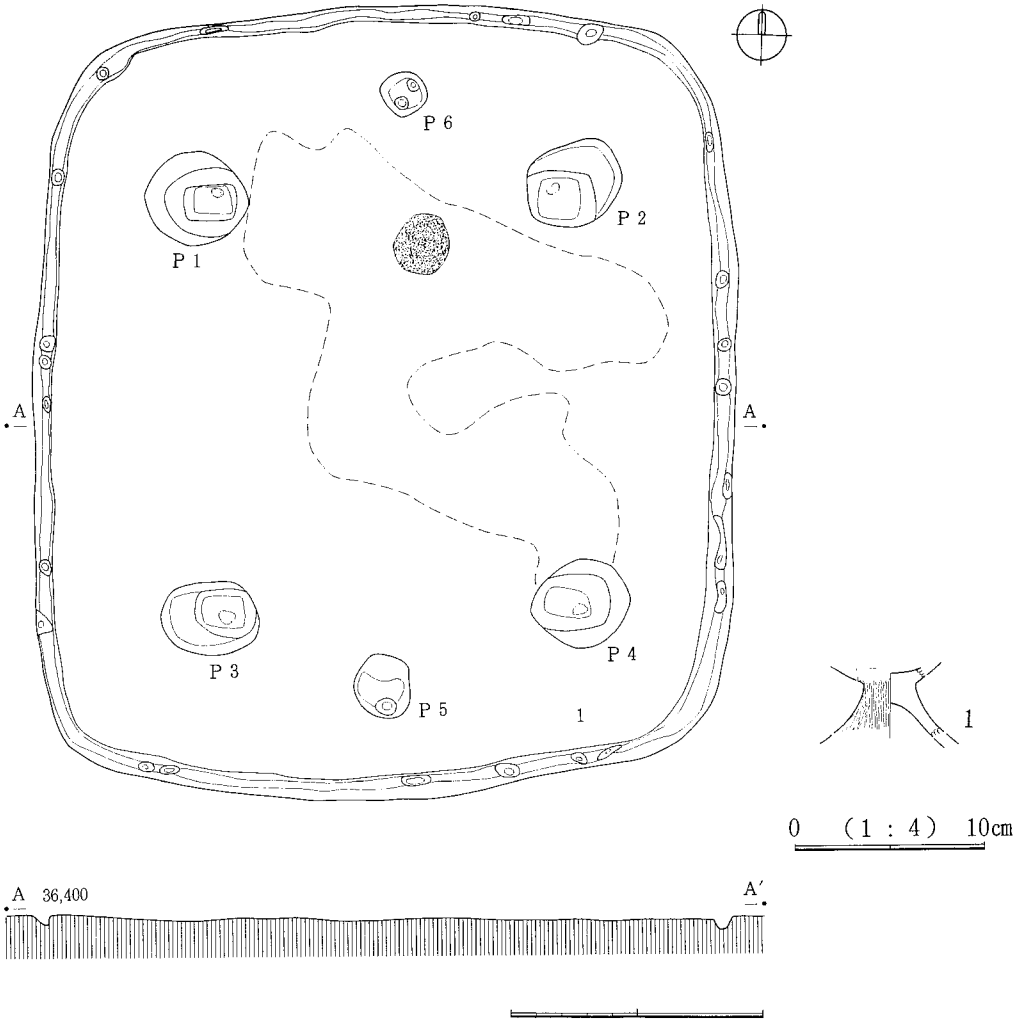

第３図　下小貝塚遺跡周辺地形図及び遺構配置図



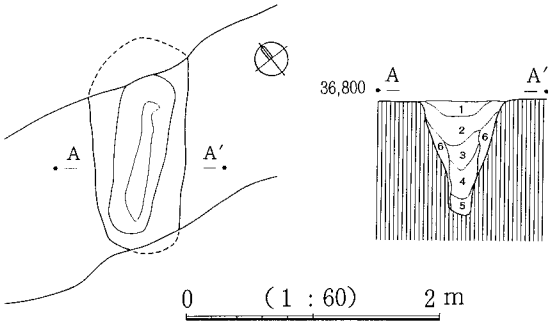

1．暗褐色土　ローム粒若干含む。有機質性強い。
2．暗褐色土　ローム粒やや多く含み有機質性は弱い。
3．褐 色 土　ローム粒多量に含み有機質性は極弱い。




**第４図　下小貝塚遺跡Ａ地区１号遺構実測図・出土遺物実測図**

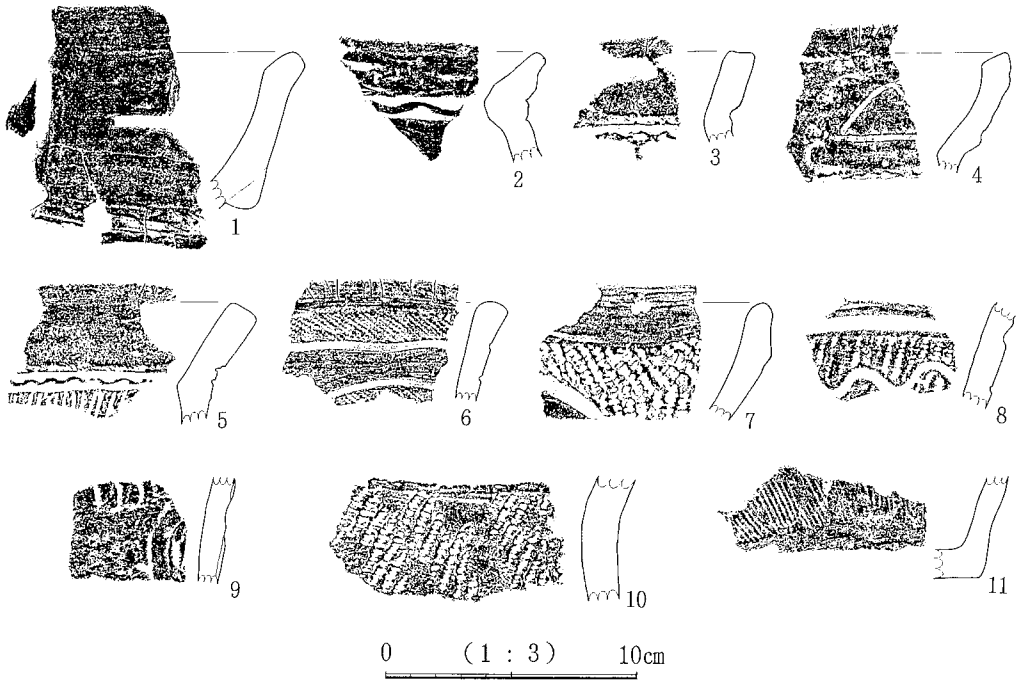



第５図　下小貝塚遺跡Ａ地区２号遺構実測図・出土遺物実測図




1．黒褐色　有機質性強やや締り弱
2．黒褐色　有機質性強ローム粒若干含む
3．暗褐色　ローム粒やや多く含む
4．暗褐色　ローム粒ロームＢやや多く含む
5．褐　色　ローム粒ロームＢ多量に含む
6．褐　色　ローム粒多量に含む

第６図　下小貝塚遺跡Ａ地区３号遺構実測図




**第７図　下小貝塚遺跡Ｂ地区出土遺物実測図**

の住居跡と溝を検出し、No.５～９トレンチにおいて検出された溝が、さらに南西の方向にのびていることが確認された。またNo.10トレンチは市文化課における試掘トレンチであり、トレンチ内を再精査してみた所、さらに５軒の住居跡が存在していることが確認されている。これらの遺構のうち遺構No.を付した１～３号遺構は、床面及び断面を露呈させていたものや，方形周溝墓等の可能性があるものであり、その性格・状況把握の為調査を実施した。

**１号遺構**（第４図）

２号遺構の北側に存在し、南側覆土を削平されて存在する。平面形は東西方向にやや長い隅丸方形を呈するものと考えられ、長軸5.87ｍ、短軸床面残存長4.28ｍを測り、短軸方位はＮ－19°－Ｅを示している。Pitは合計４本検出され、$P_1$～$P_4$は主柱穴と捉えてよいものと考えられる。確認面からの深さは$P_1$38cm、$P_2$39cm、$P_3$25cm、$P_4$28cmを測る。ただし、$P_3$及び$P_4$の周辺は床面以下に及ぶ削平を受けている為、本来の高さからの堀り込みではない。炉は$P_1$～$P_2$間のほぼ中央に存在し、よく焼けている。床面は炉を中心とした左右の範囲が比較的よく踏み固められている以外は軟弱である。南側は床面以下に及ぶ削平を受けており周溝も全周していないが、残存した箇所の周溝深さは４～13cm前後を測り覆土は自然推積の状況を示している。

**遺物**、合計３点の図示可能遺物が検出されている。これらはいずれも炉及び硬化した床面付近に密着した状況で検出されており、本遺構に直接伴うものと考えられる。

**２号遺構**（第５図）

遺構の大半はすでに床面以下に達する削平を受けて存在し、炉及び柱穴間の周囲のみ硬化した床面が存在するものの覆土は全く存在しておらず、遺存状況は極て不良である。平面形は南北方向にやや長い隅丸方形を呈しており、長軸6.30ｍ，短軸5.55ｍを測り、主軸方位はＮ－１°－Ｗを示している。Pitは合計６本検出され、$P_1$～$P_4$は主柱穴であるものと考えられる。深さはそれぞれ$P_1$82cm，$P_2$90cm，$P_3$99cm，$P_4$70cmを測り、底部に明瞭な柱痕跡を有している。$P_5$は入口施設に伴うものと考えられ、深さは32cmを測る。$P_6$は性格不明のPitであり、深さは16cmを測り立ち上りは緩やかであり、主柱穴や$P_5$と比較しても著しく浅い。炉は$P_6$の南側$P_1$，$P_2$間のほぼ中央に位置し、火床面を残すのみであるがよく焼けている。周溝は全周残存し、深さは２～10cmを測る。

**遺物**　覆土がまったく存在しなかったので検出遺物が少なく、図示可能遺物は$P_4$南側床面密着状態で検出された１の高坏脚部１点のみである。

**３号遺構**（第６図）

Ａ９トレンチ中央部に存在する。当初対置する溝状遺構の存在から、あるいは方形周溝墓等の一部かと考えられたが、調査の結果図示のごとく土坑であることが判明している。遺構上端はトレンチ外に及んでいるが下端長軸長96cm、深さは確認面より92cmを測り、下端長軸方位はＮ－20°－Ｅを示している。

遺物まったく検出されなかった。

**第１表　１号・２号遺構出土器観察表**

| 図番 | 器種<br>遺存度 | 法量（cm）<br>口径 | 底径 | 器高 | 焼成 | 色調 | 胎土 | 整形・調整等 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4－1 | 高坏½残 | 15.3 | 9.4 | 13.7 | 良好 | 外茶褐色<br>坏内暗褐色<br>脚内茶褐色 | 密 | 外　坏部ヘラケズリ～ヘラナデ、脚部ミガキ、裾部ミガキ<br>内　ヘラナデ | 外(赤彩)<br>坏部内面(赤彩) |
| 4－2 | 甕口縁胴上位のみ | 16.8 | － | － | 良好 | 外暗褐色<br>内淡褐色 | 密 | 外　口縁部ハケ、胴部ヘラケズリ<br>内　ヘラナデ | |
| 4－3 | 甕口縁～胴部¼残 | 19.0 | － | － | 良好 | 淡茶褐色 | 密 | 外　口縁部ハケ胴部ケズリ後ミガキ、<br>内　ヘラナデ | |
| 5－1 | 高坏脚部½ | － | － | － | 良好 | 赤茶褐色 | 密 | 外　ヘラミガキ<br>内　ヘラミガキ | (赤彩) |

〈A　地　点〉

この他A地点南側10トレンチ東のハードローム層以下に達する削平箇所において、竪穴住居掘り方の残骸が検出されており、炉火床残存痕跡及び現状で深さ10cm前後の柱穴痕の位置関係等から、前述1～2号遺構と同時期の所産かと考えられた。

〈B　地　点〉

B地点に対しては8本のトレンチを設定して調査を実施した。このうち6及び7トレンチ拡張部において方形プランを検出し、覆土上層中より、須恵器大甕の破片を多数検出していることから、古墳時代後期以降の竪穴住居跡であろうと思われた。この他7トレンチ中央部に円形プラン2基を検出しており、付近より縄文土器片が散布して検出されていることから、あるいは当期に比定される竪穴住居跡かと思われる。今回は6及び7トレンチに散布して検出された縄文土器片のうち11点を図示するが、いずれも縄文時代中期阿玉台式～加曽利E式期に比定されるものである。(第7図)

〈C　地　点〉

C地点に対しては6本のトレンチを設定して調査を実施した。2及び6トレンチから検出された溝状遺構以外は、何の遺構も検出されなかった。また遺物検出も少なく、図示に至らぬ細片土器のみである。

## ま　と　め

今回の下小貝塚遺跡の調査によって得られた成果についてまとめておきたい。

A地点については、検出された遺構と遺物によって、古墳時代前期以降を中心とする集落跡であることが判明しており、東対岸に存在する縄文時代を中心とするB・C地区とはまったく別の性格の遺跡であるものと考えられる。また、B・C地区については市道166号線改良工事計画によって周辺の遺跡の存在が次第に明らかになりつつあり、昭和61年度に調査が実施された狩豆柵遺跡との関係などが問題となろう。また今後166号線改良工事は、B・C地区周辺に及ぶことがほぼ確実であり、新たに調査が実施されることによってその全貌はより明瞭にされることであろう。

(木對和紀)

# 12. 根田（辺田・御林跡）遺跡

**事業名**　国分寺台土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査

**所在地**　市原市惣社字辺田788他

**調査期間**　昭和62年12月～63年11月26日

**調査面積**　2,000㎡

**調査概要**　市原市は、東京湾東岸の中央部に位置する。市原市の中央を南北に流れる養老川河口域右岸の台地上は、嘗ての国分二寺の建立されたことにより，国分寺台とも呼称されている。この地域に、大規模な土地区画整理事業が開始されたのは、昭和47年のことである。

根田遺跡は、この土地区画整理事業地域内の西辺部中央の、直接東京湾を望む台地縁辺部の好適地に位置する。

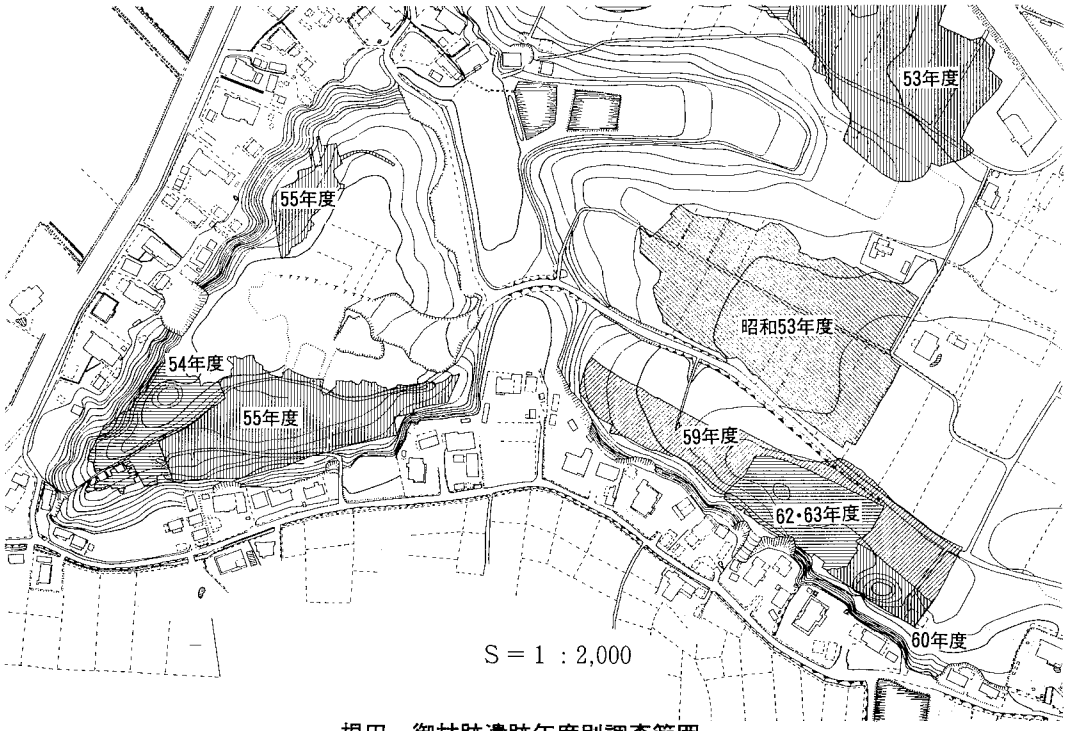
今回の調査は古墳２基・散布地2,000㎡で行われ、周辺域は御林跡遺跡・辺田古墳群として、既に調査が実施されている。すなわち、今回の根田遺跡は古墳が辺田・散布地は御林跡遺跡の一部と考えるべきであろうか。これまでの調査では、弥生中期～後期・古墳時代前期の集落及び古墳の存在が明らかにされている。特に、今回の調査区の南東に隣接した根田６号（辺田一号墳）古墳の調査では、四世紀中葉の墳丘径31ｍの円墳が調査されている。墓坑内割り竹型木棺直葬の埋葬施設からは、素環頭太刀１・大刀１・剣２・槍１・ヤリガンナ１・小型素文鏡１などを検出した他、墳丘下の弥生後期の方形周溝墓の２箇所から５点ずつの銅釧がそれぞれ出土している。

調査期間は、昭和62年12月～昭和63年11月26日迄でのほぼ１ヶ年におよぶが、諸般の事情により一時中断を余儀なくされた。調査期間は、以下の通りである。62年度、現況地形測量と表土剥ぎの一部。63年４月１日～６月14日・11月11日～30日に本格的な調査を実施した。

調査の結果、弥生時代の竪穴住居跡23軒・古墳時代竪穴住居跡７軒・古墳および周溝墓５基・土壙墓２基、奈良～平安時代土壙墓２基、中・近世溝４条・炭窯１基などを検出した。

１号墳は、墳丘径20ｍ前後を測り、西溝中央にブリッジを有する方墳。埋葬施設は、無墓坑の木棺直葬で副葬品等はない。盛土高、2.5ｍを測る。２号墳は周溝のみの検出で、周溝下底間長9.3×8.3を測る。３号墳も周溝のみの検出で、周溝下底間長13.2×13を測る。周溝は南西隅と南東隅にそれぞれブリッジを有する。４号墳は、南辺部溝が斜面に位置し、削平され部分的な検出にとどまり、墳丘径18ｍ・盛土高1.6ｍほどを測り、埋葬施設は検出されない。５号墳は一部の周溝の検出で、奈良～平安期の所謂方形周溝遺構である。

竪穴住居跡30軒は、弥生後期から古墳前期の所産で、北側に隣接した既に調査済みの、御林跡遺跡が弥生中期の集落跡であったことを考えると隔絶の感がある。　（浅利幸一）




根田・御林跡遺跡年度別調査範囲

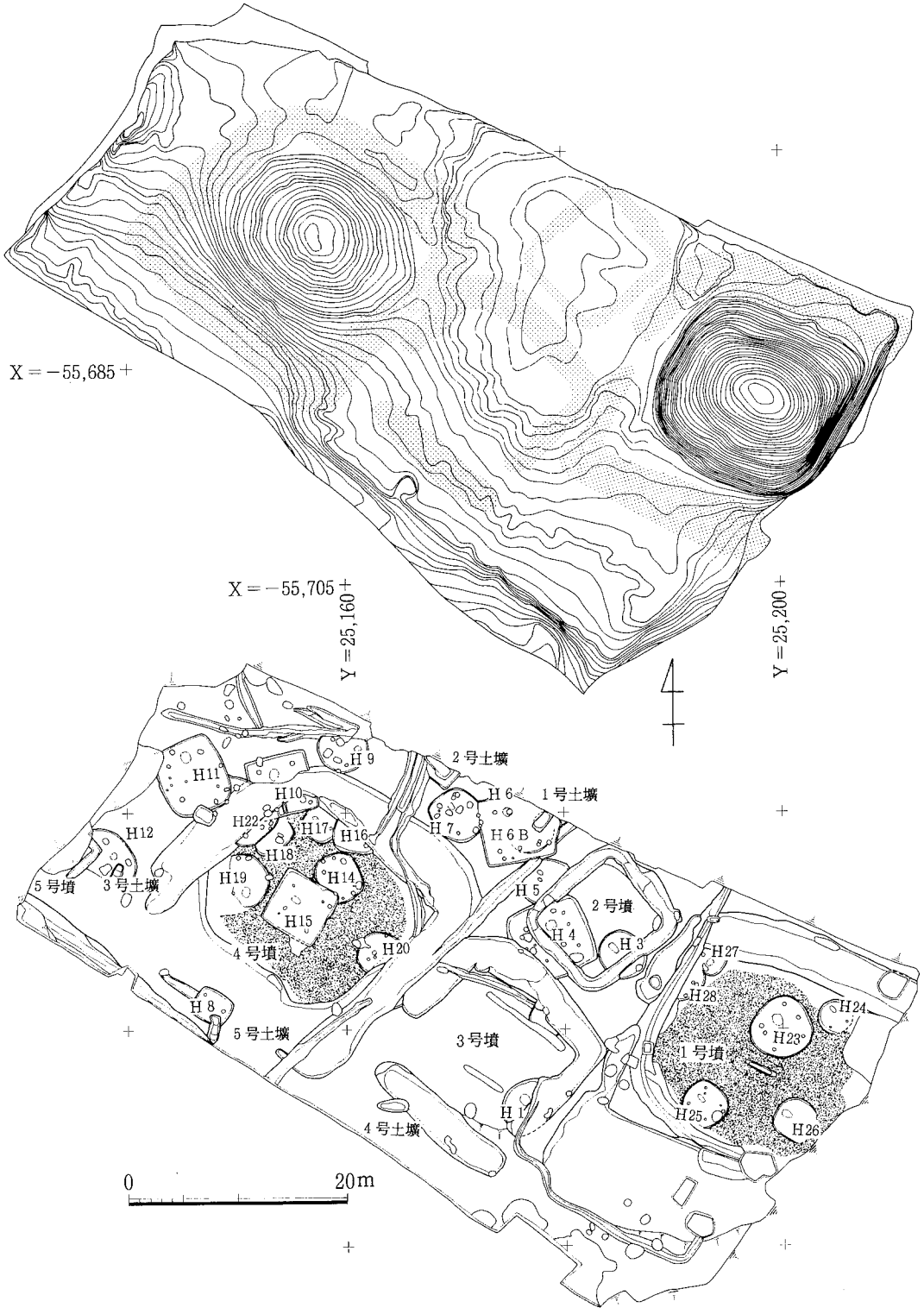
出土遺物では、6号住居跡から結合器台、15号住居跡からS字状口縁甕、5号土壙から灰釉短頸壺と灰釉碗の出土が特筆される。

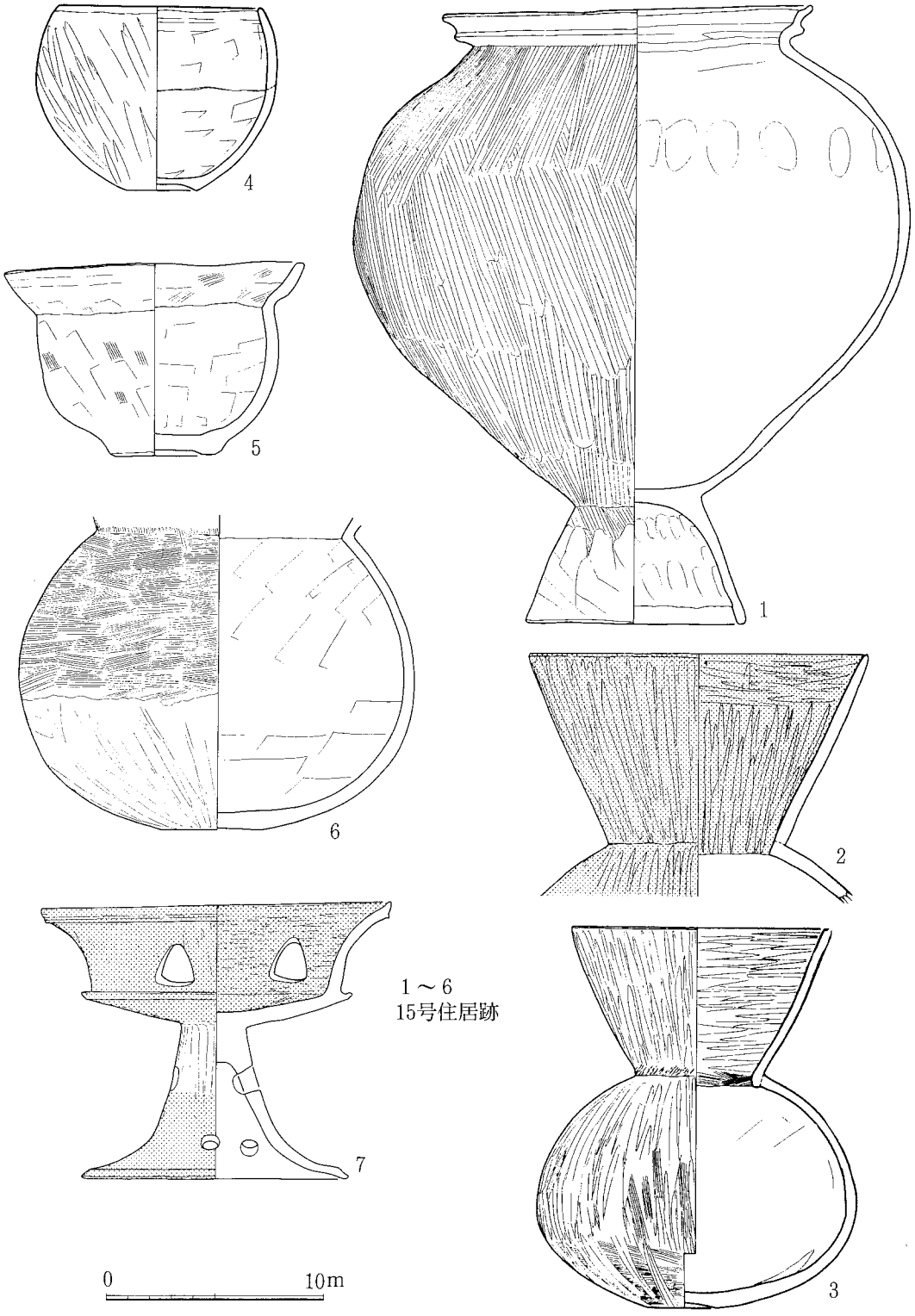
S字状口縁甕は、口径17cm・頸部径14.5cm・最大径25.5cm・基部径5.9cm・台部底径10.1cmを測る。胎土および色調等から搬入品と思われる。

結合器台は、口径16.4cm・基部3cm・脚底径12.7cm・器高12.5cmを測る。坏部体部に丸身のある三角形の透かし3孔と脚上段に3孔・下段に4孔を有する。坏部および脚下半分は赤色処理を施す。

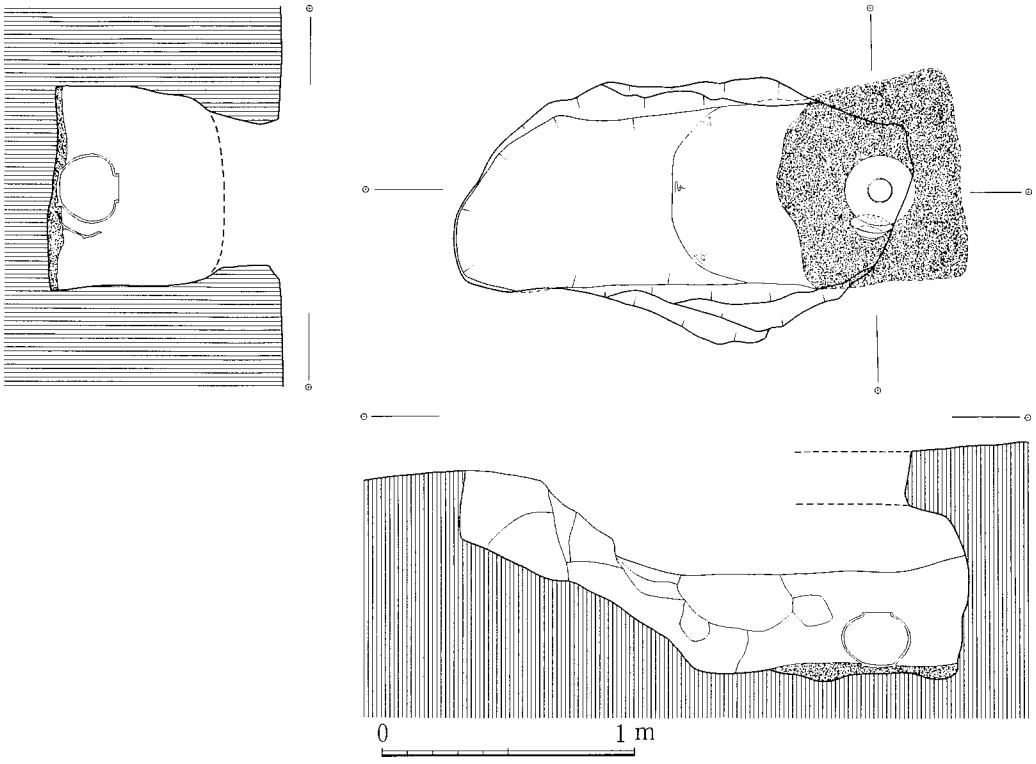
灰釉短頸壺は、口径11.9cm・頸部径11.6cm・最大径22.7cm・高台径15.4cm・器高25.1cmを測る。口縁に僅かな欠けがある他は傷もなく優品である。

灰釉碗は、口径17.7cm・器高5.8cm・高台径8.55cmを測る。内面に三つ又トチンの跡を残す。この灰釉短頸壺と灰釉碗は、5号壙墓である地下式改葬墓から出土し、灰釉碗は灰釉短頸壺の蓋に転用されていとものと考えられる。（浅利幸一）

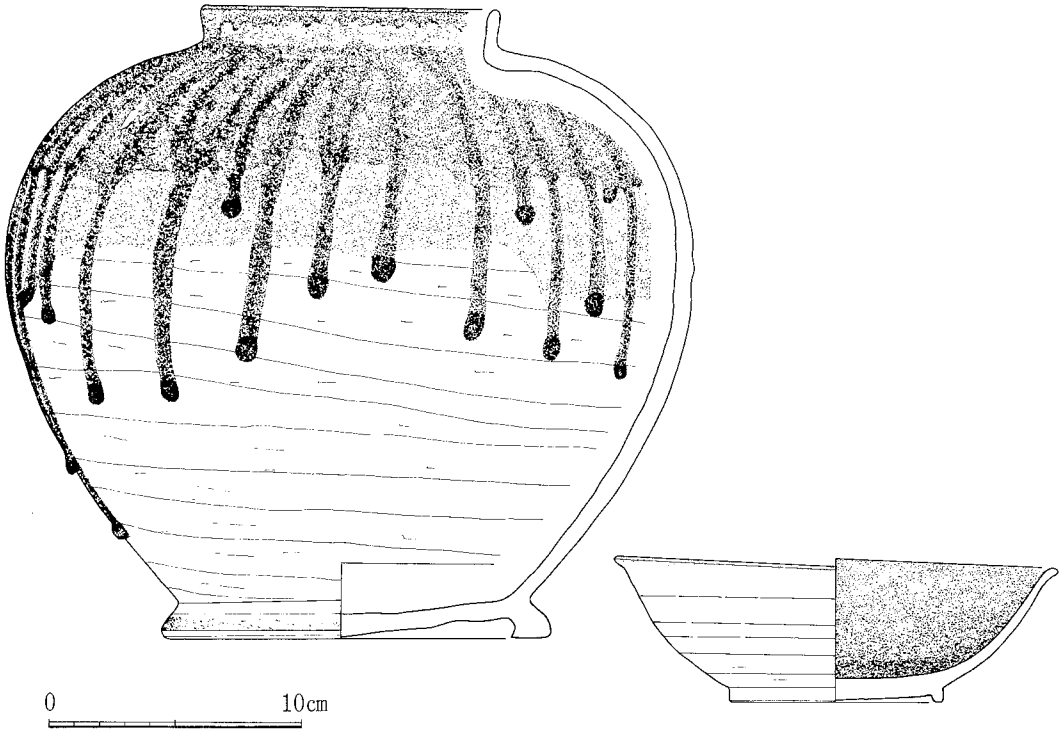

X＝−55,685
X＝−55,705
Y＝25,160
Y＝25,200
2号土壙
1号土壙
5号墳
3号土壙
4号墳
5号土壙
3号墳
2号墳
1号墳
4号土壙
H1
H3
H4
H5
H6
H6B
H7
H8
H9
H10
H11
H12
H14
H15
H16
H17
H18
H19
H20
H22
H23
H24
H25
H26
H27
H28
0
20m




1～6
15号住居跡




5 号墓（地下式改葬墓）



# 13. 史跡 上総国分尼寺跡

**事業名**　史跡上総国分尼寺跡環境整備事業

**所在地**　市原市国分寺台土地区画整理事業地内第1工区101街区

**調査期間**　昭和63年9月19日～昭和63年12月20日

**調査面積**　615㎡

**調査概要**　上総国分尼寺跡については、国分寺台土地区画整理事業に伴い、昭和47年度以降発掘調査が実施され、主要伽藍を除く周辺地域に存在する各種遺構等についての性格・規模等を把握している。

尼寺跡の推定寺域は約11haに達し、そのうち約3万8千㎡が国史跡の指定を受けている。さらに、指定地については神社部分約400㎡を除き市有地として管理され今日に至っている。

今回の調査は、今後の史跡環境整備計画の遂行にあたり、その前提条件となる。尼寺跡の全体像の把握を主眼として実施された。全体像の把握とは、これまで必ずしも明瞭とはなっていなかった。主要伽藍部の解明を意味するものである。

調査は、2ヶ年計画であり、今年度は金堂院地区に着手した。金堂・中門・回廊からなる本地区については、金堂は昭和23,43,45の3次にわたり調査されており、中門については同じく43年に所在が明らかになっている。回廊については、これまでの調査においては判然としていない。

金堂基壇については、これまで東西幅は112尺と想定されてきたが、今回の調査の結果、100尺という事があきらかになった。また、南北幅は66尺である。この基壇に関しては、西辺を除く三辺については、瓦列による区画が存在することにより、範囲が明瞭になっていたのに対し、この西辺のみ明瞭な区画施設を欠いていたという事情がある。範囲の想定にあたっては、基壇土中の瓦敷きを礎石位置と考えて建物平面を復元して、その中心を基壇中心と仮定して折り返して決めている。その結果、伽藍中心線は、基壇南辺で検出された階段の西縁を通ることとなった。しかし、昭和48年から50年にかけての尼坊・軒廊・講堂の調査の進行のなかで、伽藍中心線が明確化し、それが階段のほぼ中央を通りそうなこと、同時に金堂の中軸線との間にずれが生じること等が明らかになってきており、基壇の幅も約30mと推測されるにいたっていた。結果的には、その階段のほぼ中央を起点にして折り返した位置で、基壇西辺が捉えられた。したがって、これまでに想定されていた基壇の西側部分が12尺分短かくなる結果となった。

金堂については、これまで想定されていた基壇のほぼ中央の位置に7間×4間（桁行7間78尺、梁行4間44尺）の四面庇建物が想定されてきた。これまでの調査において、基壇土中に、径1.6～2.0mの円形ないし隅円方形の瓦敷が検出されており、これは礎石位置に対応するもの

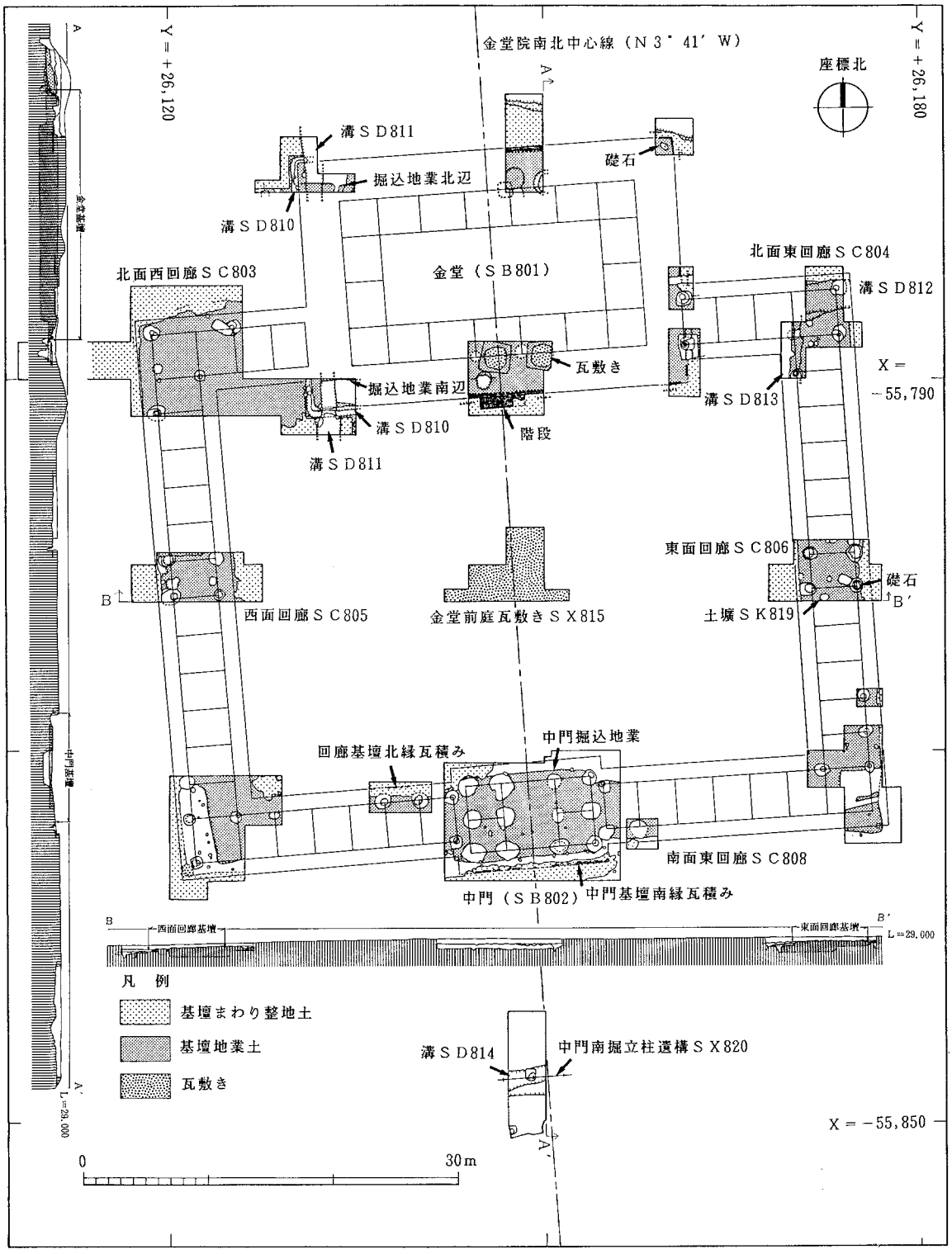
と考えられてきた。ただし前述の、階段の正面に柱がくることとなり、不自然な感が拭えないところであった。今回の調査では、階段の正面の瓦敷の間に、根石風の瓦の集積が検出され、それが本来の柱位置であろうと推測されるにいたった。

回廊の調査については、まずそれが金堂の南庇に取りつくと予測し、北面西回廊の検出から着手した。そこでは、回廊の基壇土と思われる、ロームをつき固めた面が検出され、礎石の据え付け跡が残存していることが確認された。また、基壇のまわりには粘土まじりの整地土が認められ、これを基壇土の境を基壇のへりと判断した。調査は、基本的には四隅と中央において遺構を平面的に露出するにとどめた。調査の結果、回廊は単廊で、梁行12尺、桁行は10尺を基本とし、一部が9尺であることが確認された。全体の構成としては、東面・西面の回廊は14間、北面回廊は金堂の両脇に4間ずつ、南面回廊は、中門の両脇に7間ずつとなることが判明した。ただし、柱間の間隔が上述のように一定ではないため、長方形を呈しているわけではない。（東面42.24m、西面42.72m、南面54.15m、北面54.90m）これは、東面・西面の回廊の方向が微妙に異なっていることに起因する誤差の調節の結果と考えられる。なお、南面西回廊の北縁において、金堂・中門と同様な瓦積みの基壇の外装が部分的ながら残存していることが確認された。この部分においては柱列からそのへりまでが4尺であり、基壇の幅は20尺に復元できる。

中門については、昭和43年の調査において、基壇の南へりと思われる、瓦列が検出されており、それを手がかりに調査に着手し、回廊と一連の基壇土と礎石すえつけ跡を検出し、桁行3間33（9.5＋14＋9.5）尺、梁行2間18（9＋9）尺の八脚門であることが判明した。また、基壇については、南北幅は28尺に復元され、東西幅は40尺と推定されるにいたった。なお、中門・回廊の変遷過程は、A期（礎石建物・基壇版築・外装瓦積み一部残存・礎石据え付け跡全失）、B期（掘立柱建物、柱穴掘方の一部確認）、C期（掘立柱建物、遺存状態良好・B期掘形を破壊）、D期（礎石建物、礎石が一部で確認されたのみ）の4期を想定しうるにいたった。

以上のように、今回の調査によって、これまで不明な部分の多かった、金堂院地区の全貌はほぼ明らかにされたといってよい。次年度は、講堂周辺の調査に着手する予定である。その地区においては、基壇のみが確認されている、講堂の建物規模を明らかにするとともに、いまだに存在が明らかになっていない、鐘楼・経蔵について確認する予定である。また、仮設的性格の時期とされる、いわゆるA期の金堂についても、その有無について再度確認する予定となっている。

（高橋康男）




史跡上総国分尼寺金堂院地区遺構配置図（S＝1／500）

# 14. 諏訪台遺跡

**事業名**　国分寺台土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査

**所在地**　市原市村上字諏訪台1,662他

**調査期間**　昭和63年4月1日～昭和63年7月29日

**調査面積**　5,100㎡（セ72-2,100㎡・セ73-3,000㎡）

**調査概要**　今年度の諏訪台遺跡の調査は、台地先端部の保存区域として残される諏訪神社の北（セ72）と南（セ73）を対象として行った。今年度の調査で昭和49年度から実施してきた数次に及ぶ諏訪台古墳群・天神台遺跡の調査を終了することになった。各調査年度ごとの調査成果は一覧表にまとめた。

神社の北側では、縄文時代早期住居跡3軒・竪穴状遺構3基・炉穴43基・土壙5基・貝ブロック（地点貝塚）10基、弥生時代後期住居跡1軒・方形周溝墓3基・弥生末期～古墳時代前期土壙墓6基・古墳時代前方後方墳1基・方墳3基・墓壙5基・歴史時代半地下式土壙墓2基・中～近世溝と土壙墓16基・井戸状遺構1基、その他時期不明の土壙14基などを検出した。

縄文早期の住居跡は、平面形不整円形を呈し、径3～4mを測る。1軒の住居跡の覆土から炉穴が掘りこまれ、覆土中には厚さ0.7mほどの地点貝塚を形成している。地点貝塚は、この他にも炉穴や竪穴状遺構の覆土中に形成され、貝はハマグリ・カキを主体とする。

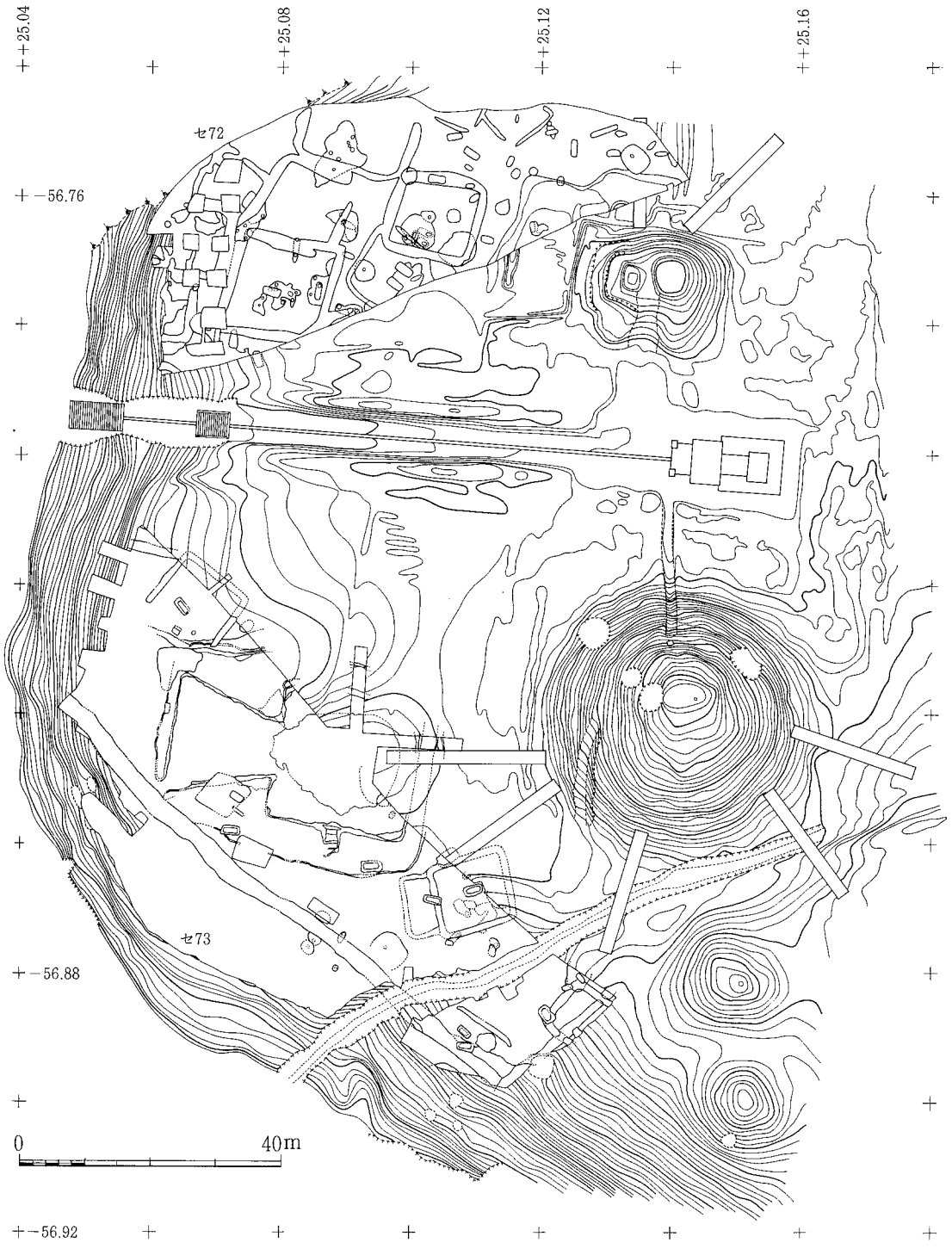
弥生時代後期の方形周溝墓は、溝四隅の内一隅がL字状につながる。後の三隅は一部調査区域外にあるため断言できないが、ブリッジ状に開いているものと思われる。

調査区東端に検出した前方後方墳は、墳丘を保存区域に置き溝の一部の検出である。前方部の張出は小さく、後方部の溝は全周するようである。

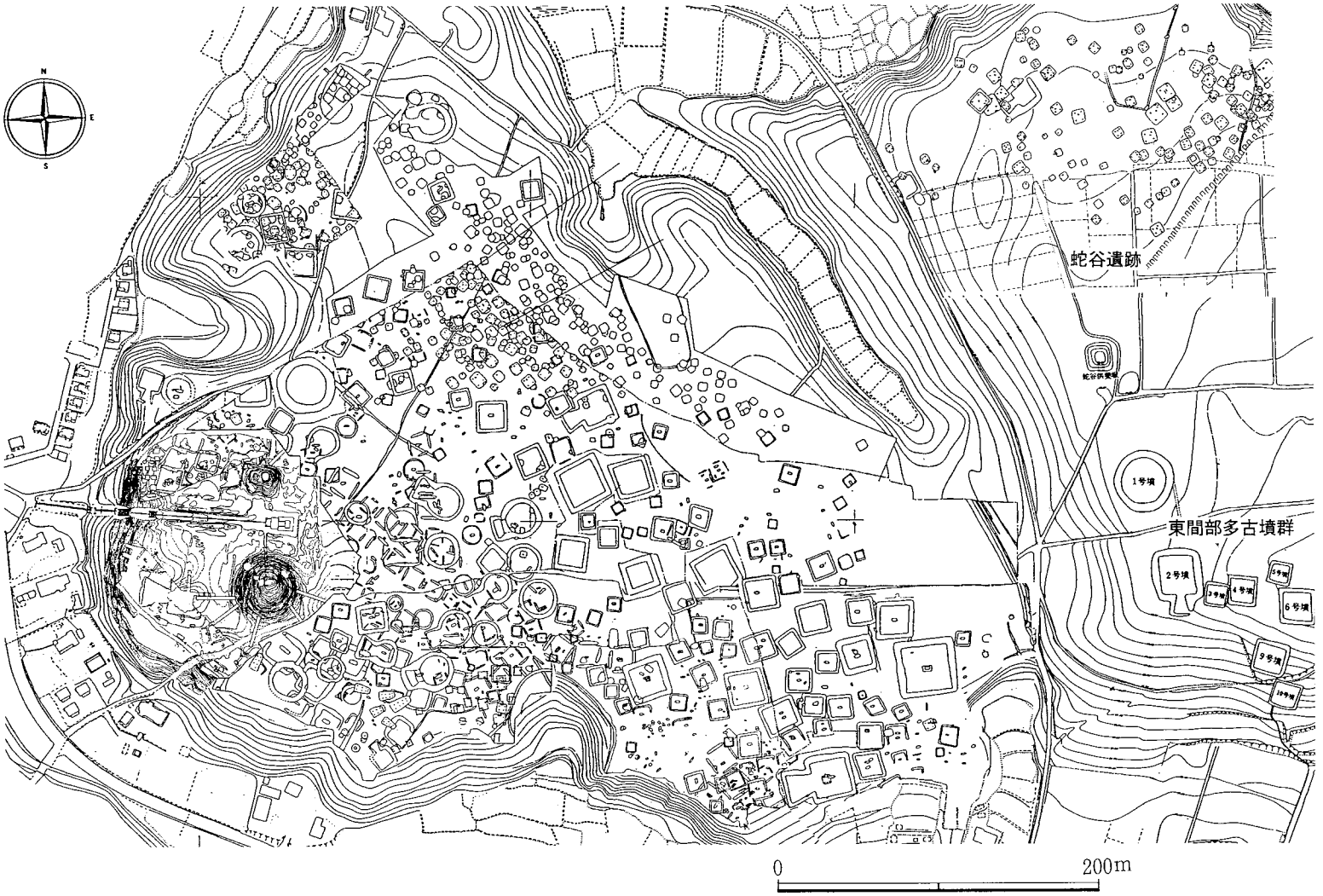
終末期の方墳2基は、周溝下底間で16mと20mを測り、埋葬施設は墓坑内木棺直葬で2基と1基を検出した。009号墳からは、ガラス小玉170点。004号墳1号主体部から鉄鏃12点・刀子1点、2号主体部からガラス玉267点・琥珀棗玉10点・石製臼玉5点・金銅製耳環2点を検出した。

神社南では、縄文時代早期住居跡2軒・炉穴14基・土壙5基、弥生時代後期住居跡2軒・古墳時代前方後方墳2基・方墳4基・木棺墓・土壙墓14基、歴史時代住居跡1軒、中～近世溝4条・土壙墓1基を検出した。

国分寺台遺跡群中では最大級の一部保存区域内に位置する、古墳前期前方後方墳の調査が特筆される。主軸を東西に置き、全長38.3m・前方部長16.3m・前方部幅18.8m・くびれ部幅9m・後方部規模21.5×21m前後を測る。周溝は縦長の長方形を呈し、周溝外径主軸長42.3m・短軸長32mを測る。周溝は、前方部南隅に溝の途切れを認める他は全周するようである。また、後方部南側の斜面の墳丘斜面に階段状の溝の掘り残し跡が認められる。




第１図　諏訪台遺跡（昭和63年度）全体図




第２図　諏訪台古墳群・天神台遺跡遺構配置図

終末期の前方後方墳は一部調査区域外にまたがり、終末期方墳にコの字状の溝を付設し構築される。主軸長15.4m・前方部長5m・後方部規模11×10m・前方部幅8.5m・くびれ部幅8m前後を測り、僅かにくびれるだけである。周溝外径主軸長17mを測り、幅0.7～1mの溝は全周するようである。埋葬施設は、後方部中央とくびれ部中央に墓坑を設けている。

（浅利　幸一）

**諏訪台古墳群・天神台遺跡調査一覧表**

| 調査年度 | 主な検出遺跡 | 調査面積 | 文献 | 調査担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 1974年（昭和49） | 縄早・炉穴9　弥～古墳・住11　古墳・方墳1・円墳1・前方後円墳1・造出し付円墳1 | 1,900㎡ | 国分寺台調査概報　1975 | 須田　勉<br>田中　新史 |
| 1974年（昭和49） | 縄早・炉穴13　弥～古墳・住161（内84弥生）・方周3　古墳・方墳10 | 18,700㎡ | 国分寺台調査概報　1975 | 平野元三郎<br>谷島　一馬<br>對島　郁夫 |
| 1979年 | 縄早・炉穴15・陥し穴2　弥～古・住32　古墳前・前方後方墳1 | 89㎡ | 国分寺台調査概報　1980 | 田中　新史 |
| 1980年（昭和55） | 古墳・方10・円墳1　地形測量・確認調査（9・10・11号墳）縄早・炉穴13　縄前・住4　弥・住1　中～近世・塚1 | 6,500㎡<br>地形測量<br>19,700㎡ | 国分寺台調査概報　1981 | 深沢　克友<br>白井久美子<br>早稲田大学考古学部研究室 |
| 1981年（昭和56） | 古墳・方墳6 | 2,200㎡ | 国分寺台調査概報　1982 | 白井久美子<br>永沼　律朗 |
| 1982年（昭和57） | 弥～古墳・住110　古墳・方墳3・円墳3　炉穴・木棺墓・地下式土壙・地下式壙など | (6,000)㎡ | | 永沼　律朗<br>半田　堅三 |
| 1982～1983年（昭和57～58） | 縄早・陥し穴5＋・炉穴40＋　縄前・住17　弥中・方周20・住1　弥後・方周12　弥～古墳・住140　古前・方墳5　古後～終末・円墳10・前方後円3・前方後方2・方墳14　奈良～平安・方周遺構35　木棺墓・土壙墓・地下式改葬墓・地下式土壙など | 13,800㎡ | | 浅利　幸一<br>鈴木　英啓 |
| | | 30,200㎡ | (財)文化財センター年報（57・58年度） | 浅利　幸一<br>鈴木　英啓<br>高橋　康男 |
| 1983年（昭和58） | 縄早・炉穴4　古墳終末・方6・前方後方1 | 4,100㎡ | 国分寺台調査概報XII　1984 | 米田耕之助<br>半田　堅三 |
| 1985年 | 古墳終末～・前方後方1・方墳14・住4・土壙墓・溝など | 12,000㎡ | | 須田　勉<br>他 |
| 1985～1986年（昭和61～62） | 縄早・住11・炉穴362・陥し穴2・地点貝塚23・人骨1　縄前・住6　弥中・方周23　弥後・方周2　古墳前・方周18・前方後方1　古墳後～終末・円墳14・前方後円5・方墳7　奈良～平安・方周遺構14・住13・掘立14・井戸3・木棺墓・土壙墓・地下式改葬墓・地下式土壙など | 20,000㎡ | (財)文化財センター年報（60・61年度） | 浅利　幸一<br>田所　真<br>米田耕之助<br>高橋　康男 |
| 1987年（昭和62） | 縄早～前・炉穴9・住13・陥し穴11・土壙36・弥中・方周7　古墳終末・方21・前方後方1・奈良～平安・方周遺構8・地下式改葬墓1・土壙墓・地下式土壙など | 12,300㎡ | (財)文化財センター年報（62年度） | 清藤　一順<br>宮本　敬一<br>加藤　正信<br>高橋　康男<br>木對　和紀<br>浅利　幸一 |
| 1988年（昭和63） | 縄早・住3・炉穴43・土壙5・地点貝塚10　弥後・住1・方周3　弥～古墳・墳墓6 古墳前・前方後方1・方墳1・土壙墓5　奈良～平安・地下式土壙墓2　中～近世・土壙16・井戸状1　土壙14など | 2,000㎡ | (財)文化財センター遺跡発表会要旨（63年度） | 加藤　正信 |
| 1988年（昭和63） | 縄早・住2・炉穴14・土壙5　弥後・住2　古墳前・前方後方1　古墳後・方墳4・前方後方1・木棺墓・土壙墓14　奈良～平安・住1　中～近世・溝4・土壙墓1 | 3,100㎡ | (財)文化財センター遺跡発表会要旨 | 宮本　敬一 |

主な検出遺構

縄　文　早　期　住居跡16軒・陥し穴20基＋・地点貝塚33ヶ所・炉穴522 基＋
縄　文　前　期　住居跡40軒
弥　生　中　期　住居跡2軒・方形周溝墓50基
弥　生　後　期　方形周溝墓17基
弥生～古墳前期　住居跡462 軒
古　墳　時　代　方形周溝墓および方墳122 基・円墳28基・造出し付円墳1基・前方後円墳9基・前方後方墳9基
奈良～平安　方形周溝遺構57基・住居跡13軒・掘立柱建物跡14棟・地下式改葬墓

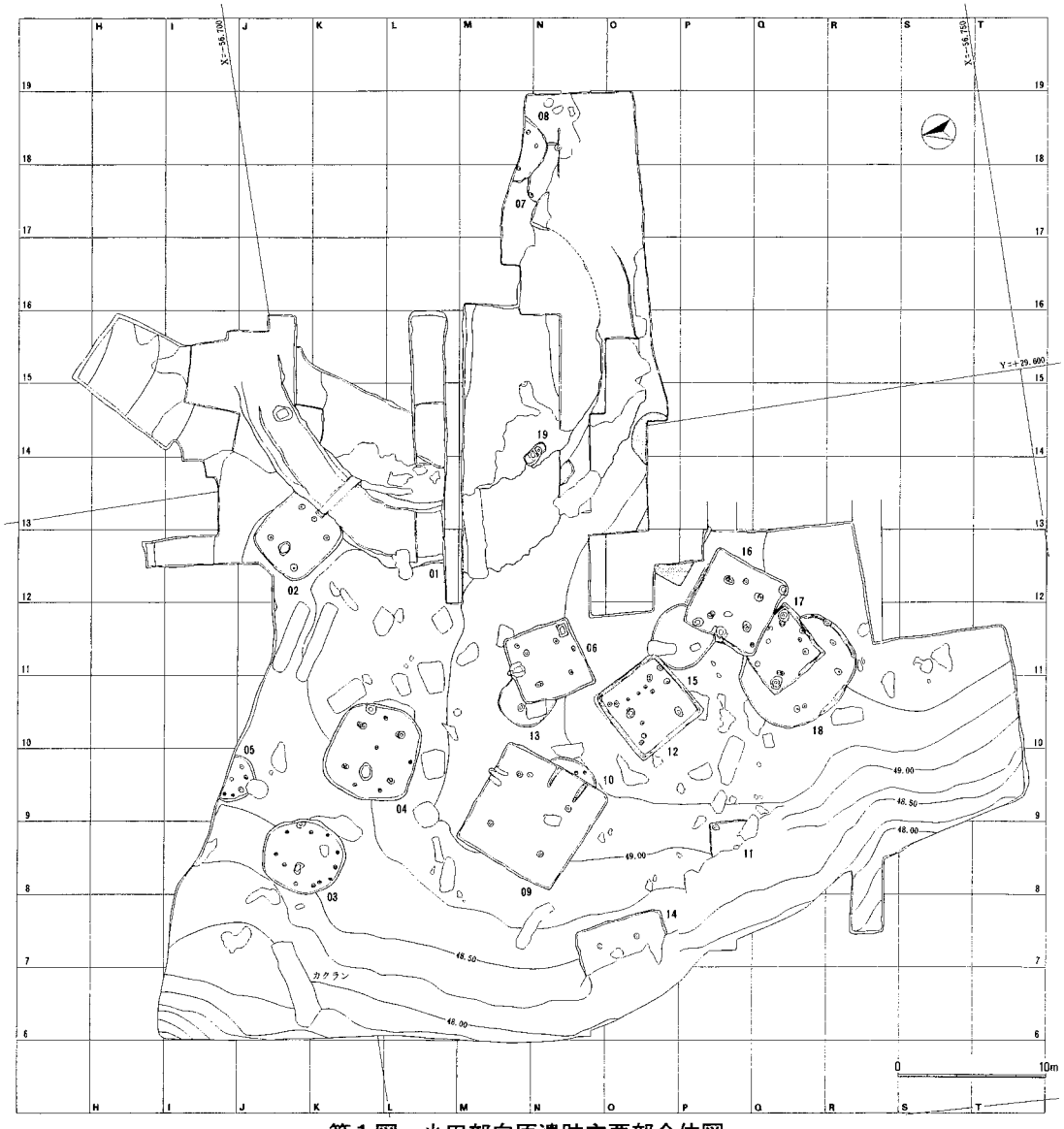
# 15. 小田部向原遺跡

**事業名**　市原市埋蔵文化財緊急調査・不特定遺跡発掘調査

**所在地**　市原市小田部115－1他

**調査期間**　昭和63年5月31日～昭和63年7月2日

**調査面積**　5,500㎡のうち2,550㎡（確認調査・本調査）




第1図　小田部向原遺跡主要部全体図

**調査概要**　小田部向原遺跡は、以前「小田部古墳」(1)（本調査における01号遺構）として発掘調査が実施された部分、その下層および周辺部を含む地区を対象とし、新たに小字名を付し遺跡名としたものである。

調査は、現地の造成工事が行われてしまったため、急遽実施されることとなった。調査開始時、遺存していた「小田部古墳」残丘部はすでに削平され、西側斜面部はロームが露呈している状態であった。また、黒色土を掘り上げ、伐採した樹木を埋め込むためか、とくに01号遺構周辺から東側は大きく攪乱されていた。

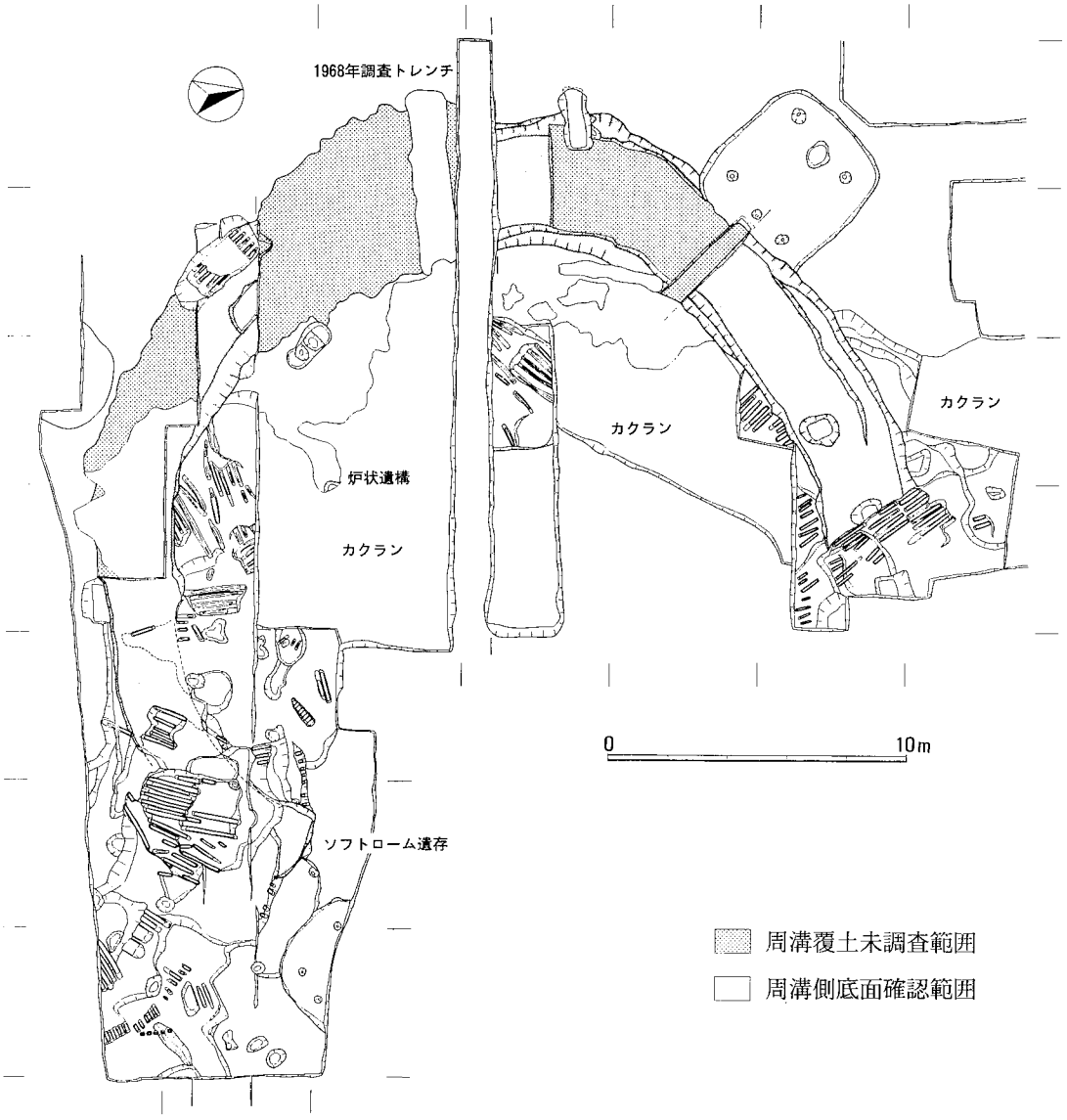
調査対象面積は5,500㎡であり、まず、このうち10%に対して確認調査を実施した。その結果を受け本調査を実施することとなったが、予算的に限られた状況にあり、また、東側台地平坦部については表土層も厚く、造成の契機となった牧草地としての利用が現状において可能であると判断されたことから、西側斜面部分2,100㎡のみを拡張し、さらにグリッド15列（第1図）まで、1,450㎡について本調査を完了することとなった。このため、01号遺構については、部分的な調査に止めざるをえなかった（第2図）。

検出された遺構は、墳丘墓周溝1基、竪穴住居跡30軒（建替えを含めた総数で33軒）、このうち17軒（建替えを含めた総数で20軒）について本調査を実施した。他に土坑1基である。

01号遺構（小田部墳丘墓）は、今回の調査では、円形に囲繞する周溝とその開口部（突出部）を検出した。ただし発掘調査に先行して着手された造成作業により、部分によっては壊滅的に破壊されている。周溝は、ほぼ正円形に円丘部を囲繞し、確認面周溝外径27.48m、内径で21.52～20.92m、周溝底面内径で21.96mを測る。

開口部は、送電線鉄塔下部、竪穴住居跡07・08号遺構検出部でソフトロームが遺存し、周溝延長部分より周溝端と考えられる立ち上がりを確認することができたため、ここを開口部と判断することができた。しかし、全体の形状について、ここから屈曲して突出部を形成・区画するものかどうかなど、細部については判断すべき根拠に乏しい。仮に削平が周溝にそって行われたものとするならば、削平部が開口部から南東方向へ連続することから、突出部を構成する溝が存在した可能性も考えられるが、おそらく、周溝は端部でいったん完結し、突出部を区画する施設が仮に存在したとしても、そこから浅い溝が接続すると考えておきたい。これによると、円丘部周溝がいったん完結する神門3・5号墓に類似性を求めることができる。ただし、墳丘規模は、小田部墳丘墓が下底径21.96m、外径で27.48mであるのに対して、神門3号墓下底径32～33m、神門4号墓が30～34m、神門5号墓が34mであり、約⅔にすぎない。

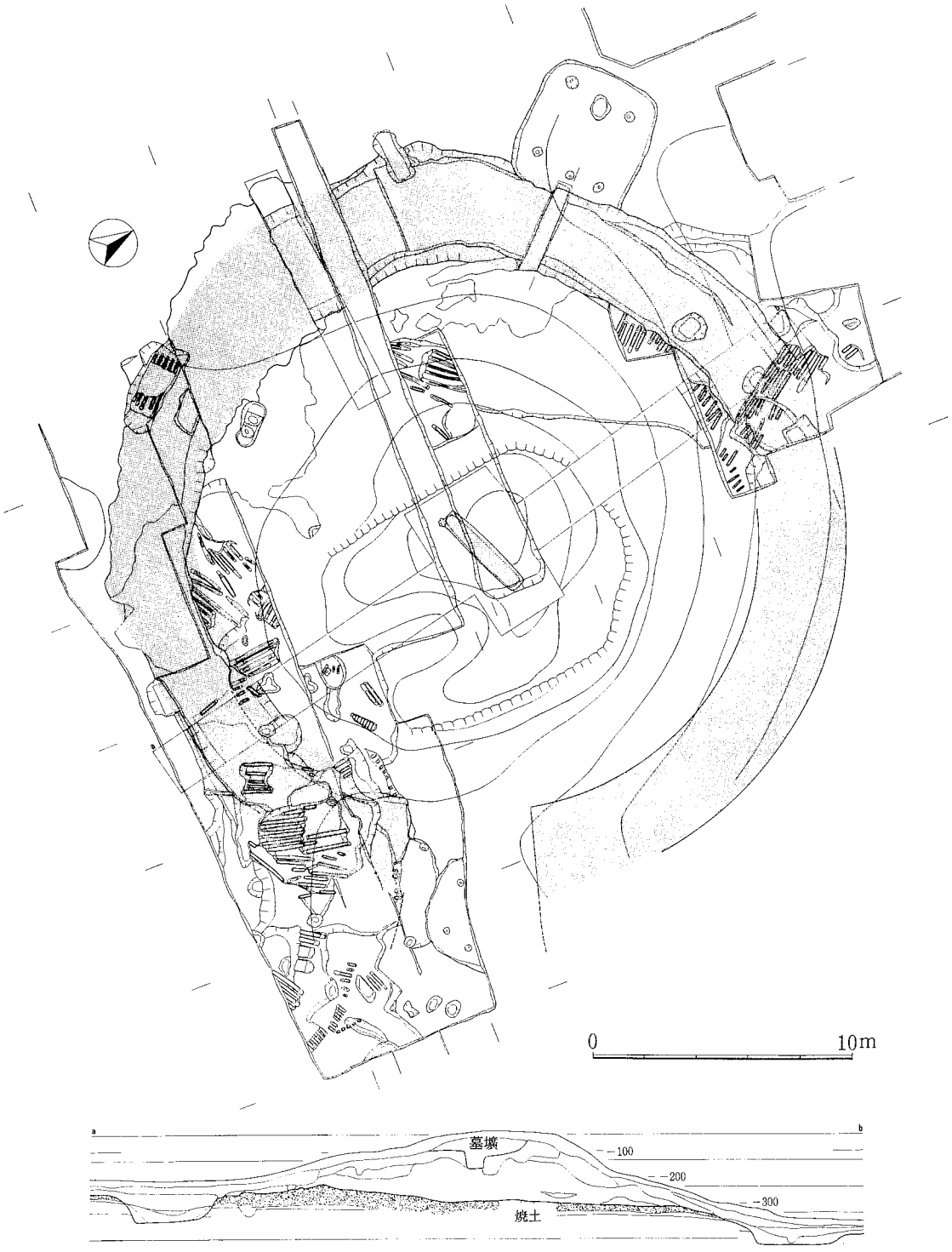
第3図は、1968年の調査との対応関係を示したものである。今回調査において、当時の東西トレンチを確認することができたため、これを根拠として報告書掲載図面より合成した。1968年の調査結果から補足すると、墳丘は、旧表土から約1.6m、南北トレンチ北周溝底面から墳



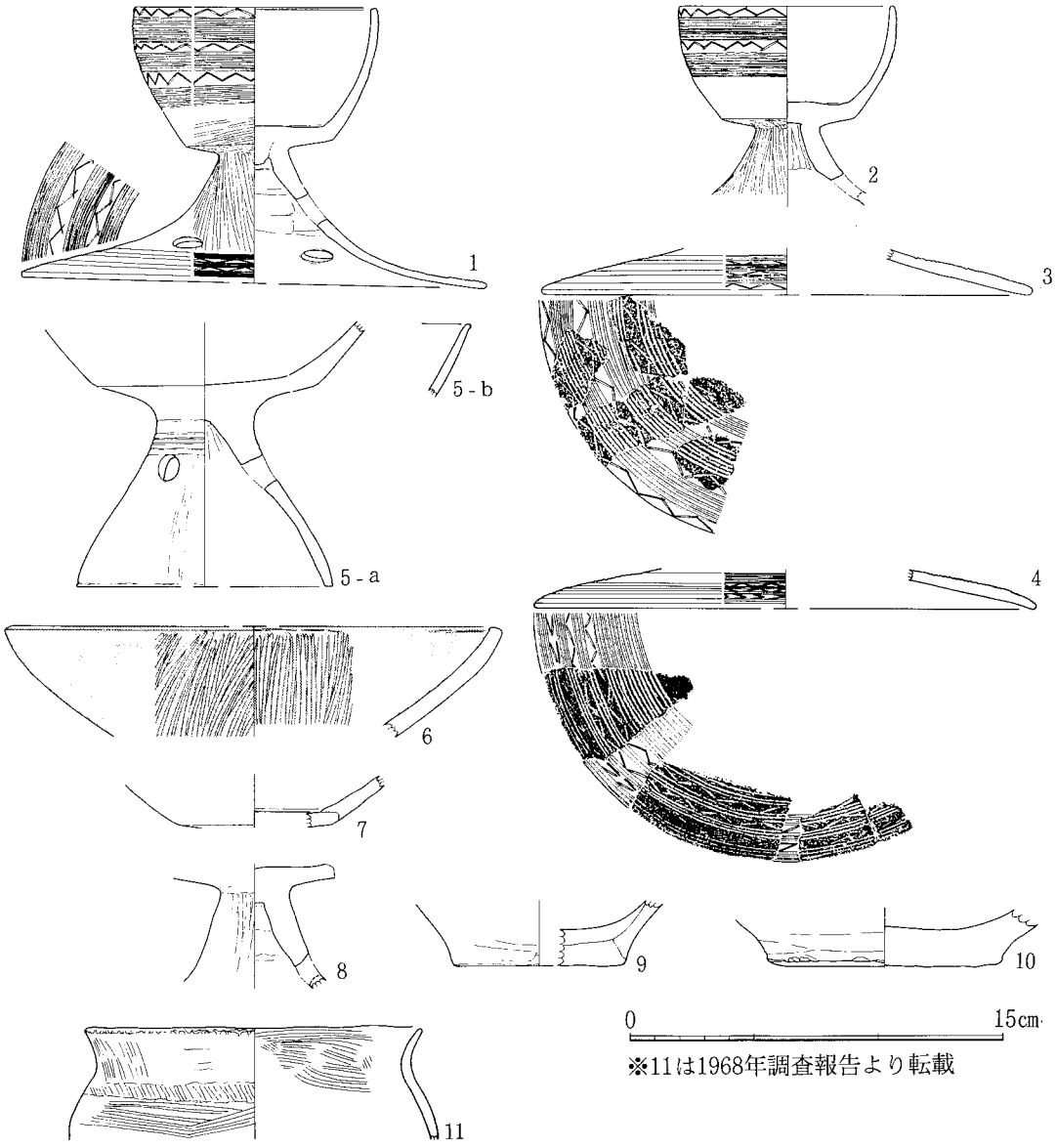

**第２図　小田部墳丘墓（01号遺溝）検出状況**（１／250）

丘頂部までは、約5.5mを測る。主体部は、墳丘のほぼ中央に位置し、全長3.9m、中央部幅0.56mの平面長方形、横断面逆梯形の箱形状の土坑であり、木棺痕跡は検出されていない。玉類の分布、および底面の傾斜から東頭位と推定され、今回の復原図によると、真北N－84°－Eとなる。なお、当時の地形図においても、突出部に対応するような等高線の変化を認めることはできない。

小田部墳丘墓は、竪穴住居跡02・07・08号遺構と切り合い関係を持ち、02・07号遺構と直接周溝が重複する。本遺構がこれを切っている。

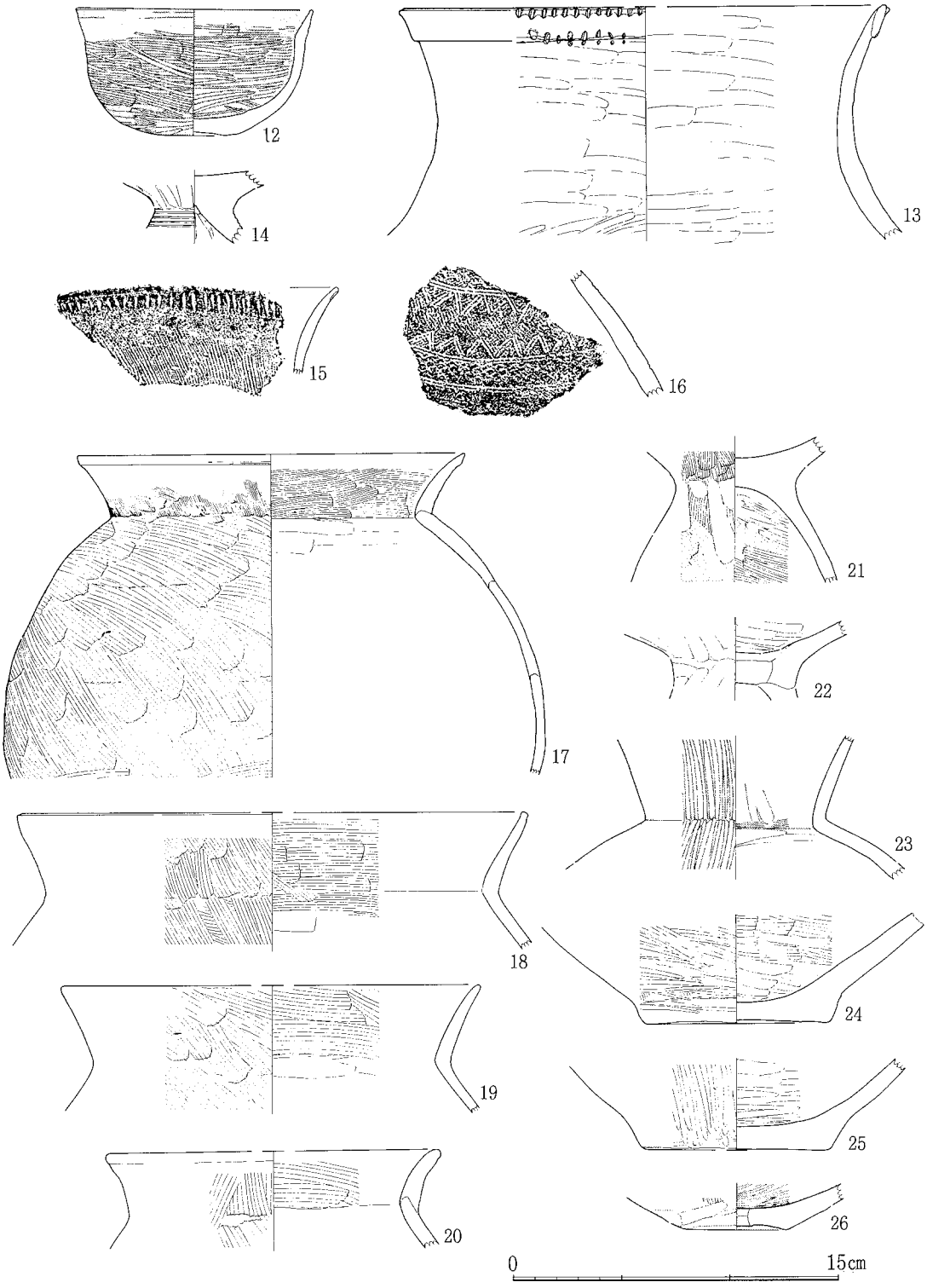



第３図　小田部墳丘墓合成復原図（１／250）

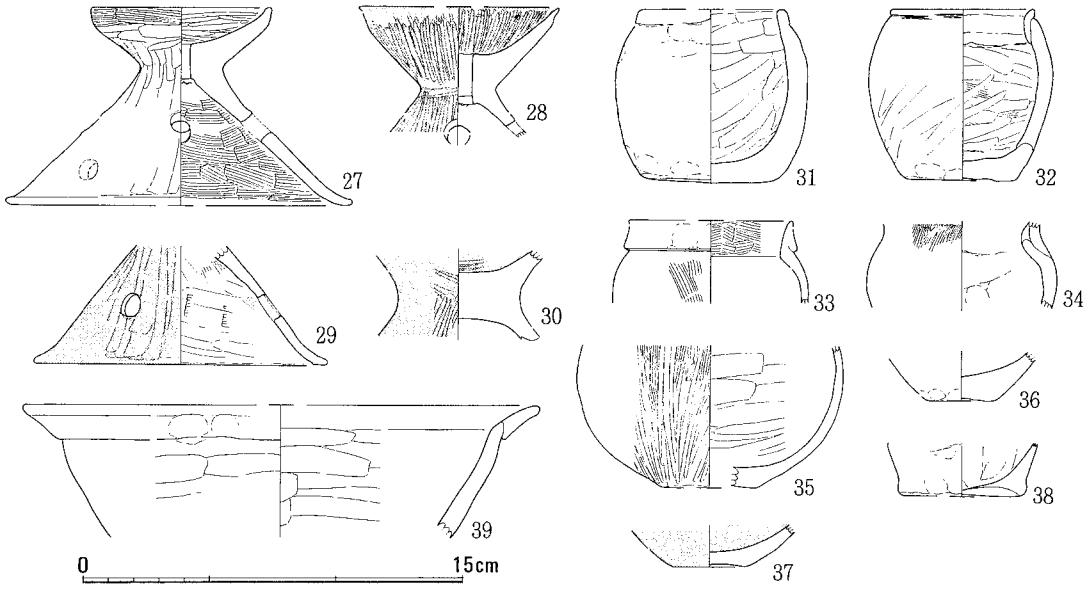



**第４図　小田部墳丘墓墳丘部出土土器**（１／３）

1968年調査において、主体部土坑より管玉３点、ガラス小玉218点以上、ガラス丸玉64点以上、ガラス玉計約300点が出土している。前報告によるならば、ガラス丸玉は胸部を中心に首飾を構成し、ガラス小玉は頭胸部に、また管玉は左手玉と推定されている。玉類については、今回追加資料はない。土器は、第４図が墳頂部ないしは墳丘部より出土したものであり、いずれも1968年調査によって出土したものである。第５・６図は、周溝内および周溝位置カクラン部より出土したもののうち、弥生時代終末期から五領式期に比定されるものである。ただし、後述するように、小田部墳丘墓と時期的に前後する竪穴住居跡が周辺に展開しており、その帰




第５図　小田部墳丘墓周溝内および周溝推定部出土土器（１）（１／３）




**第６図　小田部墳丘墓周溝内および周溝推定部出土土器（２）（１／３）**

属は判然としない。このうち、12は完形品であり、13はほぼ周溝底面より出土したものである。なお、覆土上層より多量の鬼高式土器が出土している。

周辺部に展開する竪穴住居跡は、03・04・05・07・13・15・18号遺構が弥生時代後期、02・08・10号遺構が弥生時代終末期に、11・12・14号遺構が古墳時代前期五領式期に、他が鬼高式期に比定される。02・08・10号遺構は、小田部墳丘墓に先行するが、前提とする集落としては希薄であるといえよう。また、小田部墳丘墓造営後、埋葬の累積も認められず、さほど時間をおかず集落が展開することがわかる。

なお、整理作業は、平成２年度に実施され、すでに報告書が刊行されている(2)。詳細は同書にゆずる。

（註）

(1) 杉山普作・安藤鴻基・沼沢　豊・田中新史　1972『古墳時代研究Ⅰ　千葉県市原市小田部古墳の調査』古墳時代研究会

小田部向原遺跡01号遺構の個別名称として、ここでは一応「小田部墳丘墓」を使用する。

(2) 大村　直　1991『市原市姉崎宮山遺跡・小田部向原遺跡・雲ノ境遺跡』財団法人市原市文化財センター調査報告書第40集　市原市教育委員会・財団法人文化財センター

（大村　直）

# 16. 犬成桜の木台遺跡

**事業名**　市道２３３号線建設に伴う埋蔵文化財調査

**所在地**　市原市犬成778他

**調査期間**　昭和63年11月７日～昭和63年11月15日（確認調査）

**調査面積**　2,850㎡のうち285㎡

**調査概要**　遺跡は、村田川支川村田川の左岸を開折する小支谷西側斜面から西方向、茂原街道までの地域で、標高86mの台地上となる。遺跡内には、径25m程で高さ２mの塚があり、地先の人々のは月見台と呼んでいる。それは遺跡の北側に犬成城跡があることで、殿様の月見台という伝承になったものだろう。犬成城は字湯武倉にあり、非常に保存状態のよい中世城郭跡である。（図１）湯武倉の城の南、谷を隔てた字向山には、湯武倉と同様な堀をめぐらした郭がある。その郭は狼火台の施設と考えられている。（鈴木英啓：1980年：犬成城日本城郭大系）

調査区域は、市道２３３号線工事区域東側より県道千葉・茂原線通称茂原街道までの約300mである。確認トレンチは道路センター杭を中心に両側に20本設定した。（図２）調査前まで、畑地として耕作されていたが、トレンチ調査の結果ほぼ全面に耕作土の入れ換えがあり、表土の黒地及び褐色土の遺物包含層は失われていた。深い攪乱はローム層まで及び遺構等の検出は、絶望視せざるを得なかった。しかし一部の包含層が遺存していたので調査を進め、褐色土下部より縄文時代早期から～前期にかけての遺物を検出した。また、比較的新しい遺構として第３トレンチ内に道状の踏み堅めのある溝を検出した。おそらくは谷下に降りる歩道であろう。

遺物の出土地点は図２に表と●▲記号によって記した。遺物は図３に大部分を載せてある。１～６は撚糸紋系土器群で、口縁部がないが稲荷台式と考えられる。胎土は若干小細礫を含み断面は白色の細粒が目立つ。焼成はよく、色は淡黄褐色又は灰褐色を呈す。出土状況にはまとまりはない。７と８は条痕紋系土器群で２点ともに繊維を含む。焼成はよく、表面は赤褐色、内面は灰色又は黒色である。条痕紋系は２点のみで遺物のまとまりはない。９～21は、繊維を含み、羽状縄文、コンパス文等があることから前期の関山式と考えた。しかし一般の関山式と比べてコンパス文等の沈線が浅く明瞭でない。色調は赤褐色のレンガ色を呈し焼成はよい。出土地点が６Ｔと８Ｔに集中し個体が限られているようだ。22と23は黒曜石製の石鏃で、その他の遺物の共伴がないが、基部の抉り等が少なく片側面に押圧剥離が集中する傾向などから縄文時代前期の所産と考えたい。以上、当遺跡の遺物の十分でない紹介をした。桜の木台遺跡は確認調査の結果、本調査に移行しないことになった。この紙面において調査報告としたい。関山式期の遺跡は千葉市の土気地区でも調査され、分水嶺近くの内陸にも遺跡が点在する。当遺跡もその１つであったと推測される。　（近藤　敏）

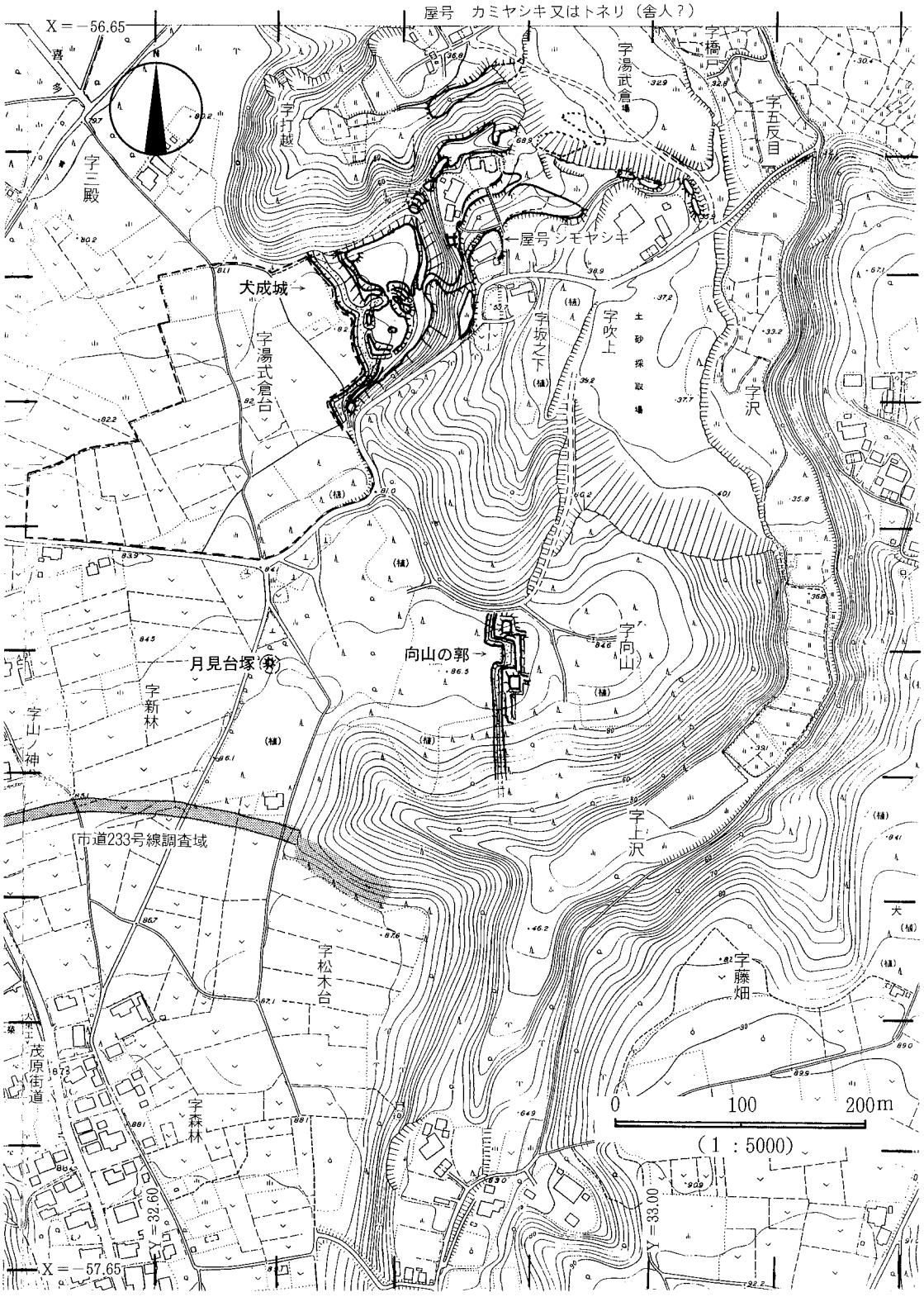



図1　犬成桜の木台遺跡位置図

遺物出土地点

1Ｔ　撚糸紋２点
2Ｔ　なし
3Ｔ　撚糸紋１点　条痕文２点
　　焼礫片６点　近世陶器片１点
4Ｔ　ロームまで撹乱
5Ｔ　撚糸紋１点
6Ｔ　関山式　16点　他２点
7Ｔ　土器細片
8Ｔ　関山式　５点
9Ｔ　土器細片
10Ｔ，12Ｔ～16Ｔ　ロームまで撹乱
11Ｔ　黒曜石製　石鏃　１点
17Ｔ　黒曜石製　石鏃　１点
18Ｔ～20Ｔ　遺物なし

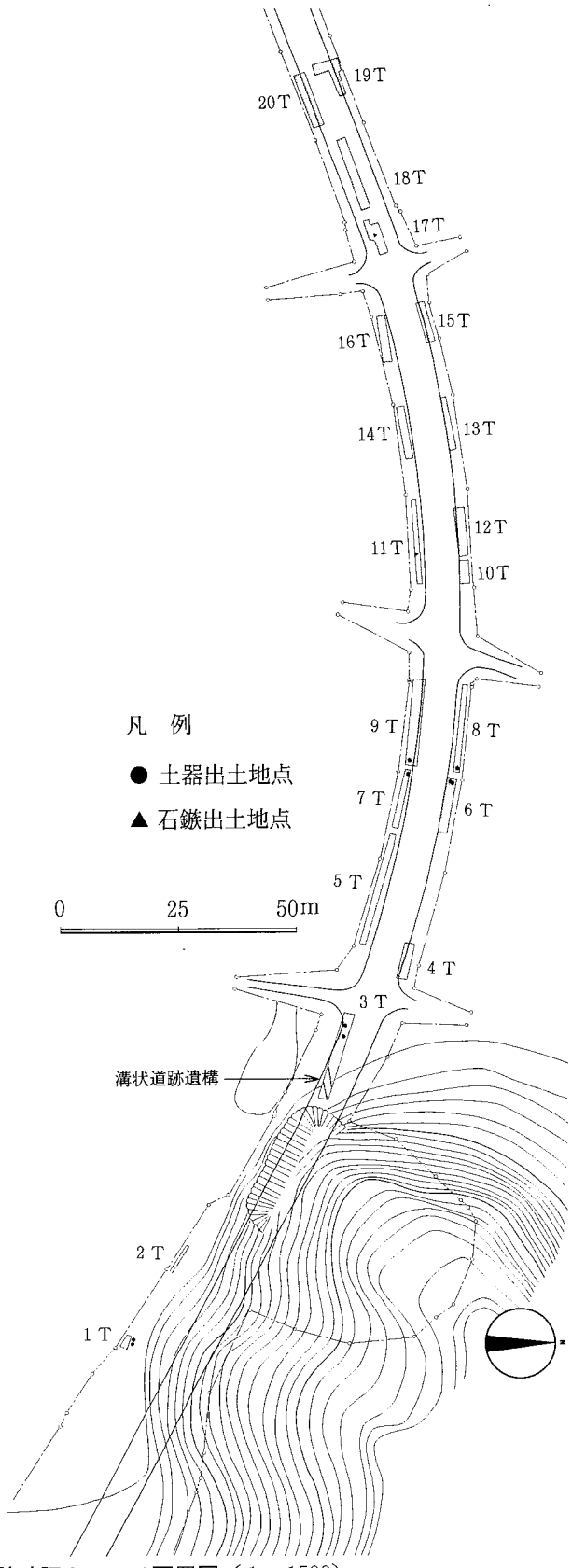



**図２　桜の木台遺跡確認トレンチ配置図**（１：1500）

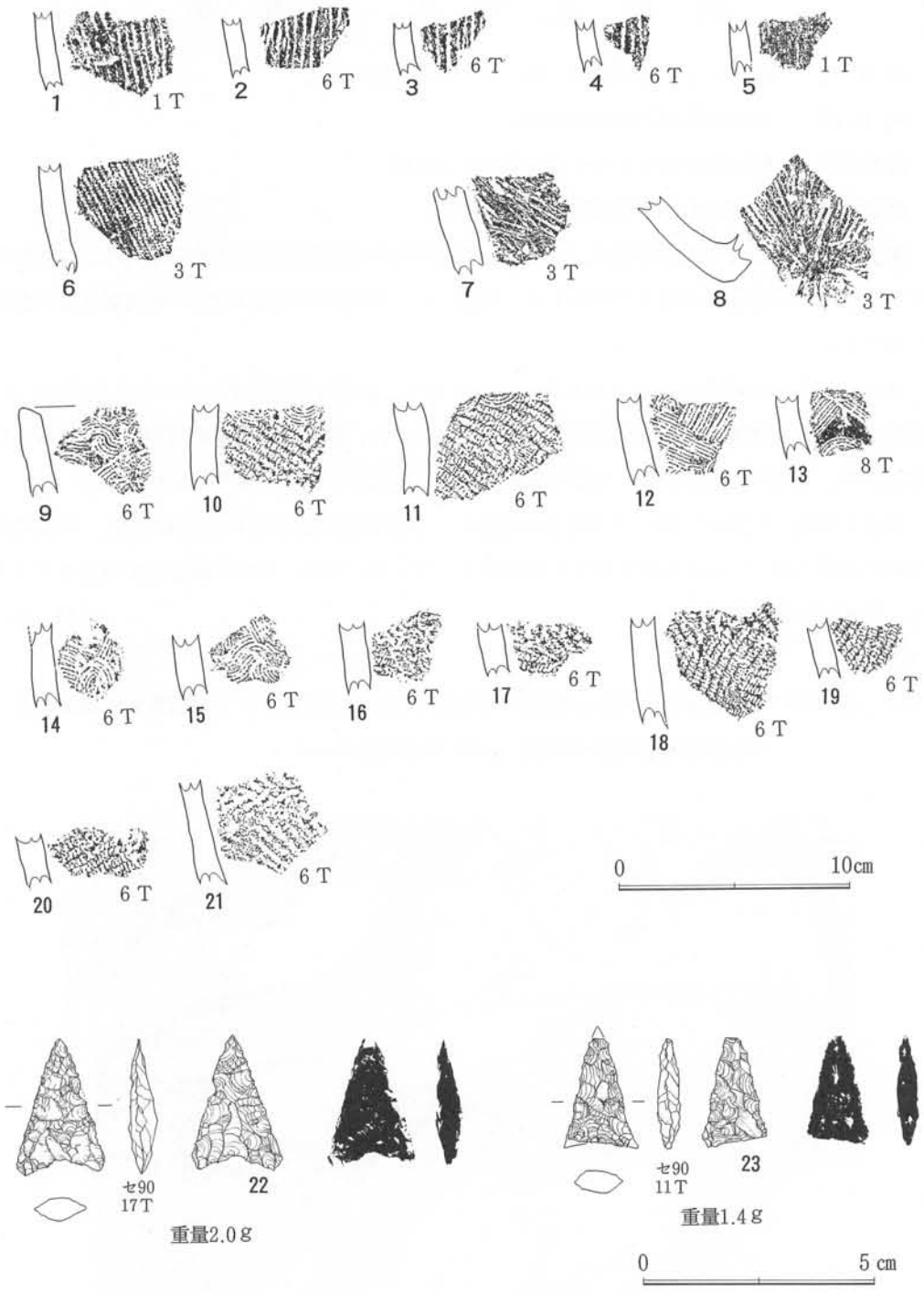



図3　犬成桜の木台遺跡出土遺物

# 17. 奈良大仏台遺跡

**事業名**　市道１１９号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査

**所在地**　市原市奈良字屋敷台586他

**調査期間**　昭和63年12月１日～平成元年３月31日

**調査面積**　20,000㎡のうち2,000㎡（確認調査）

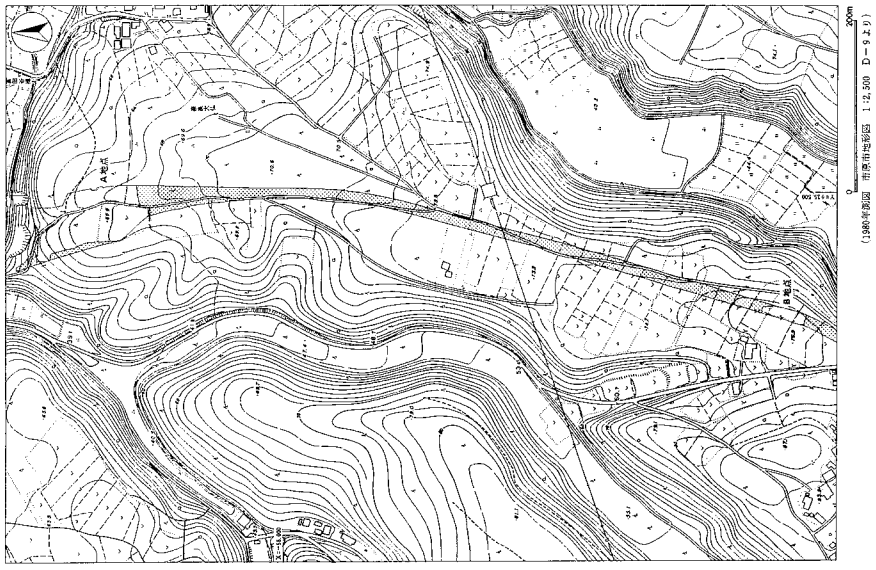
**調査概要**　奈良大仏台遺跡は、村田川上流域における開折谷に三方を囲まれた、北東に張り出す標高70m前後の台地上に位置する。隣接して、市指定の石造の等身大釈迦如来像が鎮座している。

調査は、市道119号線の改良工事に伴うものであり、調査区域線距離は約１km以上におよび、台地上を南北に貫通する。遺構密度は全体に散漫であり、縄文時代中期加曽利Ｅ式期の竪穴住居跡２軒、土坑５基であるが、土器の散布は、縄文時代早・前・中後各期にわたる。

平成元年度、8,000㎡に対して本調査を実施し，加曽利Ｅ式期の竪穴住居跡３軒、平安時代竪穴住居跡１軒、いわゆる落し穴などが検出されている。なお、すでに報告書が刊行されており、詳細は同書にゆずる。　（大村　直）

（註）

大村　直　1992『市原市奈良大仏台遺跡』財団法人市原市文化財センター調査報告書第47集
市原市道路建設課・財団法人市原市文化財センター




**奈良大仏台遺跡調査対象範囲と本調査区**

# 18. 松ヶ島蔵ノ下遺跡

**事業名**　地区区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査

**所在地**　市原市松ヶ島字蔵ノ下403他

**調査期間**　平成元年２月３日～３月17日

**調査面積**　7,000㎡のうち700㎡（10%）

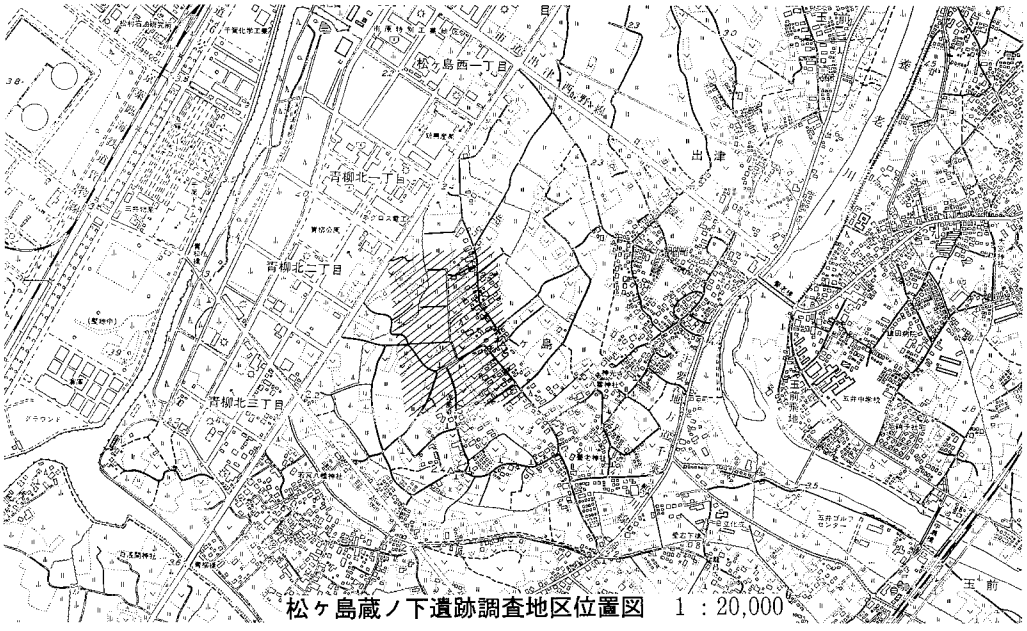
**調査概要**　当地は、養老川河口域の左岸、東京湾の海岸砂丘列上の微高地に立地する。東京湾の旧海岸線からは、約0.7km入った地点である。標高は、１～2.5mを測る。周辺には、低温地のため、遺跡は少ないが、弥生土器片や土師器片などの散布地や(註1)本年度から平成元年度にかけて調査された青柳塚群(註2)などの近世遺跡も存在している。付近は、水田と畑に利用され、また、集落も営まれている。畑は、水田と比べて約30～80cm高く、弥生土器片や土師器片、陶磁器片などが小量散布している。調査は、これらの畑に主としてトレンチを設定した。

したがって部分的な試掘である。調査地区が各々離れているため、各地区別にA～G地区まで７ヶ所について地区名をつけている。調査の結果、標準上層は、畑では、Ⅰ層＝耕作土、Ⅱ層＝砂質暗灰褐色土、Ⅲ層＝暗灰色土、Ⅳ層＝砂質灰色土（湧水）、水田では、Ⅰ層＝耕作土、Ⅱ層＝青灰色砂（貝殻を少し含む）、Ⅲ層＝青灰色砂（湧水）である。出土遺物は、Ⅰ層とⅡ層から、表採される遺物と同時期の小片が検出されたが、遺構は、検出できなかった。

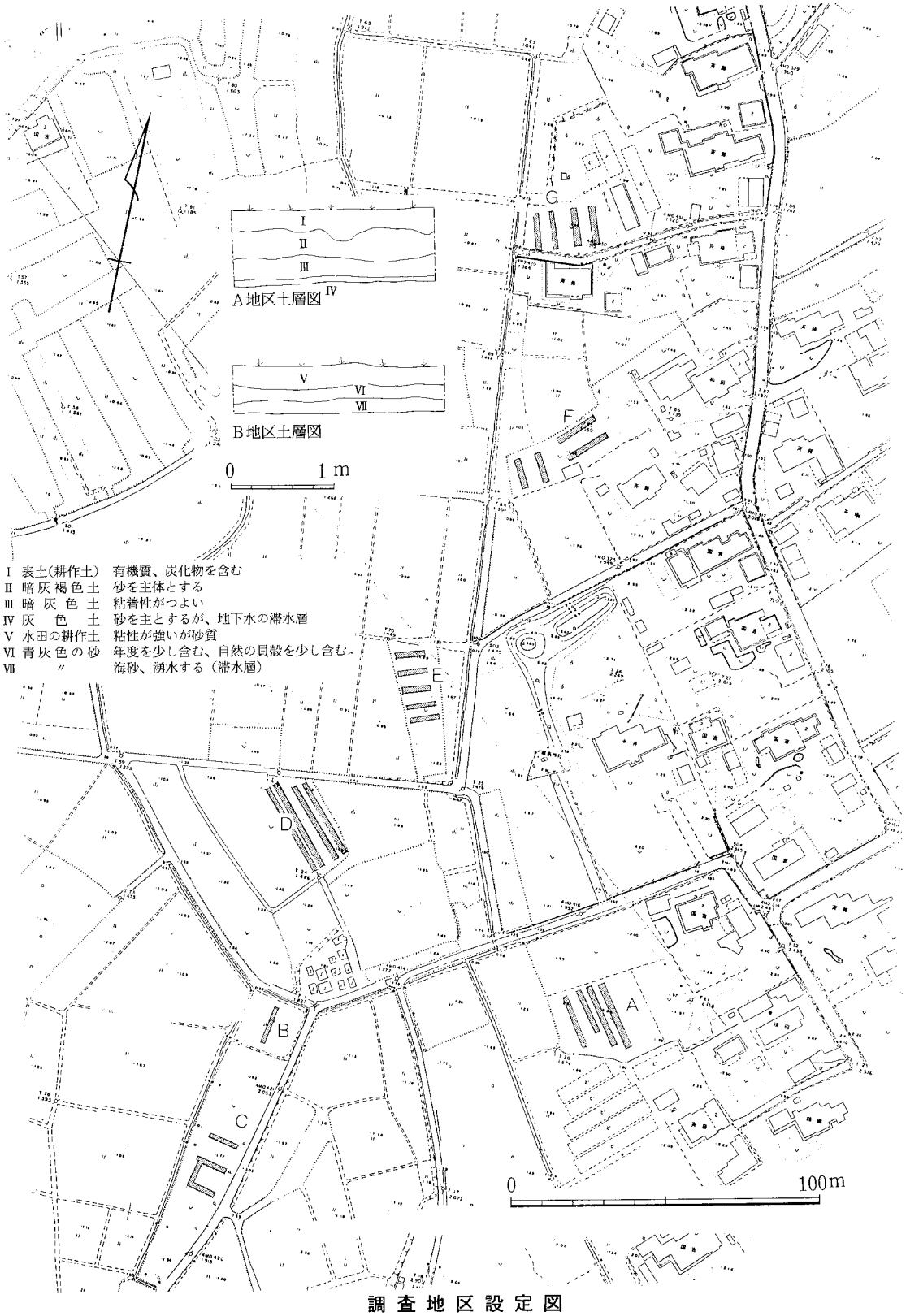
（田中清美）

(註１)休所遺跡、青柳上十二所遺跡など

(註２)「青柳塚群」高橋康男　㈶市原市文化財センター，市原市青柳土地区画整理組合　1990




松ヶ島蔵ノ下遺跡調査地区位置図　1：20,000


I
II
III
A地区土層図 IV
V
VI
VII
B地区土層図
0 1 m
I 表土(耕作土) 有機質、炭化物を含む
II 暗灰褐色土 砂を主体とする
III 暗灰色土 粘着性がつよい
IV 灰色土 砂を主とするが、地下水の滞水層
V 水田の耕作土 粘性が強いが砂質
VI 青灰色の砂 年度を少し含む、自然の貝殻を少し含む。
VII 〃 海砂、湧水する（滞水層）
A
B
C
D
E
F
G
0 100m

調査地区設定図

# 19. 青柳塚群

**事業名**　青柳特定土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査

**所在地**　市原市青柳字円馬戸2212他

**調査期間**　昭和63年10月15日～平成元年３月31日

**調査面積**　塚７基

**調査概要**　本塚群は、標高約３ｍの、海岸平野上に存在する。一帯は、かつて万葉集で「海上潟」と詠われた場所と目されており、また、養老川の旧河道の痕跡が認められたり、島畑の景観を残すなど、河口特有の地形を形成している等、人間の生活の拠点とするには、かなり不適当な時代が長く続いたと考えられる地域である。

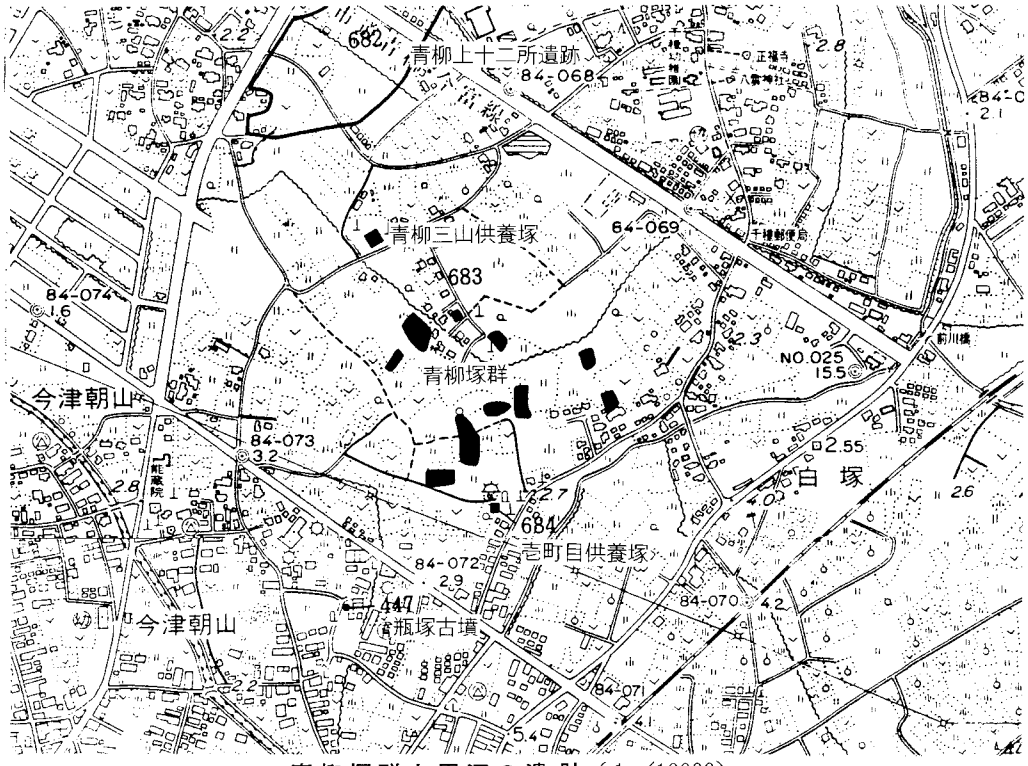
調査対象11基のうち昭和63年度には７基を調査した。形態的には、方形３基、カマボコ状２基、不整形２基であった。いずれも、砂により構成されていた。調査の方針としては、トレンチを設定し、祭祀等の痕跡等が認められ場合には当該部分を拡張するということであったが、いずれのトレンチにおいても、それらしき痕跡は認められず、結果的には、すべての塚はトレンチの調査をもって終了した。

遺物の出土は、表土近くで、近世の所産と思われる陶器片が出土した以外に、下層から、土師器、須恵器などが出土した。下層については、地下水位が高く、また、ほとんど砂によってのみ形成されているところから、充分な精査は行えず、資料の採集が精一杯という状況であった。これら、下層からの出土遺物は、各塚の下層において何らかの遺構が存在することよりも、かつて近隣にあったであろう集落からの流入と考えておきたい。それは、各破片の摩耗の度合いが、遠くからの移動を想起させるほどには至っていないこと、および上述の如く、生活の拠点とするには、海または、河川の影響が大であることによる。したがって、もう少し標高の高い位置、たとえば、現在ＪＲ内房線の走る砂堆上など、に営まれた集落をその起点とするのではないかと考えられるのである。

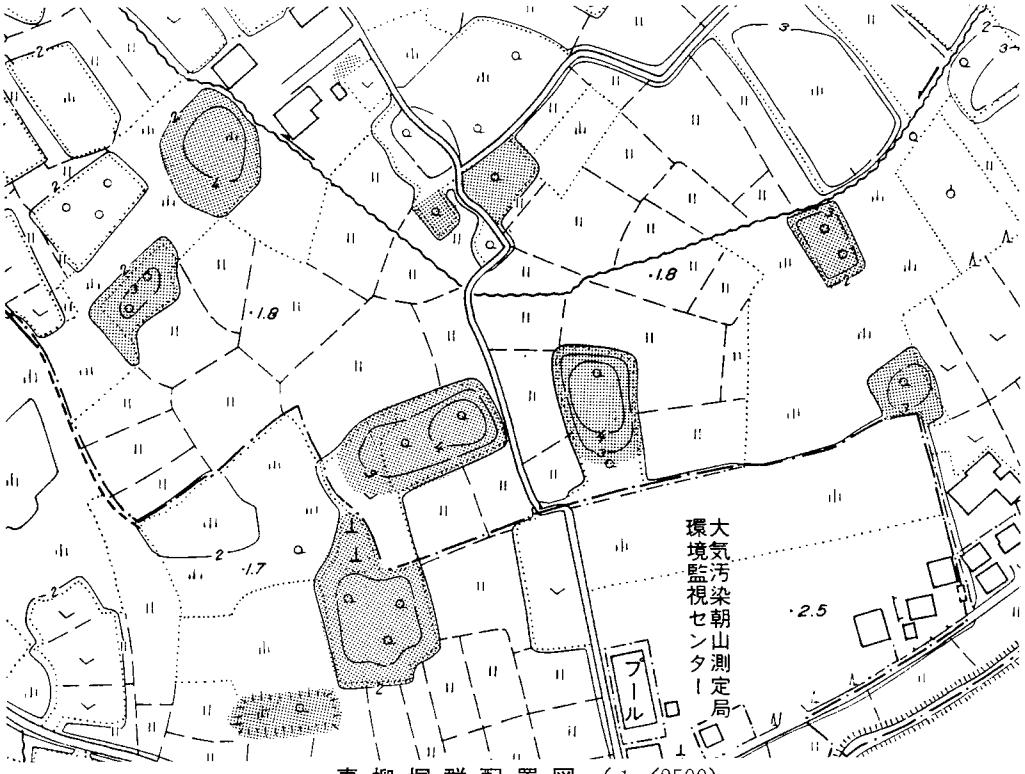
養老川左岸低地上には、県指定文化財である姉崎二子塚古墳や、式内社である姉崎神社との関係で注目される島穴神社がある。いずれも、低地の開発と無関係ではないと考えられる。そのような低地への進出と、海水準の変動といった生活環境の変遷は切り離せないものであり、それらの総合的な検討が必要であろう。そのような検討を通して、本塚群の成立も考えるべきではないかと考えられる。

なお、詳細については、既に本報告が刊行されているので、そらちを参照されたい。

（高橋康男）




青柳塚群と周辺の遺跡（1／10000）




青柳塚群配置図（1／2500）

# 20・21. 海保中谷遺跡・柏原遺跡群

**事業名**　県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財調査

**所在地**　市原市海保字中谷地先他。同市柏原地先他

**調査期間**　平成元年２月20日～同年２月28日

**調査面積**　120㎡（テストピット）

**調査概要**　当地は、養老川下流域の左岸沖積地に立地し、東京湾の旧海岸線より約１km（中谷）、１～1.5km（柏原）入った地域である。付近は、養老川の旧流路や砂洲堆積地であり、標高は、４～７ｍを測る。調査地の現況は、水田と畑に利用され、畑は水田より0.5 ～１ｍ高い。また、畑には、土師器の小片が小量散布している。約0.5km南の洪積台地上には、縄文中～後期の諸久蔵貝塚や海保古墳群などが存在する。調査は、テストピットであり、小範囲を畑を中心に試掘した。結果、標準土層は、Ⅰ層＝耕作土（20～40cm）、Ⅱ層＝砂質黒色土（20～30cm）、Ⅲ層＝砂質茶褐色土（10cm）湧水、Ⅳ層＝黄褐色粘土層である。遺物は、Ⅱ層上位より土師器片が小量出土したが、遺構は検出できなかった。今回の調査地域は、旧河川と微高地の境付近であり、本来の遺跡は、微高地の現集落の付近に存在すると考えられる。（田中清美）

**海保中谷遺跡、柏原遺跡群、調査地区位置図**　１：15,000

## 22. 六孫王原遺跡（A区・B区）

**事業名**　マンション建設工事に伴う埋蔵文化財調査

**所在地**　市原市姉崎字六孫王原3,221 番地他

**調査期間**　昭和63年5月2日～昭和63年9月9日

**調査面積**　9,500㎡

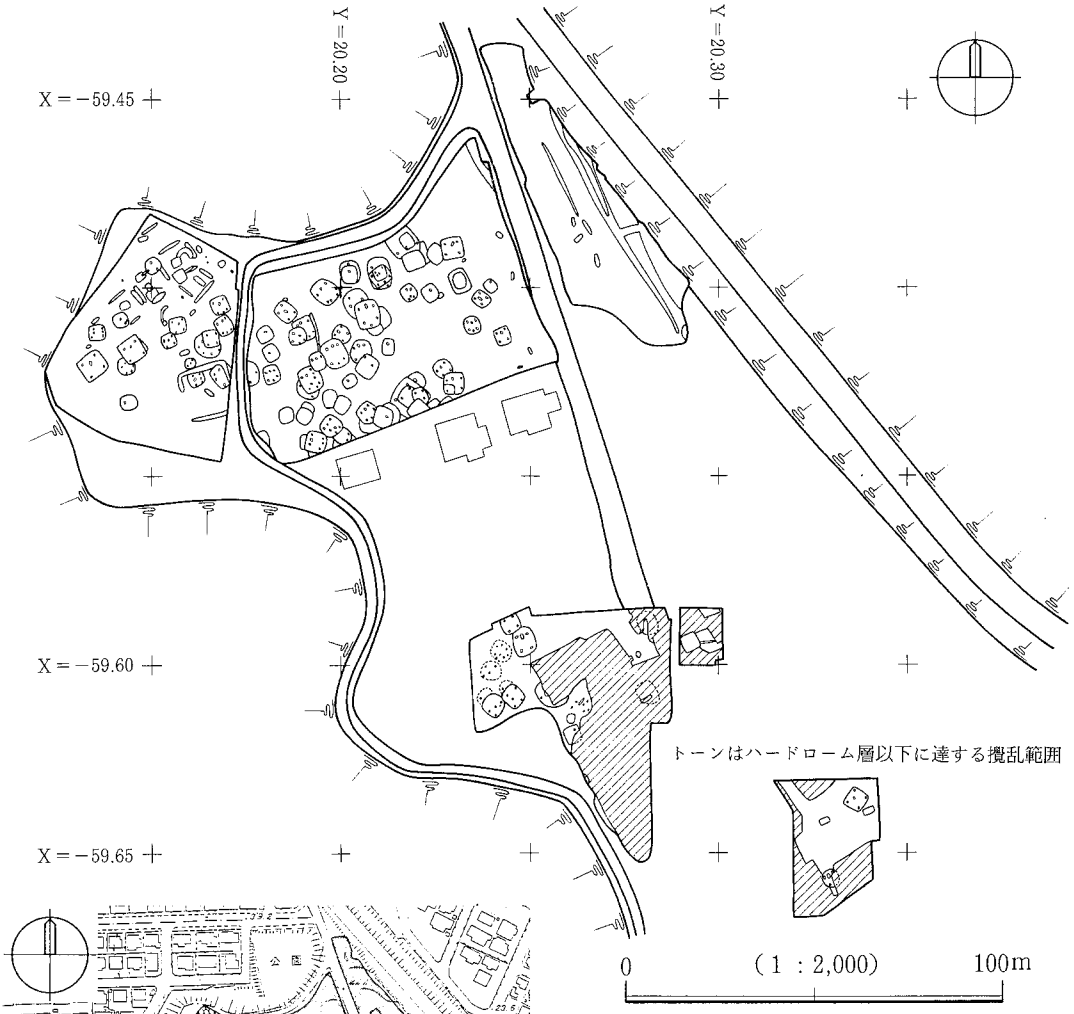
**調査概要**　遺跡は北に東京湾、西に椎津川を一望できる標高45m前後の台地上に位置しており、同台地上には姉崎天神山古墳や釈迦山古墳などの大型前方後円墳を主体とする姉崎古墳群の大部分が集中している。また遺跡内には姉崎古墳群の一角を占める終末期の前方後方墳でもある六孫王原古墳（主軸長45m）も存在しており、この地域における上海上国造との関係の深さを物語っている。

調査の結果、遺跡内を覆う黒色土はまったく存在しておらず、遺構は最も遺存状況の良好なものでも何らかの形で破壊されていた。これらの状況となる起因は、近年におけるボーリング場建設工事及び取り壊し工事と業者による土取りである。また極めて遺存状況が不良だったにもかかわらず、検出された遺構は多数にのぼり、このうち本遺跡の主体となるものは弥生時代後期から古墳時代中期にかけての84軒の竪穴住居跡と木棺墓4基などである。また木棺墓のうち1基からは鉄剣と刀子が、一辺10mを測る古墳時代前期の大型住居跡からは貯蔵穴と考えられるピットが住居跡東南コーナー部と炉の北側に検出され、それぞれ多量の遺物が検出されている。

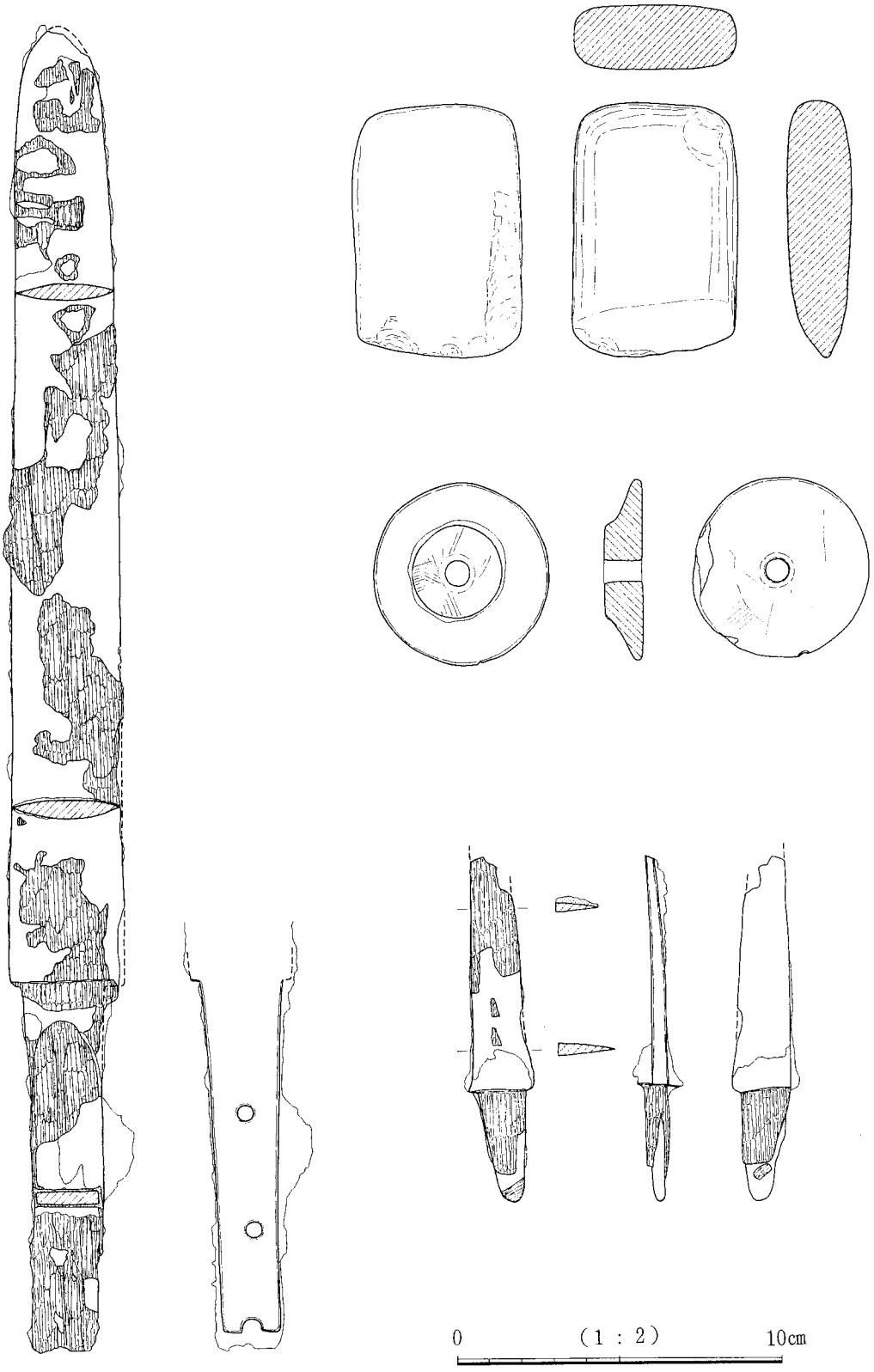
この他A地区西側に展開する毛尻遺跡（昭和56年度山武考古学研究所調査）において18軒の竪穴住居跡と4基の方形周溝墓等が検出されており、遺跡の立地や検出された遺構と遺物等より、六孫王原A・B地区と一連の遺跡であろうと考えられる。したがって検出された竪穴住居跡総数は100軒以上を数えることになり、またA～B地区に至る未調査区域内にも同時期の遺構の存在が予測されることから、姉崎地区における当該期の一つの拠点的集落跡であっただろうということが垣間見られる。

詳細については未整理段階のため不明瞭な点も多いが、現在のところ六孫王原遺跡の北側に隣接する原遺跡（主軸長70m前後の前方後円墳である原1号墳の下層遺跡）においても古墳時代後期前葉以降の集落は存在しておらず、今後引き続き調査が実施されるであろう六孫王原遺跡C・D地区の調査によってより地域の動向がより明瞭にされることであろう。

（木對和紀）



**六孫王原遺跡周辺地形図及び遺構配置図**




六孫王原遺跡出土遺物

# 23. 六孫王原遺跡（D区）

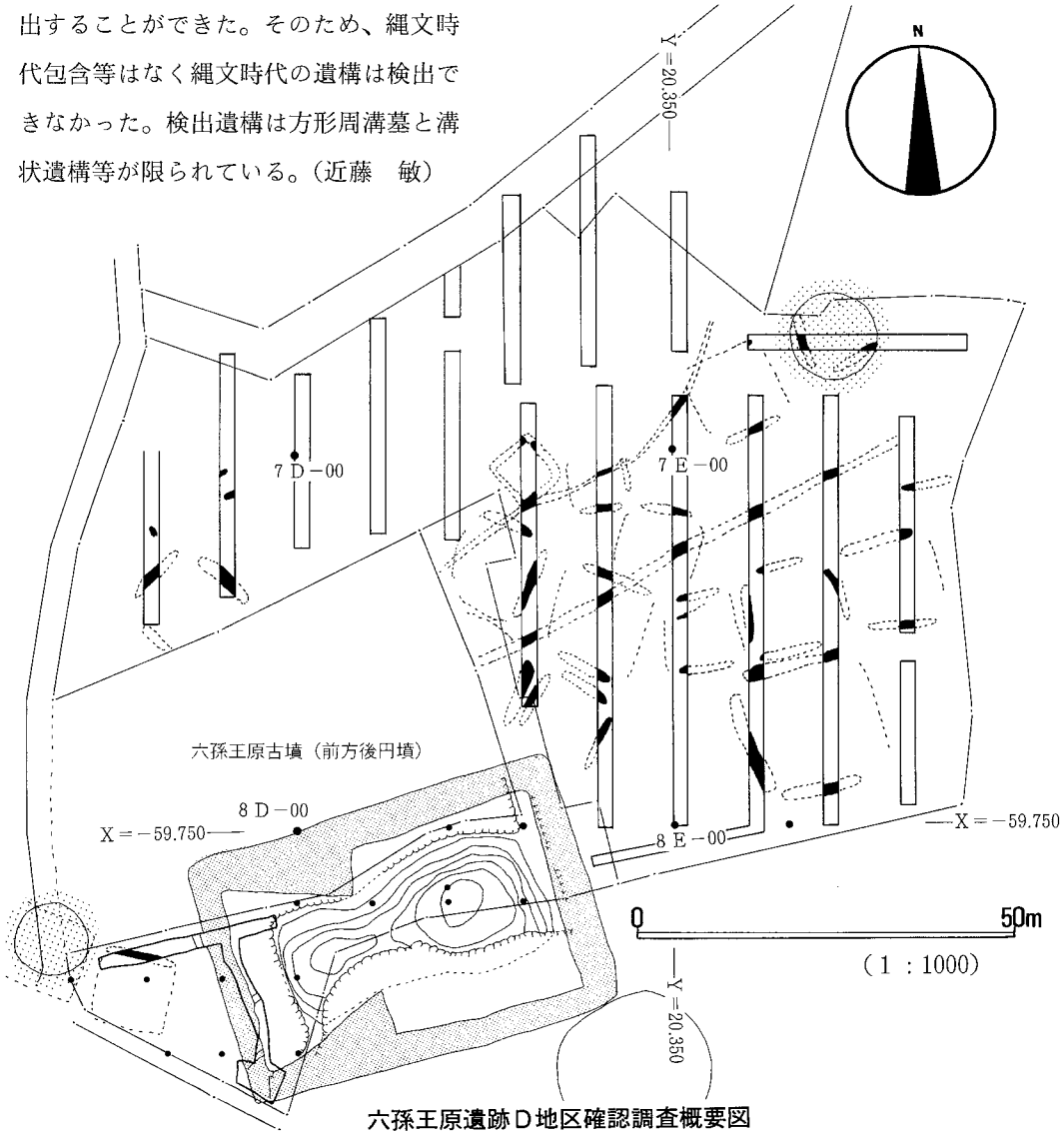
**事業名**　マンション建設に伴う埋蔵文化財調査（D区）

**所在地**　市原市姉崎字六孫王原3,231番地他

**調査期間**　昭和63年8月6日～昭和63年8月23日

**調査面積**　8,850㎡のうち885㎡（確認調査）

**調査概要**　当地は東京湾に注ぐ椎津川支流の片又木川右岸台地上、南北小支谷に挟まれた標高48m台地尾根部にあたる。昭和45年当時の開発によって、調査区域内は黒土の運び出しがなされ遺構確認面は、客土直下のハードローム層上面になっていたが、比較的深い遺構のみ検出することができた。そのため、縄文時代包含等はなく縄文時代の遺構は検出できなかった。検出遺構は方形周溝墓と溝状遺構等が限られている。（近藤　敏）




六孫王原遺跡D地区確認調査概要図

六孫王原古墳現況図 (1：300)

## 24. 新生荻原野遺跡（A地区・一本松塚）

**事業名**　後楽園リクリエーションワールド建設に伴う埋蔵文化財調査

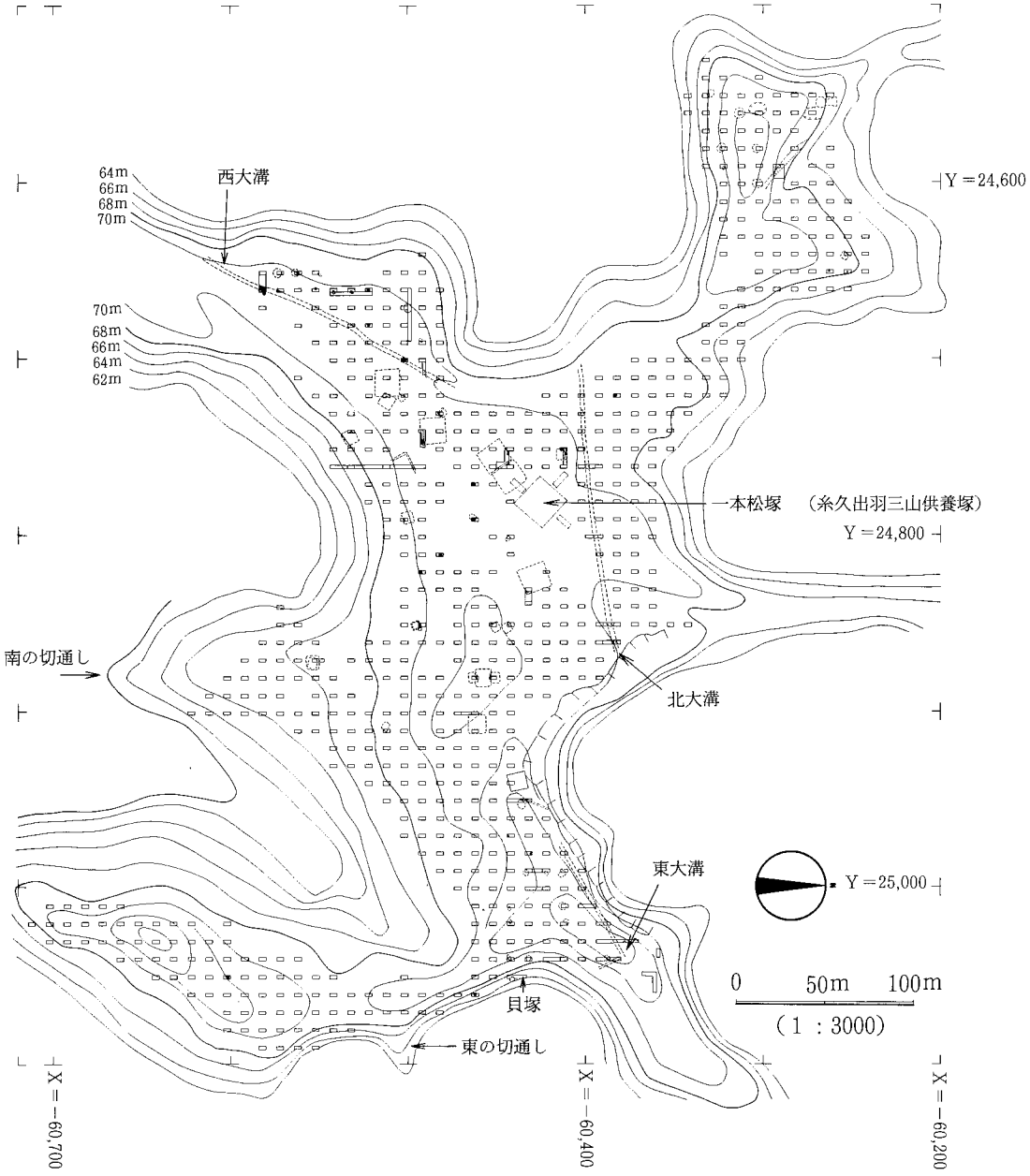
**所在地**　市原市新生西荻原野一帯

**調査期間**　昭和63年12月1日～平成元年3月31日（確認調査）

**調査面積**　69,800㎡のうち6,980㎡

**調査概要**　荻原野遺跡は、調査区域の北からA区・B区・C区・に別れている。A区のある台地は、姉崎台地上標高70m～80m有する。A区からB区は引田の大露頭の東側の台地となる。東は安須、高坂に源を発する開析谷、西は引田川開析谷となり、南は養老川と椎津川支流の分水嶺となる光風台団地、北は養老川開折デルタ地帯となる。一本松塚は、糸久村の三山供養塚で一辺25m、高さ3mの三段方形に造成されている。A区内は、東西南北から小支谷が入り込み、平坦部を少なくしている。舌状台地北側に北大溝、引田と新生の大字界に西大溝、東側に90°に折れて南下する東大溝がある。遺物としては9C頃の須恵器底部が1点採集されておりそれよりも新しいことになる。古代末か、中世の領地区画溝の可能性がある。終末期の古墳（墳墓）が南より侵入する谷を中心として、台地中央部に三日月状に分布している。確認では墳丘を有するものは皆無である。畑地であったため耕作のため削平されたものと考えている。いずれにしても低墳丘墓であろう。16基程の総数が考えられる。古墳時代、弥生時代の遺物はほとんど検出されない。縄文時代と考えられる小貝塚が東端崖上に形成されている。貝種から中期以降の時期が想定され調査区内に小集落があるだろうが、確認段階では未検出である。A区東側の南北に舌状に延びる台地の基部には、縄文時代早期の沈線紋系土器の包含層がある。面積は400㎡程で当該期の集落があると考えられる。三山塚の周辺調査区西側は、10000㎡にわたって撚糸紋期と条痕紋期の土器が包含される。東側と西側との間は約200mで、100mほどは包含層がない地帯がある。縄文時代早期の集落が東西に区分されて検出されそうである。確認時のグリッド中には、雲母粒が入る楕円押型文片も検出され共伴土器に興味がもたれる。先土器時代の地点分布が2ヶ所検出されている。出土層位は6層のAT包含層より上で、分布は薄い。

荻原野遺跡の南北に延びる尾根は，袖ケ浦町境界の市原市を走る鎌倉街道のルート上にある。しかし、今回の調査では道路遺構の検出はなかった。鎌倉街道は、古代官道の東海道ルートと概ね合致するといわれ、今回検出されなかったことはルート上にない説明となった。官道は台地上については幅員6mの約20尺で、掘り込みとして検出されているので、山田橋表通遺跡検出の官道のルートはやや東側にずれるとも考えられる。また、終末期古墳群の確認は8世紀前後の上総地方にける墓制と、律令制への移行及び新しい役人集団つまり、新興勢力を考える上で重要な資料となると思われる。　（近藤　敏）




新生荻原野遺跡Ａ地区確認調査概要図

# 25. 大坪永隅遺跡

**事業名**　県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財調査

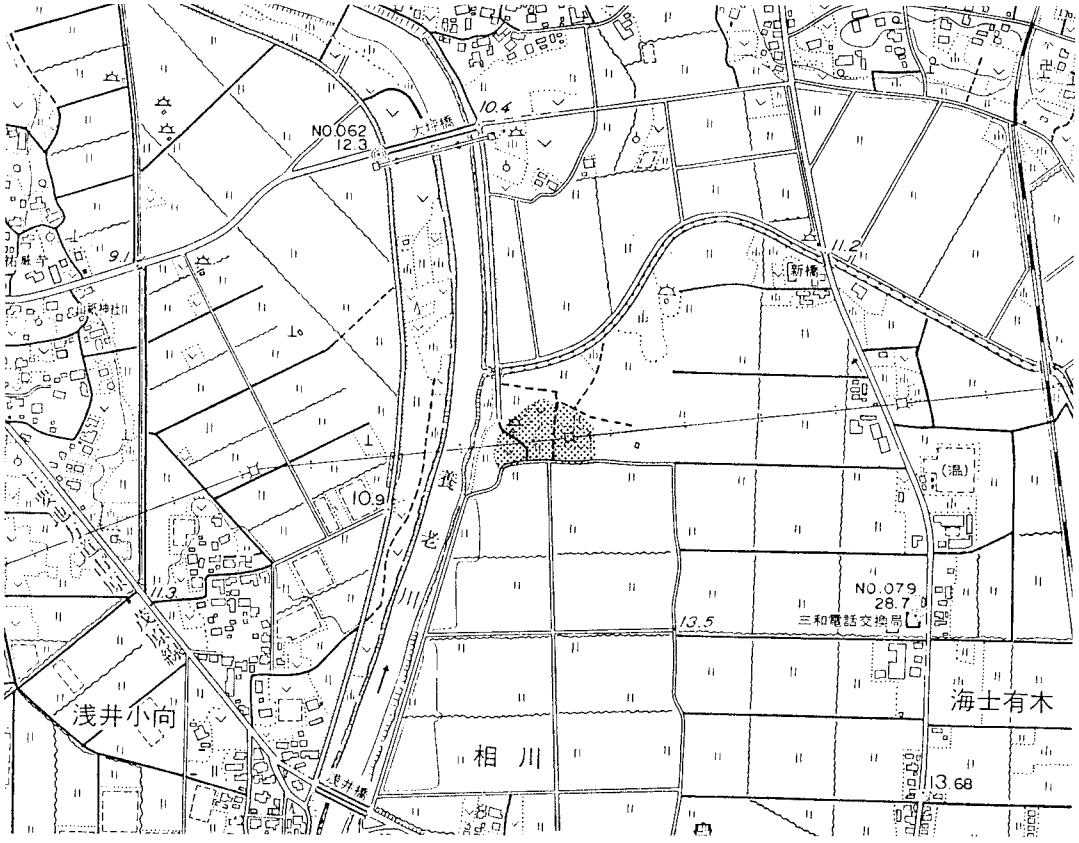
**所在地**　市原市大坪字永隅地先他

**調査期間**　平成元年2月20日～同年2月28日

**調査面積**　40㎡（テストピット）

**調査概要**　当地は、養老川中流域の右岸沖積地上で、支流の新堀川が合流する南岸にもあたる。養老川の河口からは、約8km上流の地点である。標高は、約9～12mで、新堀川に向かって南から北へ傾斜している。北東側約0.8kmの洪積台地上には、前方後円墳2基を含む海士古墳群や中世の椎津氏の居城と伝わる蟻木城跡などが存在する。調査地は、水田と畑に利用され、畑には、わずかに土師器の小片が散布する。調査はテストピットのため、小範囲の試掘である。

調査の結果、標準土層は、Ⅰ層＝耕作地（30～50cm）、Ⅱ層＝Ⅰ層とⅢ層の漸移土（10cm）、湧水、Ⅲ層＝黄褐色粘土層であった。遺物は、Ⅰ層より少量の土師器片が検出したのみであり、遺構は確認できなかった。以前にⅢ層より上部を削平されたとみられる。　（田中清美）




**大坪永隅遺跡調査地区位置図**　1：10,000

# 26. 福増山ノ神遺跡

**事業名**　産業廃棄物最終処分場建設に伴う埋蔵文化財調査

**所在地**　市原市福増字山ノ神261番地他

**調査期間**　（確認調査）昭和63年5月・（本調査）昭和63年6月15日～8月4日

**調査面積**　2,700㎡

**調査概要**　福増山ノ神遺跡は、養老川河口から約7㎞上流域右岸の西に開くやや奥まった小支谷に面する標高74mの台地上南側に位置し、支谷との比高差35～40mを測る。周辺には福増古墳群・勝間遺跡・武士廃寺等の所在が知られ、千葉県水道局市原東給水場建設に伴い武士遺跡が調査中されている。

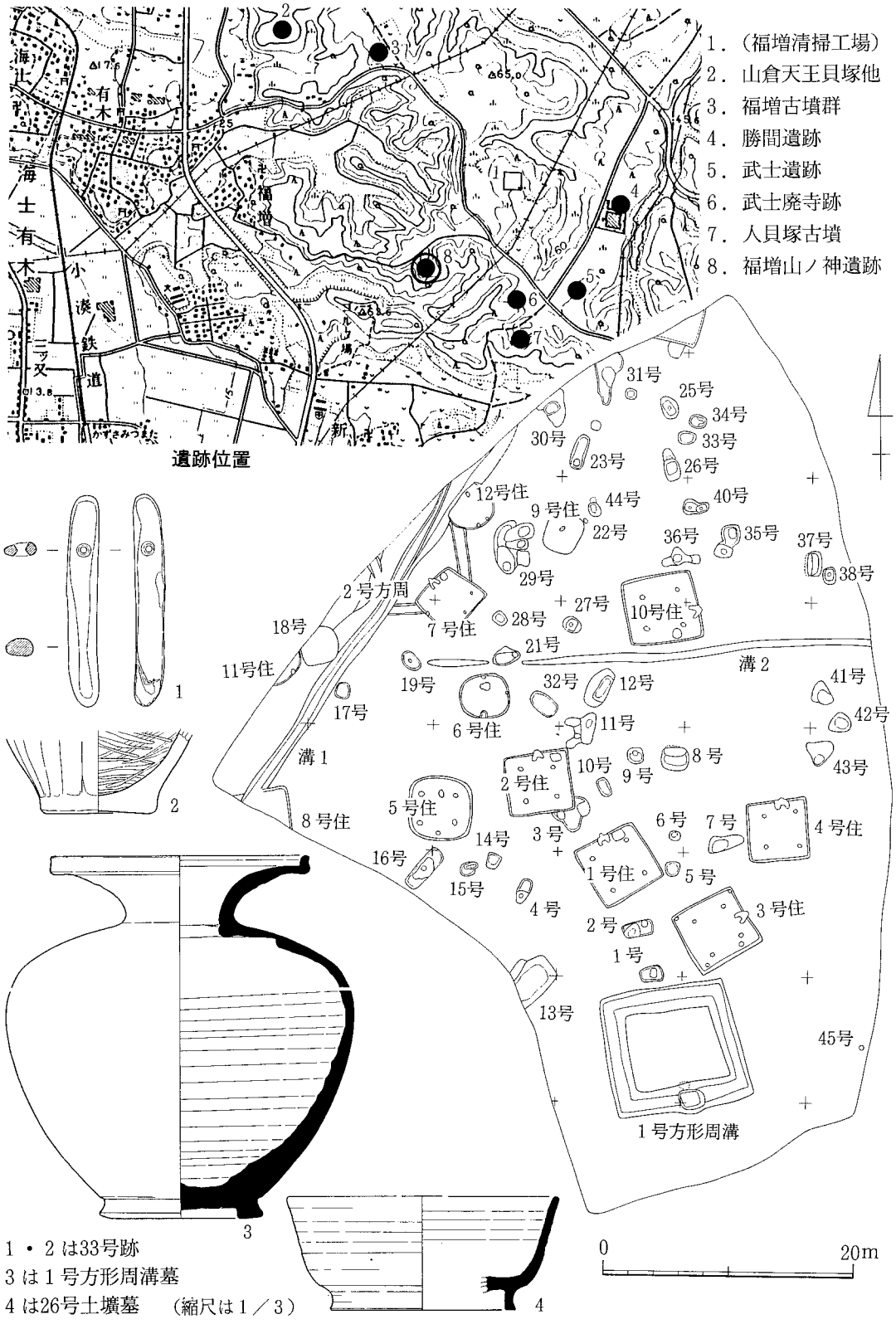
調査の結果、縄文時代早期の炉穴5基、中期埋甕1基、集石1基、弥生時代後期の竪穴住居跡5軒・土壙、古墳時代後期の竪穴住居跡7軒・土壙墓3基＋、奈良～平安時代の土壙墓3基・方形周溝を巡らす墓2基、中～近世の溝2条等を検出した、他に性格不明の落ち込み19基等を検出するが覆土から縄文早期ないし弥生後期と考えられるものの断定はできない。

縄文時代早期の炉穴は、29号跡で3基が複合している他は、21・23号跡とも単独の検出である。いずれも条痕文系の茅山式土器を検出している。早期の落ち込みの可能性のあるものとし、1・2・3…4・6・11・12・17・19・25・27・30・31・35・38・39・40号跡が挙げられる。

弥生時代では、5・6・9・11・12号住居跡5軒の他に、33号土壙墓がある。11・12号住居跡からは明確な時期を示す遺物は検出されないが住居跡と同時期の弥生後期に比定できよう。33号土壙は、長軸1.3m・短軸1.13mのほぼ円形で確認面からの深さ0.4mを測る。土壙内底面からは自然石を利用した有孔石棒を、また上面からは宮ノ台期の壺の底部を検出している。遺物は検出されないものの平面形と覆土堆積状況がこれと同様な土壙として5・9・28・34の土壙がある。

古墳時代では、1・2・3・4・7・8・10号住居跡の他に、非木棺系の地下式土壙墓の8・18・37号土壙墓があり、住居跡の所属時期と同様な六世紀中葉～七世紀前半までと考えられる。遺物では、須恵器横瓶1の他に、土師器坏では赤色されたものが多い。

奈良～平安時代では、1・2号の方形溝を伴う墓と14・26・44号の3基の竪坑と地下式埋葬施設（玄室）を伴う墓がある。1号方形周溝墓は、周溝下底間で東西8.63m・南北7.6m・外径の長さ東西10.6m・南北10.28mを測り、南溝中央に竪坑と玄室から成る埋葬施設を有し、玄室内からは火葬骨が、周溝内から灰釉壺がそれぞれ検出される。2号方形周溝墓からは、埋葬施設は検出されない。14・26・44号土壙墓は、竪坑と玄室から成り、14号からは、粘土で造られた鞠状の器に入れられた火葬骨が出土している。また26号跡からは、永田・不入窯もしくは石川窯産と考えられる須恵器高台付坏が出土している。灰釉壺は三段構成で、頸部は細く短く、口縁部は須恵器蓋坏を逆さに付した特異な器形を呈している。胎土・焼成等から猿投産の可能性が高く、須恵器高台付坏と同様な八世紀末～九世紀初頭と考えられる。　（浅利幸一）




福増山ノ神遺跡全体図及び主な出土遺物

# 27. 北旭台遺跡

**事業名**　ゴルフ練習場建設工事に伴う埋蔵文化財調査

**所在地**　市原市磯ヶ谷字北旭台87-2番地他

**調査期間**　平成元年1月10日～3月31日（本調査）

**調査面積**　3,500㎡

**調査概要**　遺跡は養老川右岸に灌ぐ大桶川の形成する標高45m前後の舌状台地突端部に位置し、市原交通刑務所の北に隣接している。また同刑務所内には古墳数基が現状保存されており、今回調査された4基の古墳と共に北旭台古墳群を形成している。

調査の結果、縄文時代～歴史時代に及ぶ以下の多種・多岐の遺構が検出された。

縄文時代　住居跡14、竪穴状遺構1、炉穴5、集石2、落し穴4、土壙24

弥生時代　住居跡6、方形周溝墓2、土壙1

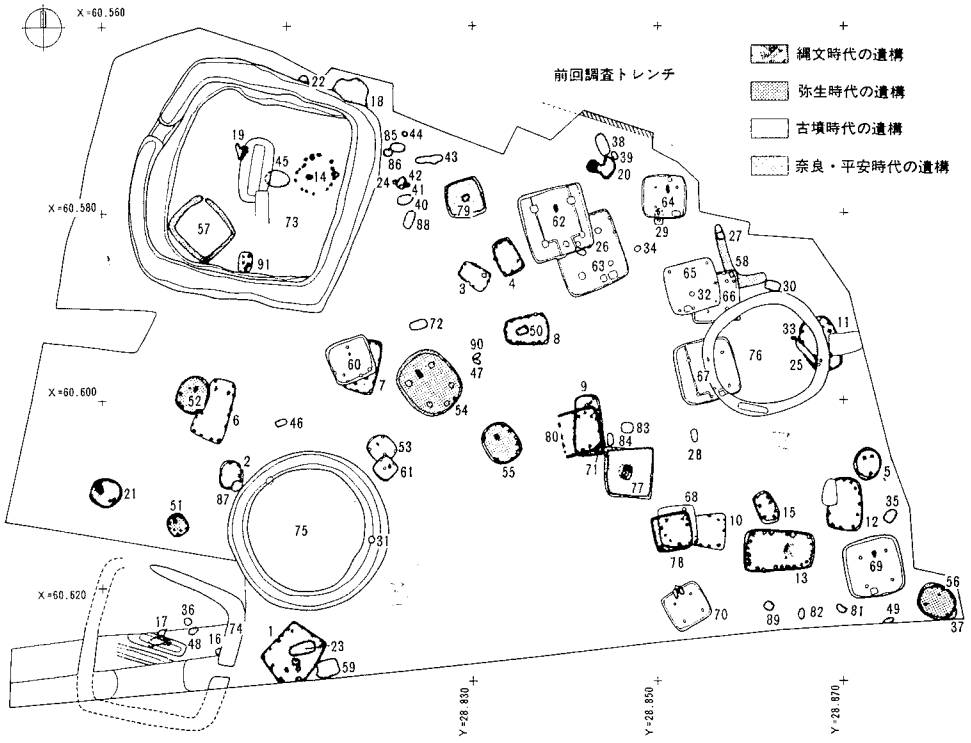
古墳時代　住居跡11、土壙2、方墳2、円墳2

歴史時代　方型区画改葬墓（改葬系区画墓）4

時期不明　土壙11

尚、65号遺構より検出された有鉤銅釧は、分布の東限を塗り変えたばかりではなく、全国的にも貴重な発見である。

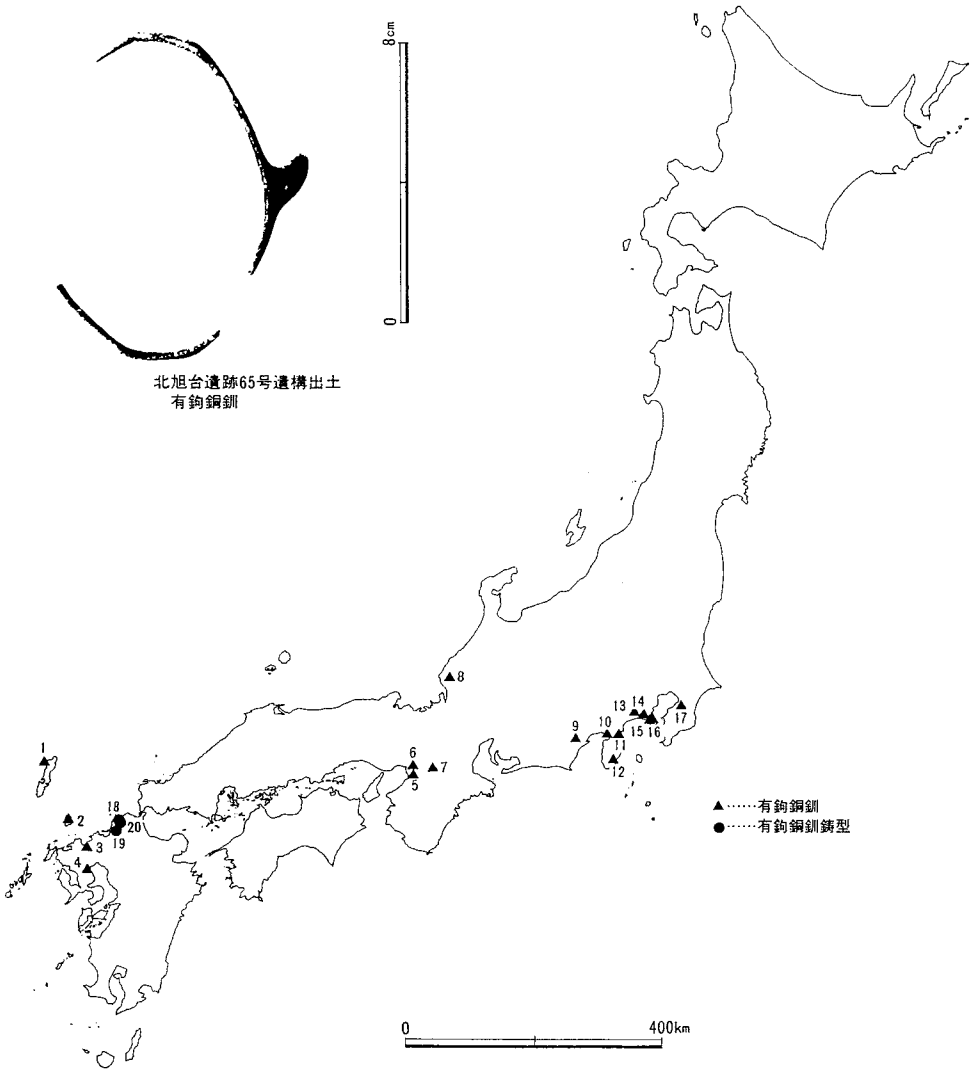
（木對和紀）




北旭台遺跡遺構配置図

42.0
40.0
38.0
36.0
34.0
32.0
30.0
28.0
南北方向のトレンチはＳ59年度
東西方向のトレンチはＳ62年度
調査範囲
0
(1：1800)
60m

北旭台遺跡全体図




有鉤銅釧及び鋳型分布図

## 有鉤銅釧出土遺跡

| No. | 県名 | 市町村名 | 遺跡名 | 点数 | 備考（時期等） | No. | 県名 | 市町村名 | 遺跡名 | 点数 | 備考（時期等） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 長崎 | 上県町 | 白岳 | 1 | 積石塚群？ | 11 | 静岡 | 清水町 | 矢崎 | 2 | |
| 2 | 長崎 | 壱岐群 | 原の辻 | 3 | 甕棺墓地 | 12 | 〃 | 下田市 | 了仙寺洞穴 | 1 | 有鉤銅釧小型品 |
| 3 | 佐賀 | 唐津市 | 桜馬場 | 26 | 甕棺墓　中期 | 13 | 神奈川 | 秦野市 | 根丸島 | 1 | 弥生後期 |
| 4 | 〃 | 武雄市 | 茂手 | 1 | (建物跡？)後期前半 | 14 | 〃 | 鎌倉市 | 手広八反目 | 1 | 住居跡弥生後半 |
| 5 | 大阪 | 泉大津市 | 要池 | 1 | 布留期の溝 | 15 | 〃 | 逗子市 | 持田 | 1 | 住居跡久ヶ原(鉤状突起はみあたらない) |
| 6 | 〃 | 東大阪市 | 巨摩廃寺 | 1 | 沼状遺構中期末を下らない | 16 | 〃 | 〃 | 池子 | 1 | 細詳不明 |
| 7 | 奈良 | 奈良市 | 富雄丸山古墳 | 1 | | 17 | 千葉 | 市原市 | 北旭台 | 1 | 住居跡五領前期 |
| 8 | 福井 | 鯖江市 | 西山公園 | 8 | 後期 | 18 | 福岡 | 福岡市 | 浜山 | | 鋳型？ |
| 9 | 静岡 | 静岡市 | 小黒 | 1 | 弥生後期後半 ～ 古式土師 | 19 | 〃 | 〃 | 香椎松原 | | 鋳型 |
| 10 | 〃 | 沼津市 | 御幸町 | 1 | 古式土師 | 20 | 〃 | 〃 | 上の宮 | | 鋳型（細詳不明） |

# 28. 川在南障子遺跡

**事業名**　市道５２号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査

**所在地**　市原市川在587番地他

**調査期間**　昭和63年４月１日～５月15日（確認調査）・５月16日～７月15日（本調査）

**調査面積**　11,300㎡のうち1,130㎡（確認調査）・2,000㎡（本調査）

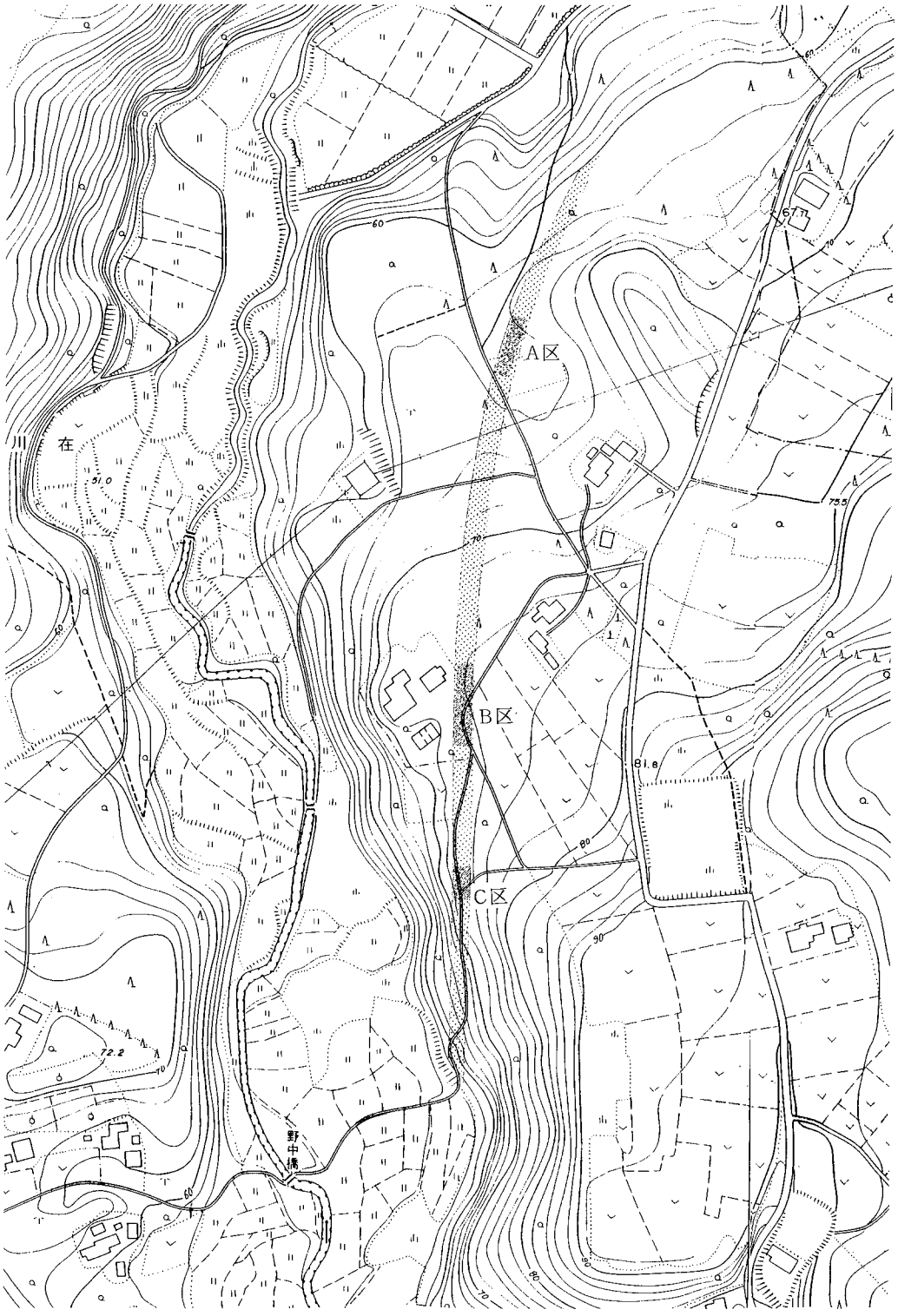
**調査概要**　遺跡は養老川の支流、大桶川の右岸台地上に存在する。調査区は、台地の縁を通る形になり、斜面と平坦部が交互に現れる部分での調査となった。調査区の北端は標高約60ｍ南側の最も高いところでは約74ｍであった。調査区の南側周辺一帯では、多数の土器片が散らばっており、集落の広がりを感じさせるものであった。また、地元の方が周辺の畑からかつて耕作中に採取したという土器を見せていただいたところ、縄文時代中期の加曽利Ｅ式に属する深鉢の口縁部にかけての破片であり、炉体土器とも考えられる物であり、当該時期の集落の存在の可能性が考えられた。

確認調査は、道路予定部分に直行する形で約50本に及ぶトレンチを設定しておこなった。その結果、南側の台地上では縄文時代早期の遺物包含層が確認され、調査区ほぼ中央の緩斜面では、南北方向に掘られた性格不明の溝状遺構が確認された。その他の部分では、特に目立った遺構、遺物の出土は認められなかった。この確認調査の結果をふまえて、遺物の比較的集中した箇所２か所（Ｂ区・Ｃ区）と、溝の確認された部分（Ａ区）について本調査を実施するところとなった。当初、予想されたような集落の展開は確認されず、今回、調査を実施したような、台地の縁ではなく、さらに台地の中央に近い部分に集落の本体が存在するのではないかと考えられる。

本調査は、包含層の調査であり、遺物の出土位置を極力ドットに落とすよう努めた。得られた成果については、未整理であり、包含層の内容あるいは形成の様子については今後の課題として残っている。なお、包含層下層から落とし穴が１基検出されている。

養老川中流域右岸における発掘調査の例は必ずしも多くはなく、今回の成果はある意味では貴重な成果と言うことができよう。また、縄文時代早期の資料も徐々に増加しつつあるが、不十分な面もあり、今回得られた資料が、それら不完全な資料の補完に多少なりとも成り得ればと考える。

（高橋康男）




**川在南障子遺跡周辺地形図**（トーン部確認調査範囲　A区～C区：本調査部分）

# Ⅳ. 昭和63年度　受 贈 図 書 一 覧

| 書　　名 | 寄　贈　者 | 受入日 |
|---|---|---|
| 滋賀埋文ニュース　第96号 | 滋賀県教育委員会文化財保護課 | 63. 4. 1 |
| 埋蔵文化財　愛知　No.12 | ㈶愛知県埋蔵文化財センター | 〃 |
| 名古屋市博物館だより61 | 名古屋市博物館 | 〃 |
| 京都府埋蔵文化財情報第26号 | ㈶京都府埋蔵文化財調査研究センター | 〃 |
| 千葉県木更津市請西遺跡群発掘調査報告書 | 木更津市教育委員会 | 〃 |
| 千葉県木更津市丹過遺跡確認調査報告書 | 同 | 〃 |
| 長野県埋蔵文化財センター紀要　1 | ㈶長野県埋蔵文化財センター | 〃 |
| '88さいたま博覧会協賛特別展図録　はにわ人の世界 | 埼玉県立さきたま資料館 | 〃 |
| 愛知県埋蔵文化財情報　2 | 北村和宏 | 63. 4. 4 |
| ㈶愛知県埋蔵文化財センター年報　昭和61年度 | 同 | 〃 |
| 一宮市博物館　博物館だより　No.2 | 同 | 〃 |
| 高松城東ノ丸跡発掘調査報告書 | 香川県教育委員会 | 〃 |
| 静岡県埋蔵文化財調査研究所　年報Ⅱ | ㈶静岡県埋蔵文化財調査研究所 | 63. 4. 7 |
| 同　Ⅲ | 同 | 〃 |
| 港郷土資料館だより第12号 | 東京都教育委員会 | 〃 |
| 港区指定文化財昭和62年度 | 同 | 〃 |
| 浜松市博物館だより　Vol.6－4　No.21 | 浜松市博物館 | 〃 |
| 研究所報No.9～13 | ㈶静岡県埋蔵文化財調査研究所 | 〃 |
| 小見川町文化財報告　第13集 | 小見川町教育委員会 | 63. 4. 13 |
| 天狗沢瓦窯跡発掘調査概報 | 敷島町教育委員会 | 〃 |
| 栃木県立しもつけ風土記の丘資料館年報　第1号 | 栃木県立しもつけ風土記の丘資料館 | 〃 |
| 水源山南古墳1988 | 愛知県豊田土木事務所 | 〃 |
| 大鳳寺跡第2次発掘調査報告書 | 大鳳寺跡発掘調査会 | 63. 4. 14 |
| 宇治市埋蔵文化財発掘調査概報　第10集 | 宇治市教育委員会 | 〃 |
| 刀剣美術　四月号 | ㈶日本美術刀剣保存協会 | 〃 |
| 埋文とやま　第22号 | 富山県埋蔵文化財センター | 63. 4. 15 |
| 清水山遺跡 | ㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団 | 〃 |
| 関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第19集 | 同 | 〃 |
| ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書　Ⅶ－4 | ㈶滋賀県文化財保護協会 | 〃 |
| 同　Ⅷ－4 | 同 | 〃 |
| 尾上遺跡発掘調査報告書 | 同 | 〃 |
| ひろしまの遺跡第32号 | ㈶広島県埋蔵文化財調査センター | 63. 4. 18 |
| 埋文あおもり | 青森県埋蔵文化財調査センター | 〃 |
| 志波城跡　昭和62年度発掘調査概報 | 盛岡市教育委員会 | 〃 |
| 郷土資料展示室だより　12 | 宮本敬一 | 63. 4. 19 |
| 日南町教育委員会文化財報告書2 | 日南町教育委員会 | 〃 |
| 鶴岡八幡宮境内遺跡発掘調査報告　Ⅱ | 鎌倉考古学研究所 | 63. 4. 20 |
| 神奈川県鎌倉市御成町228番－2他地点遺跡 | 同 | 〃 |
| 國學院大學考古學資料館要覧　1987 | 國學院大學考古學資料館 | 〃 |
| 同　紀要　第4輯 | 同 | 〃 |
| 兵庫県三田市文化財調査報告　第5冊 | 三田市教育委員会 | 63. 4. 21 |
| 我孫子市埋蔵文化財報告　第11集 | 我孫子市教育委員会 | 〃 |

| 書　　名 | 寄　贈　者 | 受入日 |
|---|---|---|
| 泥牛庵脇やぐら群　Ⅱ | 神奈川県立埋蔵文化財センター | 63. 4.22 |
| 新吉田町四ッ家横穴墓群 | 同 | 〃 |
| 神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告　15 | 同 | 〃 |
| 調布の伝説 | 調布市郷土博物館 | 〃 |
| 展示解説シートNo.1　甲州街道と布田五宿 | 同 | 〃 |
| 同　　No.2　近藤勇とその生家 | 同 | 〃 |
| 同　　No.3　多摩川中流の川船 | 同 | 〃 |
| 調布の文化財　第3号 | 同 | 〃 |
| 第18回企画展　商人たちの心意気 | 小山市立博物館 | 〃 |
| 館山城跡第4次調査報告書 | 館山市教育委員会 | 〃 |
| 館山市埋蔵文化財分布地図 | 同 | 〃 |
| 昭和62年度市川市埋蔵文化財発掘調査報告 | 市川市教育委員会 | 〃 |
| 昭和62年度市川東部遺跡群発掘調査報告 | 同 | 〃 |
| 神奈川県埋蔵文化財調査報告　30 | 神奈川県教育庁 | 63. 4.23 |
| 神奈川県文化財調査報告書　第47集 | 同 | 〃 |
| 資料館だより　Vol.13　No.6 | 沼津市歴史民俗資料館 | 〃 |
| 資料館解説シリーズ　17 | 同 | 〃 |
| 沼津市博物館紀要　12 | 同 | 〃 |
| 祭頭祭史料Ⅰ　古文書編 | 鹿島町教育委員会 | 〃 |
| 鹿島町の文化財　第51集 | 同 | 〃 |
| 同　　第52集 | 同 | 〃 |
| 東京都板橋区根ノ上遺跡発掘調査報告 | 板橋区根ノ上遺跡発掘調査会 | 〃 |
| 小田原市文化財調査報告書　23集 | 小田原市教育委員会 | 63. 4.25 |
| 同　　24集 | 同 | 〃 |
| 千葉県君津市郡遺跡確認調査報告書 | 君津市教育委員会 | 63. 4.26 |
| 市原地方史研究　第十五号 | 市原市教育委員会文化課 | 〃 |
| あざみ野遺跡 | 國學院大學文学部考古学研究室 | 63. 4.28 |
| 野尻町文化財調査報告書　第3集 | 野尻町教育委員会 | 〃 |
| 一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 | ㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団 | 63. 4.30 |
| 各務原市資料調査報告書　第九号 | 各務原市歴史民俗資料館 | 〃 |
| 第4回企画展『速報展'88』昭和62年度の発掘出土品を集めて | 松本市立考古博物館 | 〃 |
| 1983－87新遺跡カタログ　新・古代史発掘 | 朝日新聞社 | 63. 5. 2 |
| 千葉県立房総風土記の丘だより　第15号 | 千葉県立房総風土記の丘 | 〃 |
| なりた　No.4 | 成田山霊光館 | 〃 |
| 信仰の道　成田街道 | 同 | 〃 |
| 滋賀文化財だより　No.122～124 | ㈶滋賀県文化財保護協会 | 〃 |
| 電々ケーブル・関電引出管路埋設に伴う市三宅遺跡発掘調査報告書 | 同 | 〃 |
| 三明川改良事業に伴う蛇塚遺跡発掘調査報告書 | 同 | 〃 |
| 君津郡市文化財センター年報　No.2 | ㈶君津郡市文化財センター | 〃 |
| 同　　No.5 | 同 | 〃 |
| 三箇遺跡群　Ⅰ | 同 | 〃 |
| 同　　Ⅳ | 同 | 〃 |
| ㈶君津郡市文化財センター発掘調査報告書　第20集 | 同 | 〃 |
| 同　　第23集 | 同 | 〃 |

| 書　　名 | 寄　贈　者 | 受入日 |
|---|---|---|
| ㈶君津郡市文化財センター発掘調査報告書　第24集 | ㈶君津郡市文化財センター | 63. 5. 2 |
| 研究紀要　5 | ㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団 | 63. 5. 7 |
| 昭和62年度市原市埋蔵文化財緊急調査報告書 | 市原市教育委員会 | 63. 5. 9 |
| 神奈川県相模原市　古淵A遺跡 | 縄文文化研究会 | 〃 |
| 神奈川県厚木市下依知　稲荷山第一号古墳 | 同 | 〃 |
| 海会寺 | 泉南市教育委員会 | 〃 |
| 関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第18集 | ㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団 | 〃 |
| 蓮田市文化財調査報告書　第1集 | 近藤　敏 | 〃 |
| 同　　第2集 | 同 | 〃 |
| 要覧 | 栃木県立しもつけ風土記の丘資料館 | 〃 |
| 栃木県立しもつけ風土記の丘資料館年報　第1号 | 同 | 〃 |
| 常設展示解説　古代下野国の歴史 | 同 | 〃 |
| 岩波講座　日本考古学　4集落と祭祀 | 大村　直 | 63. 5.10 |
| 史　館　第十一号 | 同 | 〃 |
| 同　第十二号 | 同 | 〃 |
| 同　第十四号 | 同 | 〃 |
| 同　第十五号 | 同 | 〃 |
| 同　第十六号 | 同 | 〃 |
| 同　第十七号 | 同 | 〃 |
| 同　第十九号 | 同 | 〃 |
| 同　第二十号 | 同 | 〃 |
| 鎌ヶ谷市埋蔵文化財調査報告　第1集 | 鎌ヶ谷市教育委員会 | 63. 5.11 |
| 同　第2集 | 同 | 〃 |
| 同　第3集 | 同 | 〃 |
| 千葉県佐倉市　寺崎遺跡群発掘調査報告書 | 佐倉市教育委員会 | 〃 |
| 第3回企画展　長野市西部山地の海の貝 | 長野市立博物館 | 〃 |
| 博物館考古学講座講演録《ドングリ食について》 | 同 | 〃 |
| 博物館民俗講座講演録《山の祭りと民俗芸能》 | 同 | 〃 |
| 待兼山遺跡　Ⅱ | 大阪大学埋蔵文化財調査委員会 | 〃 |
| 原遺跡 | 日本考古学研究所 | 〃 |
| 埋田遺跡　千葉県東葛飾郡沼南町手賀 | 同 | 〃 |
| 高宮台遺跡 | 同 | 〃 |
| 村田雷塚・吉岡大塚遺跡調査報告書 | 同 | 〃 |
| 清水台・三榎遺跡確認調査概報 | 同 | 〃 |
| 山武猪ノ堤遺跡 | 同 | 〃 |
| 布佐・余間戸 | 同 | 〃 |
| 千葉県富浦町　深名瀬畠遺跡調査報告書 | 同 | 〃 |
| 龍角寺ニュータウン遺跡群 | 同 | 〃 |
| 日本考古学研究所集報　Ⅰ | 同 | 〃 |
| 同　Ⅹ | 同 | 〃 |
| 千葉県鎌ヶ谷市　谷地川No.－1遺跡発掘調査報告書 | 鎌ヶ谷市教育委員会 | 〃 |
| 同　中向遺跡確認調査報告書 | 同 | 〃 |
| 鳥取県埋蔵文化財センター調査報告　3 | 鳥取県埋蔵文化財センター | 63. 5.12 |
| 鳥取埋文ニュースNo.20 | 同 | 〃 |

| 書　　名 | 寄　贈　者 | 受入日 |
|---|---|---|
| 船橋市郷土資料館資料館だより　第41～43号 | 船橋市郷土資料館 | 63. 5.12 |
| 船橋市郷土資料図録10　土師器　Ⅱ | 同 | 〃 |
| 第47回展示資料観覧の手びき | 同 | 〃 |
| 第48回　　同 | 同 | 〃 |
| 第49回　　同 | 同 | 〃 |
| 第28回郷土史講座講義録 | 同 | 〃 |
| 第29回　　同 | 同 | 〃 |
| 奈良国立文化財研究所概要 | 奈良国立文化財研究所 | 〃 |
| 滋賀埋文ニュース第97号 | 滋賀県教育委員会 | 63. 5.13 |
| 松戸市文化財調査報告　第14集 | 松戸市教育委員会 | 〃 |
| 松戸市文化財調査小報　19 | 同 | 〃 |
| 　同　　20 | 同 | 〃 |
| 東京都新島本村式根島　吹之江東遺跡 | 田所　真 | 〃 |
| 木曽森野　1987　No.1 | 同 | 〃 |
| 市原市近世文書調査報告書　市原市近世文書目録　Ⅰ | 市原市教育委員会文化課 | 〃 |
| 　同　　Ⅱ | 同 | 〃 |
| 　同　　Ⅲ | 同 | 〃 |
| 京葉　Vol.126 | 同 | 〃 |
| (財)元興寺文化財研究所通信　No.29 | (財)元興寺文化財研究所 | 63. 5.16 |
| ショップ遺跡 | 三石町教育委員会 | 〃 |
| 南那須町文化財調査報告書　第3集 | 南那須町教育委員会 | 〃 |
| 泉北考古資料館だより　No.32～34 | 大阪府立泉北考古資料館 | 〃 |
| 松本市文化財調査報告　No.57 | 松本市教育委員会 | 〃 |
| 　同　　No.58 | 同 | 〃 |
| 　同　　No.59 | 同 | 〃 |
| 　同　　No.60 | 同 | 〃 |
| 　同　　No.61 | 同 | 〃 |
| 　同　　No.62 | 同 | 〃 |
| 　同　　No.63 | 同 | 〃 |
| 　同　　No.64 | 同 | 〃 |
| 　同　　No.65 | 同 | 〃 |
| 　同　　No.66 | 同 | 〃 |
| 東大寺大仏殿西廻廊隣接地の発掘調査 | 奈良県立橿原考古学研究所 | 〃 |
| 五井漁業史 | 市原市教育委員会文化課 | 63. 5.17 |
| 東国土器研究　第1号 | 田所　真 | 〃 |
| 多古台遺跡群　No.1地点 | 多古町教育委員会 | 63. 5.18 |
| 中内原遺跡 | 同 | 〃 |
| 神奈川県川崎市高津区　千年B区横穴墓群 | 相武考古学研究所 | 〃 |
| 上溝乙4号遺跡 | 同 | 〃 |
| 梶原南遺跡発掘調査報告書 | 高槻市教育委員会 | 63. 5.19 |
| 兵庫県八鹿町文化財調査報告書　第7集 | 八鹿町教育委員会 | 〃 |
| 近衛家陽明文庫の名宝 | 石川県立歴史博物館 | 63. 5.20 |
| 石川れきはく　第7号 | 同 | 〃 |
| 釧路市桜ヶ岡2遺跡調査報告書 | 釧路市埋蔵文化財調査センター | 〃 |

| 書　　名 | 寄　贈　者 | 受入日 |
|---|---|---|
| 三枚町遺跡発掘調査報告書 | 玉川文化財研究所 | 63. 5.20 |
| 長野市の埋蔵文化財　第24集 | 長野市埋蔵文化財センター | 〃 |
| 同　　第25集 | 同 | 〃 |
| 同　　第28集 | 同 | 〃 |
| 昭和62年度　市内遺跡群発掘調査報告書 | 柏市教育委員会 | 〃 |
| 調布の考古資料展　鉄が語る調布の古代 | 調布市郷土博物館 | 63. 5.21 |
| 同　　国の指定史跡下布田遺跡と「重要文化財土製耳飾」 | 同 | 〃 |
| 所報　吉備　第４号 | 岡山県古代吉備文化財センター | 63. 5.23 |
| 大田区立郷土博物館収蔵品目録考古部門資料目録(1)　西岡秀雄コレクション | 大田区立郷土博物館 | 〃 |
| 特別展　写された明治の東京 | 同 | 〃 |
| 大田区立郷土博物館だより　第18号 | 同 | 〃 |
| 博物館ノート　№40～42 | 同 | 〃 |
| 世田谷区史料叢書　第三巻 | 同 | 〃 |
| 大場美佐の日記　一 | 同 | 〃 |
| 世田谷区立郷土資料館資料館だより　№８ | 同 | 〃 |
| 古道シリーズ３　せたがやの甲州街道 | 同 | 〃 |
| いつかどこかで見た民具　四街道市民俗資料 | 四街道市教育委員会 | 63. 5.24 |
| ㈶君津郡市文化財センター発掘調査報告書　第25集 | ㈶君津郡市文化財センター | 〃 |
| 同　　第26集 | 同 | 〃 |
| 同　　第29集 | 同 | 〃 |
| 同　　第30集 | 同 | 〃 |
| 同　　第31集 | 同 | 〃 |
| 同　　第32集 | 同 | 〃 |
| 同　　第34集 | 同 | 〃 |
| 千葉県君津市　郡条里遺跡確認調査報告書 | 君津市教育委員会 | 63. 5.25 |
| 名古屋大学文学部研究論集　ＣＩ　史学34〔考古学抜刷第3集〕 | 名古屋大学文学部考古学研究室 | 〃 |
| 埋蔵文化財ニュース　59～61 | 奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター | 〃 |
| ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書　XIV－６ | ㈶滋賀県文化財保護協会 | 〃 |
| 東京都練馬区　葛原遺跡Ｂ地点調査報告書 | 練馬区教育委員会 | 63. 5.26 |
| 東京都練馬区武蔵関遺跡 | 同 | 〃 |
| 溜淵遺跡・富士見池西方遺跡調査報告書 | 同 | 〃 |
| 埋蔵文化財調査報告　３ | 同 | 〃 |
| 埋文えひめ　第７，８号 | ㈶愛媛県埋蔵文化財調査センター | 〃 |
| 埋蔵文化財発掘調査報告書　第26集 | 同 | 〃 |
| 同　　第27集 | 同 | 〃 |
| 國學院大學文学部考古学実習報告　第15集 | 國學院大學文学部考古学研究室 | 〃 |
| 同　　第16集 | 同 | 〃 |
| 平城京東市跡推定地の調査Ⅵ　第８次発掘調査概報 | 奈良市埋蔵文化財調査センター | 〃 |
| 奈良市埋蔵文化財調査概要報告書　昭和62年度 | 同 | 〃 |
| 奈良市埋蔵文化財調査センター紀要　1987 | 同 | 〃 |
| 葦火　13号 | ㈶大阪市文化財協会 | 63. 5.27 |

| 書　　名 | 寄　贈　者 | 受入日 |
|---|---|---|
| 糸井馬場第1号古墳 | 広島県立埋蔵文化財センター | 63. 5.27 |
| 備後国府跡　推定地にかかる第6次調査概報 | 同 | 〃 |
| 明宮地廃寺跡　第2次発掘調査概報 | 同 | 〃 |
| 広島県立埋蔵文化財センター年報　2 | 同 | 〃 |
| 山梨文化財研究所報　第4号 | ㈶山梨文化財研究所 | 63.5.30 |
| 秋田城跡　昭和62年度秋田城跡発掘調査概報 | 秋田城跡調査事務所 | 〃 |
| 芝公園一丁目　増上寺子院群 | 港区教育委員会 | 〃 |
| 旧芝離宮庭園 | 同 | 〃 |
| 虎ノ門五丁目　芝神谷町町屋跡遺跡 | 同 | 〃 |
| 幸田貝塚展　貝塚と暮らし | 松戸市文化ホール | 〃 |
| 市原市石川須恵器窯跡確認調査報告書 | 千葉県教育庁文化課 | 63. 5.31 |
| 古代寺院跡(宝珠院)確認調査報告 | 同 | 〃 |
| 竜角寺古墳群第101号古墳発掘調査報告書 | 同 | 〃 |
| 千葉県中近世城跡研究調査報告書　第8集 | 同 | 〃 |
| 千葉県埋蔵文化財分布地図　(4) | 同 | 〃 |
| 資料館だより　Vol.14　No.1 | 沼津市歴史民俗資料館 | 63. 6. 1 |
| 名古屋市博物館だより　62 | 名古屋市博物館 | 〃 |
| 白久台遺跡第2次発掘調査報告書 | 石岡市教育委員会 | 63. 6. 2 |
| 要害山古墳群発掘調査報告書 | 同 | 〃 |
| 若松遺跡発掘調査報告書 | 同 | 〃 |
| 豊田市郷土資料館報告　24 | 豊田市教育委員会 | 〃 |
| 豊田市文化財叢書　第十五　近世豊田の俳人 | 同 | 〃 |
| 千葉県銚子市埋蔵文化財分布地図 | 銚子市教育委員会 | 63. 6. 4 |
| 平取町二風谷小学校校庭遺跡 | 平取町教育委員会 | 63. 6. 6 |
| 平取町イルエカシ遺跡　発掘調査概報 | 同 | 〃 |
| 金大考古　第15号 | 同 | 〃 |
| 文様陶器の流れ　猿投窯　黒笹第90号窯の時代 | 同 | 〃 |
| 芝山町の歴史と文化財 | 芝山町立芝山古墳はにわ博物館 | 63. 6. 8 |
| 芝山の昔話と伝説　(町史資料) | 同 | 〃 |
| 千葉県芝山町　下吹入遺跡群 | 同 | 〃 |
| 高槻市文化財調査概要　XII | 高槻市立埋蔵文化財調査センター | 〃 |
| 伝仁徳陵と百舌鳥古墳群 | 河内考古刊行会 | 〃 |
| 河内太平寺古墳群 | 同 | 〃 |
| 浜松市博物館だよりVol. 7－1　No.22 | 浜松市博物館 | 63. 6. 9 |
| 特別展　うなぎ　1988 | 千葉県立大利根博物館 | 〃 |
| 千葉県立大利根博物館収蔵資料目録1 | 同 | 〃 |
| 下野国府跡資料集　I(木簡・漆紙文書) | 栃木県教育委員会 | 63. 6.10 |
| 同　II(墨書土器・硯) | 同 | 〃 |
| 同　III(施釉陶器) | 同 | 〃 |
| 下野国府跡木簡記録稿　I～IV | 同 | 〃 |
| 栃木県埋蔵文化財発掘調査報告　第68集 | 同 | 〃 |
| 同　第74集 | 同 | 〃 |
| 同　第82集 | 同 | 〃 |
| 同　第83集 | 同 | 〃 |

| 書　　名 | 寄　贈　者 | 受入日 |
|---|---|---|
| 栃木県埋蔵文化財発掘調査報告　第84集 | 栃木県教育委員会 | 63. 6.10 |
| 同　第85集 | 同 | 〃 |
| 同　第86集 | 同 | 〃 |
| 同　第87集 | 同 | 〃 |
| 京都府埋蔵文化財論集　第１集 | ㈶京都府埋蔵文化財調査研究センター | 63. 6.13 |
| 是川中居遺跡出土品図録　第２集 | 八戸市博物館 | 〃 |
| 青森県の貝塚 | 同 | 〃 |
| ひばり　No.10 | 北海道文化財研究所 | 〃 |
| 青山考古　第６号　1988年４月　別刷 | | |
| 写真による陶磁器の実測 | 穴沢義功 | 〃 |
| 滋賀埋文ニュース　第98号 | 滋賀県教育委員会 | 〃 |
| 京都府埋蔵文化財情報　第27号 | ㈶京都府埋蔵文化財調査研究センター | 〃 |
| 流山市埋蔵文化財調査報告　Vol. 4 | 流山市教育委員会 | 〃 |
| 同　Vol. 5 | 同 | 〃 |
| 同　Vol. 6 | 同 | 〃 |
| 千葉県立上総博物館報　第65号 | 千葉県立上総博物館 | 63. 6.15 |
| 千葉県四街道市吉岡谷津塚遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書 | 四街道市教育委員会 | 〃 |
| 長崎県文化財調査報告書　第91集 | 長崎県教育庁文化課 | 63. 6.16 |
| 神奈川県横浜市釜利谷やぐら遺跡発掘調査報告書 | 釜利谷やぐら遺跡調査団 | 〃 |
| 文化財調査出土遺物仮収納保管業務昭和62年度発掘調査概要 | ㈶滋賀県文化財保護協会 | 63. 6.17 |
| 石田団地2期工事に伴う石田三宅遺跡試掘調査概要 | 同 | 〃 |
| 南郷遺跡発掘調査報告書 | 同 | 〃 |
| 茂原市文化財センター年報　No. 2 | ㈶茂原市文化財センター | 〃 |
| 郷土の文化財　５，６ | 同 | 〃 |
| ㈶茂原市文化財センター調査報告　第３集 | 同 | 〃 |
| 同　第４集 | 同 | 〃 |
| 同　第５集 | 同 | 〃 |
| 千葉県文化財センター年報　No.12 | ㈶千葉県文化財センター | 〃 |
| 研究連絡誌　第20～22号 | 同 | 〃 |
| 千葉市浜野川遺跡群 | 同 | 〃 |
| 松戸市彦八山遺跡 | 同 | 〃 |
| 東関東自動車道埋蔵文化財調査報告書　Ⅳ | 同 | 〃 |
| 成田新住宅市街地内埋蔵文化財調査報告 | 同 | 〃 |
| 東金市久我台遺跡 | 同 | 〃 |
| 八日市場市平木遺跡 | 同 | 〃 |
| 御料牧場遺跡 | 同 | 〃 |
| 片山古墳群内Ｄ地点遺跡 | 同 | 〃 |
| 東金市・外荒遺跡発掘調査報告書 | 同 | 〃 |
| 山武町椎崎遺跡 | 同 | 〃 |
| 関宿城跡 | 同 | 〃 |
| 栃木県埋蔵文化財調査報告　第88集 | 栃木県教育委員会 | 63. 6.18 |
| わらびて　No.40 | 岩手県立埋蔵文化財センター | 〃 |
| 紀要　Ⅷ | ㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター | 〃 |
| 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書　第116集 | 同 | 〃 |

| 書　　名 | 寄　贈　者 | 受入日 |
|---|---|---|
| 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書　第117集 | ㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター | 63. 6. 18 |
| 同　第118集 | 同 | 〃 |
| 同　第119集 | 同 | 〃 |
| 同　第120集 | 同 | 〃 |
| 同　第121集 | 同 | 〃 |
| 同　第122集 | 同 | 〃 |
| 同　第126集 | 同 | 〃 |
| 長野県埋蔵文化財ニュース　No.24 | ㈶長野県埋蔵文化財センター | 〃 |
| 長野市立博物館だより　第11号 | 長野市立博物館 | 63. 6. 20 |
| 年報　昭和61年度　Vol. 5 | 同 | 〃 |
| 同志社大学校地学術調査委員会調査資料　No.20 | 同志社大学校地学術調査委員会 | 〃 |
| 同　No.21 | 同 | 〃 |
| 第126回展示最新出土品展　5 | 埼玉考古学会 | 63. 6. 21 |
| ㈶印旛郡市文化財センター年報　3 | ㈶印旛郡市文化財センター | 63. 6. 22 |
| ㈶印旛郡市文化財センター発掘調査報告書　第9集 | 同 | 〃 |
| 同　第10集 | 同 | 〃 |
| 同　第12集 | 同 | 〃 |
| 同　第13集 | 同 | 〃 |
| 同　第16集 | 同 | 〃 |
| 同　第22集 | 同 | 〃 |
| 同　第26集 | 同 | 〃 |
| 文化財教室シリーズ　94～96 | ㈶滋賀県文化財保護協会 | 〃 |
| とまこまい埋文だより　No.13 | 苫小牧市埋蔵文化財調査センター | 63. 6. 23 |
| 『井上コレクション　弥生・古墳時代資料図録』付論　抜刷　古墳出土の胡籙・靫金具 | 田中新史 | 〃 |
| アサヒグラフ　7－1．1988 | 市原市教育委員会文化課 | 63. 6. 27 |
| 茨城県教育財団文化財調査報告　第44集 | ㈶茨城県教育財団 | 63. 6. 29 |
| 同　第45集 | 同 | 〃 |
| 同　第46集 | 同 | 〃 |
| 年報　7 | 同 | 〃 |
| 柳久保遺跡群　Ⅵ | 山武考古学研究所 | 〃 |
| 桑原遺跡群発掘調査報告書 | 同 | 〃 |
| 群馬県前橋市堰越遺跡発掘調査報告書 | 同 | 〃 |
| 専光寺付近遺跡　昭和62年度発掘調査概報 | 同 | 〃 |
| 浦和市立郷土博物館研究調査報告書　第15集 | 浦和市立郷土博物館 | 〃 |
| 浦和市立郷土博物館館報　第32号 | 同 | 〃 |
| 考古資料図録　Ⅲ | 横須賀市自然人文博物館 | 〃 |
| 茂原市文化財センター年報No. 2 | ㈶茂原市文化財センター | 63. 6. 30 |
| 郷土の文化財　5，6 | 同 | 〃 |
| 東京大学総合研究資料館ニュース　13号 | 東京大学総合研究資料館 | 〃 |
| 柴又河川敷遺跡 | 葛飾区教育委員会 | 〃 |
| 千葉県立房総風土記の丘年報　11 | 千葉県立房総風土記の丘 | 63. 7. 1 |
| 千葉県立房総風土記の丘だより　第15号 | 同 | 〃 |
| 別府大学付属博物館だより　No.30 | 別府大学付属博物館 | 〃 |

| 書　　名 | 寄　贈　者 | 受入日 |
|---|---|---|
| 鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報　Ⅲ | 鹿児島大学埋蔵文化財調査室 | 63. 7. 1 |
| 郡山市文化財研究紀要　第4号 | 郡山市教育委員会 | 〃 |
| 郡山東部　7 | 同 | 〃 |
| 同　8 | 同 | 〃 |
| 中山太田遺跡発掘調査概報 | 同 | 〃 |
| 郡山東部ニュータウン関連発掘調査報告書　1 | 同 | 〃 |
| 同　2 | 同 | 〃 |
| 同　3 | 同 | 〃 |
| 郡山カルチャーパーク関連報告　第1集 | 同 | 〃 |
| 同　第2集 | 同 | 〃 |
| 清水台遺跡　第10次A地点発掘調査概報 | 同 | 〃 |
| 同　第10次B地点発掘調査概報 | 同 | 〃 |
| 同　第11次A地点発掘調査概報 | 同 | 〃 |
| 同　第11次B地点発掘調査概報 | 同 | 〃 |
| 同　第11次C地点発掘調査概報 | 同 | 〃 |
| 同　第11次D地点発掘調査概報 | 同 | 〃 |
| 中山地区土地改良共同施行事業関連発掘調査報告書　2 | 同 | 〃 |
| 大根畑遺跡 | 同 | 〃 |
| 調布市郷土博物館だより　No.28 | 調布市郷土博物館 | 63. 7. 2 |
| 古墳時代研究　Ⅱ | 田中新史 | 63. 7. 4 |
| 七美・太閤山・高岡線内遺跡群発掘調査概要(6) | 富山県埋蔵文化財センター | 63. 7. 6 |
| 第5回企画展　縄文時代の装身具 | 松本市立考古博物館 | 〃 |
| 感想集　松本市立考古博物館の雑記帳から | 同 | 〃 |
| 千葉県市原市埋蔵文化財分布地図　北部編 | 市原市教育委員会文化課 | 63. 7. 8 |
| 滋賀埋文ニュース　第99号 | 滋賀県教育委員会 | 〃 |
| 第20回企画展　時と太陽の物語 | 長野市立博物館 | 〃 |
| 姉妹都市3周年記念特別展　第二のふるさと木島平への招待 | 調布市郷土博物館 | 〃 |
| 財団法人愛知県埋蔵文化財センター年報　昭和62年度 | (財)愛知県埋蔵文化財センター | 〃 |
| 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書　第3集 | 同 | 〃 |
| 同　第4集 | 同 | 〃 |
| 同　第5集 | 同 | 〃 |
| 愛知県埋蔵文化財情報　3 | 同 | 〃 |
| 千葉県長南町埋蔵文化財分布地図 | 長南町教育委員会 | 〃 |
| わがふるさと長南 | 同 | 〃 |
| 歴博　第29号 | 国立歴史民俗博物館 | 〃 |
| 高松町中沼C遺跡 | 高松町教育委員会 | 63. 7. 11 |
| 京都府遺跡調査概報　第27冊 | (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター | 〃 |
| 同　第28冊 | 同 | 〃 |
| 八王子市郷土資料館だより　No.33 | 八王子市郷土資料館 | 〃 |
| 八王子千人同心史編集ニュース　No.3 | 同 | 〃 |
| 解説シート　No.2，3 | 同 | 〃 |
| 特別展　縫う　針の周辺 | 同 | 〃 |
| 埋文とやま　第23号 | 富山県埋蔵文化財センター | 63. 7. 13 |
| ひろしまの遺跡　第33号 | (財)広島県埋蔵文化財調査センター | 〃 |

| 書　　名 | 寄　贈　者 | 受入日 |
|---|---|---|
| 古代史復元２　縄文人の生活と文化 | (株)講談社 | 63. 7.14 |
| 同 | 市原市教育委員会文化課 | 〃 |
| 高尾田遺跡　Ⅱ | ㈶愛媛県埋蔵文化財調査センター | 〃 |
| 上三谷古墳群　Ⅱ | 同 | 〃 |
| 葦火　14号 | ㈶大阪市文化財協会 | 63. 7.15 |
| 京都府埋蔵文化財情報　第28号 | ㈶京都府埋蔵文化財調査研究センター | 63. 7.16 |
| 特別展　日本のあけぼの | 田中英司 | 63. 7.18 |
| 豊中市埋蔵文化財発掘調査概要　1987年度 | 豊中市教育委員会 | 〃 |
| 野畑春日町遺跡　第１次調査報告書 | 同 | 〃 |
| 同　　第2次調査報告書 | 同 | 〃 |
| 蛍ヶ池西遺跡 | 同 | 〃 |
| 新免遺跡　第23次発掘調査概報 | 同 | 〃 |
| 文化財ニュース豊中　No.9 | 同 | 〃 |
| 索引政治經濟大年表 | 近藤　敏 | 63. 7.19 |
| 財団法人山武郡南部地区文化財センター年報　No.3 | ㈶山武郡南部地区文化財センター | 63. 7.20 |
| 浜松市博物館だより　Vol.７－２　No.23 | 浜松市博物館 | 〃 |
| 埋蔵文化財愛知　No.13 | ㈶愛媛県埋蔵文化財センター | 63. 7.21 |
| 埋蔵文化財調査研究報告　Ⅱ | 宮崎県総合博物館埋蔵文化財センター | 〃 |
| 慶應義塾藤沢校地内遺跡発掘調査報告　1 | 慶應義塾埋蔵文化財調査室 | 63. 7.22 |
| 一宮市博物館博物館だより　No.3 | 一宮市博物館 | 63. 7.25 |
| 小山市立博物館博物館だより　1988.8 | 小山市立博物館 | 〃 |
| 天理市埋蔵文化財調査概報　昭和61・62年度 | 天理市教育委員会 | 〃 |
| 天理市平等坊・岩室遺跡発掘調査概報 | 同 | 〃 |
| 関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書 第20集 | ㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団 | 〃 |
| 同　　第21集 | 同 | 〃 |
| 同　　第22集 | 同 | 〃 |
| 国分寺市文化財調査報告　第22集 | 国分寺市教育委員会 | 63. 7.27 |
| 同　　第23集 | 同 | 〃 |
| 恋ヶ窪南遺跡発掘調査概報　Ⅰ | 同 | 〃 |
| 東京都国分寺市恋ヶ窪遺跡調査報告　Ⅳ | 同 | 〃 |
| 草戸千軒町遺跡　第35・36次発掘調査概要 | 広島県草戸千軒町遺跡調査研究所 | 〃 |
| 滋賀埋文ニュース　第100号 | 滋賀県教育委員会 | 63. 7.30 |
| 名古屋市博物館だより　63 | 名古屋市博物館 | 63. 8. 1 |
| 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書　第123集 | ㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター | 〃 |
| 同　　第124集 | 同 | 〃 |
| 考古遺物資料集　第８集 | 同 | 〃 |
| 甦る埋蔵文化財　埋蔵文化財センター10年のあゆみ | 同 | 〃 |
| 神奈川県厚木市中依知遺跡 | 縄文文化研究会 | 63. 8. 3 |
| 縄文文化研究会研究紀要　第６集 | 同 | 〃 |
| 歴史いまむかし | 長南町役場 | 63. 8. 4 |
| 鳥取埋文ニュース　No.21 | 鳥取県埋蔵文化財センター | 63. 8. 5 |
| 四街道市の文化財　14号 | 四街道市教育委員会 | 〃 |
| 枚方市文化財年報　Ⅷ | ㈶枚方市文化財研究調査会 | 〃 |
| 北九州の中国陶磁 | 北九州市立考古博物館 | 〃 |

| 書　　名 | 寄　贈　者 | 受入日 |
|---|---|---|
| 上越新幹線関係埋蔵文化財発掘調査報告　第10集 | (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 | 63. 8. 6 |
| 古代窯業の実験研究(1) | 日本窯業史研究所 | 63. 8. 8 |
| 栃木県高根沢町上の原遺跡 | 同 | 〃 |
| 下野古代文字瓦譜 | 同 | 〃 |
| 茨城県土浦市永国遺跡 | 同 | 〃 |
| 神奈川県川崎市細山代官山遺跡 | 同 | 〃 |
| 栃木県小川町浄法寺遺跡発掘調査概報 | 同 | 〃 |
| 栃木県小川町大森遺跡・谷田1号墳 | 同 | 〃 |
| 神奈川県横浜市宮沢遺跡 | 同 | 〃 |
| 神奈川県横浜市観福寺裏遺跡 | 同 | 〃 |
| 川崎市麻生区山口台遺跡群 | 同 | 〃 |
| 栃木県上三川町西赤堀狐塚古墳 | 同 | 〃 |
| 栃木県馬頭町北向田7号墳 | 同 | 〃 |
| 神奈川県平塚市御所ヶ谷遺跡 | 同 | 〃 |
| 長野市松代屋地遺跡 | 同 | 〃 |
| 神奈川県横浜市市ヶ尾・川和地区内遺跡群 | 同 | 〃 |
| 茨城県内原町杉崎コロニー古墳群 | 同 | 〃 |
| 栃木県佐野市蓮沼3号墳 | 同 | 〃 |
| 栃木県喜連川町三菱自工自動車試験場内遺跡 | 同 | 〃 |
| 考古学研究室報告　甲種第2冊 | 国士館大学文学部考古学研究室 | 〃 |
| 同　　甲種第3冊 | 同 | 〃 |
| 同　　甲種第4冊 | 同 | 〃 |
| 長野市の埋蔵文化財　第26集 | 長野市埋蔵文化財センター | 63. 8. 13 |
| 同　　第27集 | 同 | 〃 |
| 同　　第29集 | 同 | 〃 |
| 同　　第30集 | 同 | 〃 |
| 同　　第31集 | 同 | 〃 |
| 名古屋市博物館研究紀要　第11巻 | 名古屋市博物館 | 〃 |
| 佐原市内遺跡群発掘調査概報　Ⅱ | 佐原市教育委員会 | 63. 8. 15 |
| 今治市埋蔵文化財調査報告書　第11集 | 今治市教育委員会 | 63. 8. 17 |
| 東京・太陽の丘遺跡 | 八王子市教育委員会 | 〃 |
| 奈良国立文化財研究所年報　1987 | 奈良国立文化財研究所 | 63. 8. 19 |
| 宇治遺跡群　Ⅰ | 宇治市教育委員会 | 〃 |
| 向日市埋蔵文化財調査報告書　第22集 | 向日市教育委員会 | 〃 |
| (財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書　2 | (財)長野県埋蔵文化財センター | 63. 8. 20 |
| 石川れきはく　第8号 | 石川県立歴史博物館 | 〃 |
| 一向一揆 | 同 | 〃 |
| 石川県立歴史博物館紀要　1 | 同 | 〃 |
| 沼津市歴史民俗資料館資料集　4 | 沼津市歴史民俗資料館 | 〃 |
| 同　　6 | 同 | 〃 |
| 駿河国とその周辺 | 同 | 〃 |
| 資料館だより　Vol.14　No.2 | 同 | 〃 |
| 飛鳥・藤原宮発掘調査概報　18 | 奈良国立文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部 | 63. 8. 24 |
| 北海道埋蔵文化財センター調査報告　44 | (財)北海道埋蔵文化財センター | 63. 8. 25 |

| 書　　名 | 寄　贈　者 | 受入日 |
|---|---|---|
| 北海道埋蔵文化財センター調査報告　45 | (財)北海道埋蔵文化財センター | 63. 8.25 |
| 同　46 | 同 | 〃 |
| 同　47 | 同 | 〃 |
| 同　48 | 同 | 〃 |
| 同　49 | 同 | 〃 |
| 同　50 | 同 | 〃 |
| 同　51 | 同 | 〃 |
| 同　52 | 同 | 〃 |
| 浦和市遺跡調査会報告書　第86集 | 浦和市遺跡調査会 | 〃 |
| 同　第87集 | 同 | 〃 |
| 同　第88集 | 同 | 〃 |
| 同　第89集 | 同 | 〃 |
| 同　第90集 | 同 | 〃 |
| 同　第92集 | 同 | 〃 |
| 同　第93集 | 同 | 〃 |
| 同　第94集 | 同 | 〃 |
| 同　第95集 | 同 | 〃 |
| 同　第96集 | 同 | 〃 |
| 同　第97集 | 同 | 〃 |
| 同　第102集 | 同 | 〃 |
| 同　第103集 | 同 | 〃 |
| 鴻巣市文化財調査報告　第４集 | 鴻巣市教育委員会 | 63. 8.26 |
| 鴻巣市遺跡調査会報告書　第６集 | 同 | 〃 |
| 泉南市文化財調査報告書　第十五集 | 泉南市教育委員会 | 〃 |
| 広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書　第66集 | (財)広島県埋蔵文化財調査センター | 63. 8.29 |
| 同　第67集 | 同 | 〃 |
| 同　第68集 | 同 | 〃 |
| 同　第69集 | 同 | 〃 |
| 同　第70集 | 同 | 〃 |
| 同　第71集 | 同 | 〃 |
| 同　第72集 | 同 | 〃 |
| 同　第73集 | 同 | 〃 |
| 賀茂学園都市開発整備事業地(西高屋地区)内遺跡群　Ⅲ | 同 | 〃 |
| 年報　Ⅲ | 同 | 〃 |
| 史跡毛利氏城跡 | 吉田町教育委員会 | 〃 |
| 総南博物館報　第37号 | 千葉県立総南博物館 | 〃 |
| 尼崎市史　第十一巻 | 尼崎市立地域研究史料館 | 〃 |
| 帝京大学山梨文化財研究所報　第５号 | 帝京大学山梨文化財研究所 | 〃 |
| 山梨県北巨摩郡武川村宮間田遺跡 | 同 | 〃 |
| 滋賀文化財だより　№125～127 | (財)滋賀県文化財保護協会 | 〃 |
| 紀要　第１号 | 同 | 〃 |
| 小山市立博物館報　第５号 | 小山市立博物館 | 63. 9. 1 |
| 開館5周年記念特別展　縄文の漆工芸 | 八戸市博物館 | 〃 |
| 東京都町田市本町田向上遺跡調査報告書 | 町田市教育委員会 | 〃 |

| 書　　名 | 寄　贈　者 | 受入日 |
|---|---|---|
| 研究所報　No.14～16 | ㈶静岡県埋蔵文化財調査研究所 | 63. 9. 1 |
| 川合遺跡 | 同 | 〃 |
| 瀬名遺跡 | 同 | 〃 |
| 長崎遺跡 | 同 | 〃 |
| 八王子市埋蔵文化財年報　昭和62年度 | 八王子市教育委員会 | 63. 9. 5 |
| 滋賀埋文ニュース　第101号 | 滋賀県教育委員会 | 〃 |
| なりた　No.43 | 成田山霊光館 | 63. 9. 7 |
| 鹿島町の文化財　第50集 | 鹿島町教育委員会 | 63. 9. 8 |
| 同　第53集 | 同 | 〃 |
| 同　第54集 | 同 | 〃 |
| 同　第60集 | 同 | 〃 |
| 葦火　15号 | ㈶大阪市文化財協会 | 63. 9.12 |
| わらびて　No.41 | 岩手県立埋蔵文化財センター | 〃 |
| 九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査概報　第10集 | 佐賀県教育委員会 | 〃 |
| 九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書(8) | 同 | 〃 |
| 埋蔵文化財ニュース　62 | 奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター | 〃 |
| 津山郷土博物館 | 津山郷土博物館 | 〃 |
| 北九州市埋蔵文化財調査報告書　第66集 | ㈶北九州市教育文化事業団 | 63. 9.16 |
| 同　第67集 | 同 | 〃 |
| 同　第68集 | 同 | 〃 |
| 同　第69集 | 同 | 〃 |
| 同　第70集 | 同 | 〃 |
| 同　第71集 | 同 | 〃 |
| 同　第72集 | 同 | 〃 |
| 同　第73集 | 同 | 〃 |
| 同　第75集 | 同 | 〃 |
| 埋蔵文化財調査室年報　4 | 同 | 〃 |
| 研究紀要　第2号 | 同 | 〃 |
| 江戸遺跡研究会会報　No.15 | 江戸遺跡研究会 | 63. 9.19 |
| 福井県教育庁埋蔵文化財センター所報　2 | 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター | 〃 |
| 東京都町田市真光寺・広袴遺跡群　Ⅱ | 鶴川第二地区遺跡調査会 | 〃 |
| 山陰地域研究　伝統文化　第4号 | 島根大学附属図書館 | 63. 9.21 |
| 東京大学総合研究資料館ニュース　14号 | 東京大学総合研究資料 | 63. 9.24 |
| 昭和61年度市立市川考古博物館年報 | 市立市川考古博物館 | 〃 |
| 市立市川考古博物館研究調査報告　第4冊 | 同 | 〃 |
| 市川の縄文土器　Ⅱ　収蔵の後・晩期土器 | 同 | 〃 |
| 法政大学多摩校地遺跡群　Ⅲ　C・R地区 | 法政大学多摩校地遺跡調査団 | 〃 |
| とまこまい埋文だより　No.14 | 苫小牧市埋蔵文化財調査センター | 63. 9.26 |
| 弁天貝塚　Ⅱ | 苫小牧市教育委員会 | 〃 |
| ㈶大阪府埋蔵文化財協会調査報告書　第7輯 | ㈶大阪府埋蔵文化財協会 | 〃 |
| 同　第8輯 | 同 | 〃 |
| 同　第10輯 | 同 | 〃 |
| 同　第11輯 | 同 | 〃 |
| 同　第12輯 | 同 | 〃 |

| 書　　名 | 寄　贈　者 | 受入日 |
|---|---|---|
| ㈶大阪府埋蔵文化財協会調査報告書　第13輯 | ㈶大阪府埋蔵文化財協会 | 63. 9.26 |
| 同　第14輯 | 同 | 〃 |
| 弥生・古墳時代の大陸系土器の諸問題　第Ⅰ分冊 | 同 | 〃 |
| 同　第Ⅱ分冊 | 同 | 〃 |
| 同　第Ⅲ分冊 | 同 | 〃 |
| 山直郷とその周辺 | 同 | 〃 |
| 現地説明会資料　12 | 同 | 〃 |
| 同　13 | 同 | 〃 |
| 同　14 | 同 | 〃 |
| 同　15 | 同 | 〃 |
| 同　16 | 同 | 〃 |
| 文化財展示室だより　No.22 | 同 | 〃 |
| 第3回泉州の遺跡　昭和62年度発掘調査成果展 | 同 | 〃 |
| 資料館だより　Vol.14　No.3 | 沼津市歴史民俗資料館 | 63. 9.28 |
| 野田市文化財抄報　7 | 野田市郷土博物館 | 63. 9.29 |
| 長岡京市埋蔵文化財センター年報　昭和61年度 | ㈶長岡京市埋蔵文化財センター | 63. 9.30 |
| 長岡京市文化財調査報告書　第19冊 | 長岡京市教育委員会 | 〃 |
| 同　第20冊 | 同 | 〃 |
| 茨城県立歴史館だより　No.44, 45 | 茨城県立歴史館 | 〃 |
| 原始、古代人の顔 | 安城市教育委員会 | 63.10. 1 |
| 文化財企画展　安城中世の武将・僧侶の顔, 日本の雑穀文化 | 同 | 〃 |
| 名古屋市博物館だより　64 | 名古屋市博物館 | 63.10. 3 |
| 滋賀埋文ニュース　第102号 | 滋賀県教育委員会 | 〃 |
| 第6回企画展　収蔵品展　中山古墳群の出土品を中心として | 松本市立考古博物館 | 63.10. 4 |
| 「王賜」銘鉄剣概報 | 吉川弘文館 | 63.10. 5 |
| 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第59集 | ㈶埼玉県埋蔵文化財調査事業団 | 〃 |
| 同　第68集 | 同 | 〃 |
| 同　第69集 | 同 | 〃 |
| 同　第70集 | 同 | 〃 |
| 同　第71集 | 同 | 〃 |
| 同　第72集 | 同 | 〃 |
| 研究紀要　第4号 | 同 | 〃 |
| 年報　8 | 同 | 〃 |
| 大分市歴史資料館ニュース　No.2 | 大分市歴史資料館 | 〃 |
| 第2回特別展　人々の祈りと願い　絵馬 | 同 | 〃 |
| 化粧具の歴史　鏡を中心にして | 同 | 〃 |
| 丸山遺跡発掘調査報告書 | 新潟大学考古学研究室 | 63.10. 6 |
| 調布市郷土博物館だより　No.29 | 調布市郷土博物館 | 〃 |
| 調布の文化財　第4号 | 同 | 〃 |
| 絵馬展　祈りとかたち | 同 | 〃 |
| 上越新幹線関係埋蔵文化財発掘調査報告書　第8集 | ㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団 | 〃 |
| 文化財學報　第五集　井上薫先生送別記念論集 | 奈良大学文学部考古学研究室 | 63.10. 7 |
| 八王子市郷土資料館だより　No.34 | 八王子市郷土資料館 | 〃 |
| 古代東国の王者　三ツ寺居館とその時代 | ㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団 | 〃 |

| 書　　名 | 寄　贈　者 | 受入日 |
|---|---|---|
| いわき市埋蔵文化財調査報告　第20冊 | いわき市教育委員会 | 63. 10. 11 |
| 同　　第21冊 | 同 | 〃 |
| 長野市立博物館だより　第12号 | 長野市立博物館 | 〃 |
| 第21回企画展　信玄と謙信　川中島の合戦とその周辺 | 同 | 〃 |
| 平安京跡研究調査報告　第18輯 | ㈶古代學協會 | 〃 |
| 古墳時代の夜明け | 田中新史 | 〃 |
| 大分市歴史資料館ニュース　No. 3 | 大分市歴史資料館 | 63. 10. 12 |
| 土器が語る文化交流 | 安城市教育委員会 | 63. 10. 14 |
| 企画展　袖ヶ浦の古代史を探る | 袖ヶ浦町郷土博物館 | 〃 |
| 浜松市博物館だより　Vol. 7 － 3　No.24 | 浜松市博物館 | 63. 10. 17 |
| 下野・大和久古墳群 | 立正大学考古学研究室 | 〃 |
| 江戸・仙台坂遺跡（Ⅰ） | 同 | 〃 |
| 考古学研究室彙報　第24号 | 同 | 〃 |
| 東京都埋蔵文化財センター研究論集Ⅵ | ㈶東京都教育文化財団東京都埋蔵文化財センター | 63. 10. 18 |
| 資料目録　2 | 同 | 〃 |
| 東京都埋蔵文化財センター調査報告　第９集 | 同 | 〃 |
| 多摩ニュータウンNo.57遺跡 | 同 | 〃 |
| 古代東国ロマン「王賜」銘鉄剣 | 千葉日報社 | 63. 10. 19 |
| 埋蔵文化財愛知　No.14 | ㈶愛知県埋蔵文化財センター | 63. 10. 20 |
| 大鼻遺跡第四次発掘調査現地説明会資料 | 三重県教育委員会 | 〃 |
| かながわの遺跡展　東国の古墳文化 | 神奈川県立埋蔵文化財センター | 〃 |
| ひろしまの遺跡　第34号 | ㈶広島県埋蔵文化財調査センター | 63. 10. 21 |
| 昭和63年度企画展　房総の弥生文化解説会資料 | 山口直樹 | 〃 |
| 千葉県立房総風土記の丘だより　第１～３号 | 同 | 〃 |
| 同　　第５，６号 | 同 | 〃 |
| 同　　第８～12号 | 同 | 〃 |
| 印波　房総風土記の丘友の会会報　No. 1 ～ 4 | 同 | 〃 |
| 同　　No. 7，11 | 同 | 〃 |
| 同　　No.14～17 | 同 | 〃 |
| 同　　No.23 | 同 | 〃 |
| 竜角寺古墳群のはにわ　第101号古墳発掘の成果 | 同 | 〃 |
| ＭＵＳＥＵＭちば　千葉県博物館協会機関誌　第４号 | 同 | 〃 |
| 同　　第19号 | 同 | 〃 |
| 特別展　人形と仮面 | 同 | 〃 |
| 国分寺　歴史と再現 | 大分市歴史資料館 | 63. 10. 22 |
| かみしき　30 | 下総史料館 | 63. 10. 24 |
| 大田区立郷土博物館だより　第19号 | 大田区立郷土博物館 | 〃 |
| 鷹狩り　歴史と美術 | 同 | 〃 |
| 後川・中筋川埋蔵文化財発掘調査報告書　Ⅰ | 高知県教育委員会 | 〃 |
| 高知県遺跡地図　幡多ブロック | 同 | 〃 |
| 土佐国衙跡発掘調査報告書　第8集 | 同 | 〃 |
| 岡豊城跡発掘調査概報　第１～３次調査概要報告書 | 同 | 〃 |
| 葦火　16号 | ㈶大阪市文化財協会 | 63. 10. 25 |
| 神奈川県立埋蔵文化財センター年報　7 | 神奈川県立埋蔵文化財センター | 〃 |

| 書　　名 | 寄　贈　者 | 受入日 |
|---|---|---|
| 相模原市新戸遺跡調査の概要 | 神奈川県立埋蔵文化財センター | 63.10.25 |
| 神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告　17 | 同 | 〃 |
| 石川れきはく　第9号 | 石川県立歴史博物館 | 63.10.26 |
| 特別展　川口川流域の歴史と文化 | 八王子市郷土資料館 | 63.10.27 |
| 同志社大学考古学シリーズ　Ⅳ　考古学と技術 | 同志社大学考古学研究室 | 〃 |
| 福岡市埋蔵文化財センター年報　第７号 | 福岡市埋蔵文化財センター | 63.10.28 |
| 鉄　古代近江の製鉄コンビナート | ㈶滋賀県文化財保護協会 | 〃 |
| 前方後円墳の時代 | 栃木県立しもつけ風土記の丘資料館 | 63.10.31 |
| 神奈川県大和市　台山遺跡発掘調査報告書 | 玉川文化財研究所 | 〃 |
| 府中市埋蔵文化財調査報告　第８集 | 府中市教育委員会 | 〃 |
| 同　　第10集 | 同 | 〃 |
| 貝塚博物館紀要　第15号 | 千葉市立加曽利貝塚博物館 | 〃 |
| 千葉市立加曽利貝塚博物館開館20周年記念特別講座講演集 | 同 | 〃 |
| 激動を生きた代官の妻 | 世田谷区立郷土資料館 | 〃 |
| 総南博物館報　第38号 | 千葉県立総南博物館 | 63.11.1 |
| ㈶元興寺文化財研究所通信　No.30 | ㈶元興寺文化財研究所 | 63.11.4 |
| 考古展　第7回小さな展覧会 | ㈶京都府埋蔵文化財調査研究センター | 63.11.5 |
| 京都府埋蔵文化財情報　第29号 | 同 | 〃 |
| 埋文とやま　第24号 | 富山県埋蔵文化財センター | 63.11.7 |
| 江戸遺跡研究会会報　No.16 | 江戸遺跡研究会 | 〃 |
| 千葉県立上総博物館報　第66号 | 千葉県立上総博物館 | 63.11.9 |
| 千葉市文化財マップ | 千葉市教育委員会 | 63.11.10 |
| 生実城址現地説明会資料 | ㈶千葉市文化財調査協会 | 〃 |
| 長岡京市埋蔵文化財発掘調査報告書　第３集 | ㈶長岡京市埋蔵文化財センター | 〃 |
| 長岡京市文化財調査報告書　第21冊 | 長岡京市教育委員会 | 〃 |
| 上越新幹線関係埋蔵文化財発掘調査報告　第９集 | ㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団 | 63.11.11 |
| 滋賀埋文ニュース　第103号 | 滋賀県教育委員会 | 63.11.14 |
| 酒田市埋蔵文化財調査報告書　第１集 | 酒田市教育委員会 | 〃 |
| 愛知県陶磁資料館所蔵品図録　1988 | 愛知県陶磁資料館 | 〃 |
| 倉敷考古館研究集報　第20号 | ㈶倉敷考古館 | 〃 |
| 岩舟町埋蔵文化財調査報告書　第２集 | 岩舟町教育委員会 | 〃 |
| 千葉県市原市埋蔵文化財分布地図　北部編 | 市原市教育委員会 | 63.11.16 |
| 昭和63年度企画展　房総の弥生文化 | 千葉県立房総風土記の丘 | 〃 |
| 昭和63年度企画展　房総の弥生文化解説会資料 | 同 | 〃 |
| シンポジウム「房総の弥生文化」 | 同 | 〃 |
| 神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告　18 | 神奈川県立埋蔵文化財センター | 63.11.19 |
| 尼崎市文化財調査報告　第20集 | 尼崎市教育委員会 | 63.11.21 |
| 古代の美とロマンをもとめて　日本列島発掘展 | 「日本列島発掘展」企画実行委員会事務局 | 63.11.22 |
| 昭和60年度神戸市埋蔵文化財年報 | 神戸市教育委員会 | 63.11.24 |
| 昭和62年度遺跡現地説明会資料 | 同 | 〃 |
| 繁田古窯址発掘調査報告書 | 同 | 〃 |
| 地下に眠る神戸の歴史展　Ⅵ | 同 | 〃 |
| 京都府遺跡調査報告書　第9冊 | ㈶京都府埋蔵文化財調査研究センター | 63.11.25 |
| 京都府遺跡調査概報　第29冊 | 同 | 〃 |

| 書　　名 | 寄　贈　者 | 受入日 |
|---|---|---|
| 京都府遺跡調査概報　第30冊 | ㈶京都府埋蔵文化財調査研究センター | 63.11.25 |
| 古代史復元3　縄文人の道具 | (株)講談社 | 〃 |
| 東邦考古　13 | 東邦大学付属東邦高等学校考古学研究会 | 63.11.28 |
| 世田谷区立郷土資料館　資料館だより | 世田谷区立郷土資料館 | 〃 |
| 葛西城址 | 葛飾区遺跡調査会 | 〃 |
| 山口大学人文学部考古学研究室研究報告　第5集 | 山口大学人文学部考古学研究室 | 〃 |
| 港郷土資料館館報　6 | 港区教育委員会 | 63.11.29 |
| 港郷土資料館だより　第13号 | 同 | 〃 |
| 名古屋市博物館だより　65 | 名古屋市博物館 | 63.11.30 |
| おおとねVol.10　No.1，2 | 千葉県立大利根博物館 | 〃 |
| 年報　2 | 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター | 63.12.1 |
| 埋蔵文化財ニュース　63 | 奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター | 〃 |
| 特別展　日本陶磁絵巻　やきものに刻まれた絵画 | ㈶五島美術館 | 63.12.2 |
| 特別展　日本の考古学　その歩みと成果 | 東京国立博物館 | 〃 |
| 学校教育に生きる博物館活動を目指して | 小山市立博物館 | 〃 |
| 白井町石造物調査報告書　第三集 | 白井町教育委員会 | 〃 |
| 昭和63年度千葉県遺跡調査研究発表会発表要旨 | 千葉県文化財法人連絡協議会 | 63.12.5 |
| 滋賀埋文ニュース　第104号 | 滋賀県教育委員会 | 〃 |
| 帝京大学山梨文化財研究所報　第6号 | 帝京大学山梨文化財研究所 | 〃 |
| 開館一周年記念特別展　一宮の名宝(Ⅱ) | 一宮市博物館 | 〃 |
| 有隣舎をめぐる人々　生誕百七十年記念森春濤とゆかりの詩人展 | 同 | 〃 |
| 枚方の遺跡 | ㈶枚方市文化財研究調査会 | 〃 |
| 10年のあゆみ | 同 | 〃 |
| 資料館だより　Vol.14　No.4 | 沼津市歴史民俗資料館 | 63.12.12 |
| 昭和59・60年度高槻市文化財年報 | 高槻市教育委員会 | 63.12.14 |
| わらびて　No.42 | 岩手県立埋蔵文化財センター | 63.12.15 |
| 宮平遺跡現地説明会資料 | 石岡市教育委員会 | 〃 |
| 福島県文化財調査報告書　第186集 | ㈶福島県文化センター | 〃 |
| 同　第187集 | 同 | 〃 |
| 同　第188集 | 同 | 〃 |
| 同　第189集 | 同 | 〃 |
| 同　第190集 | 同 | 〃 |
| 同　第191集 | 同 | 〃 |
| 同　第192集 | 同 | 〃 |
| 同　第193集 | 同 | 〃 |
| 同　第194集 | 同 | 〃 |
| 同　第196集 | 同 | 〃 |
| 県営かんがい排水事業関連遺跡発掘調査報告書　V | ㈶滋賀県文化財保護協会 | 63.12.19 |
| 北陸自動車道関連遺跡発掘調査報告書X | 同 | 〃 |
| 県立守山高校屋内運動場増築に伴う金森東遺跡発掘調査報告書 | 同 | 〃 |
| 県道西明寺水口線道路改良第一種工事に伴う | 同 | 〃 |
| 蓮台遺跡発掘調査報告書 | 同 | 〃 |
| 草津川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報　3 | 同 | 〃 |
| 近江国庁周辺遺跡調査概要　I | 同 | 〃 |

| 書　　名 | 寄　贈　者 | 受入日 |
|---|---|---|
| 横尾山古墳群発掘調査報告書 | ㈶滋賀県文化財保護協会 | 63.12.19 |
| 宇曽川災害復旧助成事業に伴う肥田城遺跡発掘調査報告書 | 同 | 〃 |
| 県道片岡栗東線特殊改良第1種工事に伴う芦浦遺跡発掘調査報告書 | 同 | 〃 |
| ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書　Ⅵ－2 | 同 | 〃 |
| 同　Ⅳ－1 | 同 | 〃 |
| 同　Ⅳ－2 | 同 | 〃 |
| 文化財教室シリーズ　97～100 | 同 | 〃 |
| 滋賀文化財だより　No.128～132 | 同 | 〃 |
| 滋賀県文化財目録　昭和63年度追録 | 同 | 〃 |
| 千葉県佐倉市中近成城跡測量調査報告書 | 佐倉市教育委員会 | 63.12.20 |
| 古市古墳群　藤井寺の遺跡ガイドブックNo.1 | 浅利幸一 | 63.12.23 |
| 律令期祭祀遺物集成 | 律令祭祀研究会 | 〃 |
| 葦火　17号 | ㈶大阪市文化財協会 | 〃 |
| とまこまい埋文だより　No.15 | 苫小牧市埋蔵文化財調査センター | 〃 |
| 京都大學文學部博物館図録 | 京都大学文学部考古学研究室 | 63.12.26 |
| 久留里城址資料館年報　9 | 君津市立久留里城址資料館 | 〃 |
| 石川県石川郡河内村福岡遺跡 | 河内村教育委員会 | 〃 |
| 向原遺跡 | 土浦市教育委員会 | 〃 |
| 茨城県土浦市烏山遺跡 | 同 | 〃 |
| ひろしまの遺跡　第35号 | ㈶広島県埋蔵文化財調査センター | 64. 1. 4 |
| 平安京跡発掘調査概報 | ㈶京都市埋蔵文化財研究所 | 1. 1. 9 |
| 中臣遺跡発掘調査概報 | 同 | 〃 |
| 鳥羽離宮跡発掘調査概報 | 同 | 〃 |
| 下鳥羽遺跡発掘調査概報 | 同 | 〃 |
| 大藪遺跡発掘調査概報 | 同 | 〃 |
| 京都市内遺跡試掘立会調査概報 | 同 | 〃 |
| 滋賀埋文ニュース　第105号 | 滋賀県教育委員会 | 1. 1.10 |
| 一宮市博物館博物館だより　No.4 | 一宮市博物館 | 1. 1.12 |
| 関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第23集 | ㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団 | 1. 1.13 |
| 京都府遺跡調査報告書　第10冊 | ㈶京都府埋蔵文化財調査研究センター | 1. 1.14 |
| 江戸遺跡研究会会報　No.17 | 江戸遺跡研究会 | 1. 1.17 |
| 茨城県立歴史館だより　No.46 | 茨城県立歴史館 | 1. 1.20 |
| 東京大学総合研究資料館ニュース　15号 | 東京大学総合研究資料館 | 1. 1.23 |
| 浦和市立郷土博物館館報　第33号 | 浦和市立郷土博物館 | 1. 1.25 |
| 志那湖底遺跡試掘調査報告書 | ㈶滋賀県文化財保護協会 | 1. 1.26 |
| 敏満寺遺跡発掘調査報告書 | 同 | 〃 |
| 研究連絡誌　第19号～23号 | 加藤正信 | 1. 1.27 |
| 斑鳩藤ノ木古墳 | 鈴木正子 | 〃 |
| 神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告　19 | 神奈川県立埋蔵文化財センター | 〃 |
| 横浜市金沢文庫遺跡調査の概要 | 同 | 〃 |
| 三重県斎宮跡調査事務所年報　1987 | 三重県斎宮跡調査事務所 | 1. 1.28 |
| 東アジアの古代文化　1989.冬　58号 | 田中新史 | 〃 |
| 群馬町埋蔵文化財調査報告　第21集 | 群馬町教育委員会 | 1. 1.30 |

| 書　　名 | 寄　贈　者 | 受入日 |
|---|---|---|
| 群馬町埋蔵文化財調査報告　第22集 | 群馬町教育委員会 | 1. 1.30 |
| 同　　第23集 | 同 | 〃 |
| 古代史復元８　古代の宮殿と寺院 | (株)講談社 | 1. 1.31 |
| 特集文化財科学の最近の話題と展望 | | |
| (考古学と自然科学　第20号, 1988) | | |
| 炭素安定同位体比法による古代食性の研究 | 小池裕子 | 〃 |
| 埼玉大学紀要(総合篇)　第6巻　別刷 | | |
| 炭素安定同位体比法による日本産哺乳動物の食性分析法の検討 | 同 | 〃 |
| 埼玉大学紀要(自然科学篇)　第24巻　別刷 | | |
| 水産動物の脂肪酸組成について | 同 | 〃 |
| 埼玉大学紀要(自然科学篇)　第24巻　別刷 | | |
| 高宕山ニホンザルＴ－1群の骨格標本を用いた | | |
| 年齢査定と骨成長について | 同 | 〃 |
| 西広貝塚第4次晩期貝層　鹿角骨歯による年齢調査データ | 同 | 〃 |
| 長野市立博物館だより　第13号 | 長野市立博物館 | 1. 2. 1 |
| おおとね　Vol.10　No.3 | 千葉県立大利根博物館 | 1. 2. 2 |
| 名古屋市博物館だより　66 | 名古屋市博物館 | 〃 |
| 発掘が語る秋田の歴史 | 中川友次郎 | 1. 2. 6 |
| 資料館だより　Vol.14　No.5 | 沼津市歴史民俗資料館 | 1. 2. 7 |
| 総南博物館報　第39号 | 千葉県立総南博物館 | 1. 2. 8 |
| ㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告　第78集 | ㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団 | 〃 |
| 歴史読本３　第34巻第５号 | 市原市教育委員会 | 〃 |
| 世界の舌出し民俗 | 大田区立郷土博物館 | 1. 2.10 |
| 滋賀埋文ニュース　第106号 | 滋賀県教育委員会 | 1. 2.15 |
| 特別展　古墳　かざり大刀の世界 | 埼玉県立博物館 | 〃 |
| 大坂城跡Ⅲ | ㈶大阪市文化財協会 | 〃 |
| なりた　No.44 | 成田山霊光館 | 1. 2.16 |
| 成田山ゆかりの人々 | 同 | 〃 |
| 千葉県立美術館報　Vol.15　No.4 | 市原市教育委員会 | 1. 2.20 |
| 笠原南遺跡発掘調査報告書 | ㈶滋賀県文化財保護協会 | 〃 |
| 錦織・南滋賀遺跡発掘調査概要Ⅱ | 同 | 〃 |
| ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書　Ⅳ－３ | 同 | 〃 |
| 同　　Ⅳ－４ | 同 | 〃 |
| 一般国道8号(長浜バイパス)関連遺跡発掘調査報告書Ⅴ | 同 | 〃 |
| 文化財教室シリーズ　101～104 | 同 | 〃 |
| 千葉県立中央博物館要覧 | 千葉県立中央博物館 | 1. 2.21 |
| 千葉県立中央博物館常設展示解説書 | 同 | 〃 |
| ㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書　79 | ㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団 | 1. 2.23 |
| 敷地天神山遺跡群 | 石川県立埋蔵文化財センター | 〃 |
| 吉崎・次場遺跡 | 同 | 〃 |
| 下安原海岸遺跡 | 同 | 〃 |
| 石川県能美郡辰口町岩内遺跡 | 同 | 〃 |
| 八田中遺跡 | 同 | 〃 |
| 五十里Ａ遺跡 | 同 | 〃 |

| 書　　名 | 寄　贈　者 | 受入日 |
|---|---|---|
| 竹生野遺跡 | 石川県立埋蔵文化財センター | 1. 2.23 |
| 白江梯川遺跡Ⅰ | 同 | 〃 |
| 津幡町刈安野々宮遺跡 | 同 | 〃 |
| 石川県能美郡辰口町辰口西部遺跡群Ⅰ | 同 | 〃 |
| 石川県立埋蔵文化財センター年報　第8号 | 同 | 〃 |
| 早大所沢文化財調査室月報　No.16 | 田中新史 | 〃 |
| 同　No.25 | 同 | 〃 |
| 東京都遺跡調査研究発表会　14　発表要旨 | 東京都教育庁 | 1. 2.25 |
| 埋文とやま第25号 | 富山県埋蔵文化財センター | 〃 |
| 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団10年のあゆみ | ㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団 | 〃 |
| 月刊考古学ジャーナル　No.302 | (株)ニュー・サイエンス社 | 〃 |
| 江戸遺跡研究会会報　No.18 | 江戸遺跡研究会 | 1. 2.27 |
| 宮地前遺跡 | 別府大学付属博物館 | 〃 |
| 別府大学付属博物館だより　No.31, 32 | 同 | 〃 |
| 柏市埋蔵文化財調査報告書　14 | 柏市教育委員会 | 1. 2.28 |
| 京都文化博物館(仮称)研究紀要　第1集 | 京都府京都文化博物館 | 1. 3. 1 |
| 京都文化博物館(仮称)調査研究報告　第1集 | 同 | 〃 |
| 同　第2集 | 同 | 〃 |
| 同　第3集 | 同 | 〃 |
| 京都府埋蔵文化財情報　第30号 | ㈶京都府埋蔵文化財調査研究センター | 1. 3. 2 |
| 廣瀬井手日記(二) | 別府大学付属博物館 | 1. 3. 3 |
| 埋蔵文化財愛知　No.15 | ㈶愛知県埋蔵文化財センター | 〃 |
| 日本列島発掘展　東人の原貌 | 東京大丸 | 〃 |
| いちはらの文化財　市制施行25周年記念 | 市原市教育委員会 | 〃 |
| 長野県埋蔵文化財センター年報　4 | ㈶長野県埋蔵文化財センター | 1. 3. 7 |
| 長野県埋蔵文化財ニュース　No.25・26 | 同 | 〃 |
| 上小岩遺跡Ⅰ | 江戸川区教育委員会 | 〃 |
| 埼玉県比企郡鳩山窯跡群Ⅰ | 鳩山窯跡群遺跡調査会 | 〃 |
| 文化財調査報告書　第18集 | 前橋市教育委員会 | 〃 |
| 柳久保遺跡群Ⅴ | 同 | 〃 |
| 元総社明神遺跡Ⅵ | 同 | 〃 |
| ㈶君津郡市文化財センター現地説明会資料　第17集 | 宮本敬一 | 〃 |
| 資料館報　No.18 | 埼玉県立さきたま資料館 | 1. 3. 8 |
| 稲荷山古墳出土鉄剣金象嵌銘概報 | 同 | 〃 |
| 東京都埋蔵文化財センター年報　8 | ㈶東京都教育文化財団東京都埋蔵文化財センター | 〃 |
| 東京都埋蔵文化財センター調査報告　第9集 | 同 | 〃 |
| 滋賀埋文ニュース　第107号 | 滋賀県教育委員会 | 1. 3.13 |
| 特別展　古墳　かざり大刀の世界 | 近藤　敏 | 〃 |
| 古代を考える　古墳 | (株)吉川弘文館 | 1. 3.14 |
| 葦火　18号 | ㈶大阪市文化財協会 | 1. 3.15 |
| 八王子城跡　X | 八王子市教育委員会 | 1. 3.16 |
| 博物館概要 | 千葉県立上総博物館 | 〃 |
| ひろしまの遺跡　第36号 | ㈶広島県埋蔵文化財調査センター | 1. 3.17 |
| 古代の美とロマンをもとめて「日本列島発掘展」 | 「日本列島発掘展」企画実行委員会事務局 | 〃 |

| 書　　名 | 寄　贈　者 | 受入日 |
|---|---|---|
| 浦和市遺跡調査会報告書　第91集 | 浦和市遺跡調査会 | 1. 3.18 |
| 同　第101集 | 同 | 〃 |
| 同　第104集 | 同 | 〃 |
| 同　第105集 | 同 | 〃 |
| 同　第108集 | 同 | 〃 |
| 国立歴史民俗博物館研究報告　第16集 | 国立歴史民俗博物館 | 〃 |
| 同　第17集 | 同 | 〃 |
| 同　第18集 | 同 | 〃 |
| おおとね　Vol.10　No.4 | 千葉県立大利根博物館 | 1. 3.22 |
| ㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告　第81集 | ㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団 | 1. 3.23 |
| 調布市郷土博物館だより　No.30 | 調布市郷土博物館 | 1. 3.25 |
| 一宮市博物館博物館だより　No.5 | 一宮市博物館 | 〃 |
| 新免遺跡第11次発掘調査報告書 | 豊中市教育委員会 | 〃 |
| 豊中市制施行50周年記念・歴史と文化シンポジウム | 同 | 〃 |
| 邪馬台国から倭の五王へ | | |
| 鳥取埋文ニュース　No.22 | 鳥取県埋蔵文化財センター | 1. 3.27 |
| 浜松市博物館だより　Vol.7－4　No.25 | 浜松市博物館 | 〃 |
| 浜松市博物館報　I | 同 | 〃 |
| 成田山ミニガイド　5　成田山の数え歌(1) | 成田山霊光館 | 〃 |
| 同　6　成田山の数え歌(2) | 同 | 〃 |
| 同　7　魯文作『成田山御利生記』 | 同 | 〃 |
| 千葉県立中央図書館刊「資料の広場」　No.19(1988年)別刷 | 中山吉秀 | 〃 |
| 千葉県の河川と低地遺跡 | | |
| 松本市立考古博物館(概要) | 松本市立考古博物館 | 〃 |
| 三間沢川左岸遺跡(I) | 同 | 〃 |
| 鎌ヶ谷市埋蔵文化財調査報告　第4集 | 鎌ヶ谷市教育委員会 | 1. 3.29 |
| 船橋市郷土資料館資料館だより　第44, 45号 | 船橋市郷土資料館 | 〃 |
| 第50回　展示資料観覧の手びき | 同 | 〃 |
| 第51回　同 | 同 | 〃 |
| 第52回　同 | 同 | 〃 |
| 第30回　郷土史講座講義録 | 同 | 〃 |
| 第31回　同 | 同 | 〃 |
| 都田地区発掘調査報告書　上巻 | ㈶浜松市文化協会 | 〃 |

# 市原市文化財センター年報

（昭和63年度）

平成 6 年 3 月 31 日　発行

発　行　　財団法人　市原市文化財センター

〒290　千葉県市原市能満1489番地

TEL　0436(41) 9 0 0 0

印　刷　　三　陽　工　業　株　式　会　社

〒290　千葉県市原市五井5510の 1

TEL　0436(22) 4 3 4 8